



109

文学女子に

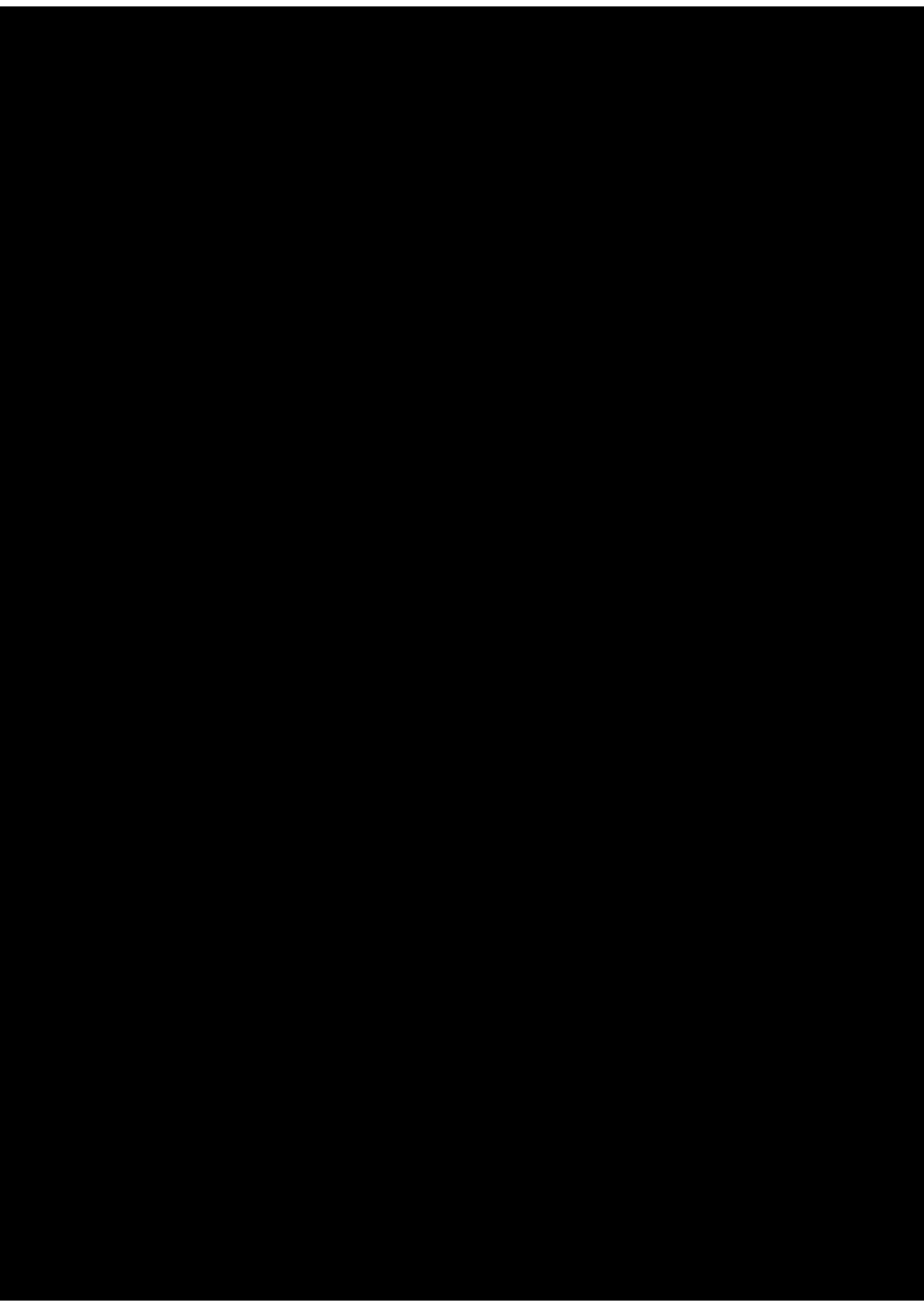
食べられる

6

女性優位
徹底責められ

最終話!

サークルひまわりのたね 種乃なかみ



文学女子に食べられる ⑥

大学の文学サークルで知り合い、付き合う事になった読書家の僕達二人。
お互い根暗でひとりぼっちだった僕達は、
彼女からの熱烈で濃密なアプローチにより恋仲になりました。

孤立していて童貞だった僕を愛してくれた唯一の人……。

彼女からの誘いにより、彼女の部屋で
同棲する事になってからしばらく経った頃、
彼女は小説を書き続けていて、
新人作家として名を上げ始めていました。

その頃には僕も彼女に影響を受けて、
彼女と同じように、
フリーランスとして生きていく道を選び、
ネットで記事や小説を発表するようになりました。
僕達二人はある程度のお金を得られるまでになって、
二人で家に籠りきりの生活をしていました。

二人だけの毎日……。
家に籠って、毎日読書と執筆をして、
そして毎日彼女の部屋で
彼女に愛情たっぷり犯され食べられて……。

かつての何も無かった自分からすると、
夢のような生活を送っていました……。

二人だけの……閉鎖的で魅惑的な日々を……。

そんな生活を続けていたある日、
彼女は突然かしこまって、
僕を夜のデートに誘ってきました…。

いつも、部屋に二人で籠りっきりで、

読書と文筆と

そして体を通して愛を確かめ合う事に
没頭する毎日をおくっていて、

どこかに出かけるなんて、
全然無い毎日だったのに……。

彼女に誘われ、夜のデートで行った先は、
あの思い出の静かな個室居酒屋でした…。

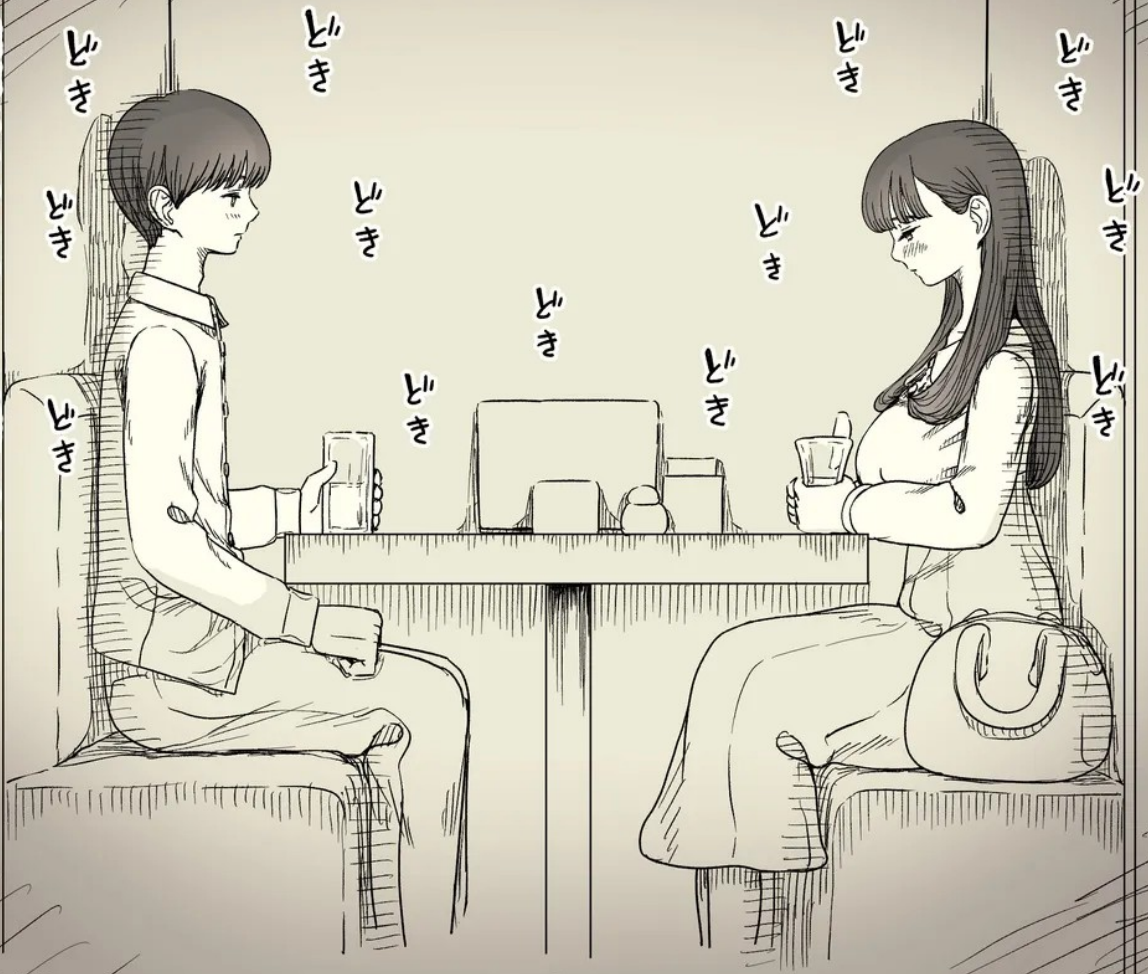
僕達が初めて一緒に行った居酒屋……
彼女と初めてちゃんと会話をした居酒屋……
彼女にあの告白をされた居酒屋……

よく見れば、服装も、
あの日と同じものを彼女は着ている事に気付きました。

今日の彼女は、初々しいほどによそよそしく、
そんな彼女の態度に僕もあの頃の気持ちを思い出し、
ドキドキしてしまいました……



今日は何の記念日でも特別な日でもないのに……
彼女は一体、どういうつもりで……



僕達はいつものように無口で、
ゆっくりとお酒を飲みながら、そんな事を思っていると、
彼女はついに口を開きました……

「子供が…欲しいの……」



子供が欲しいの……



私達二人の……



そろそろ…

そろそろ…?



まだ若く結婚もしていない僕達。
子供を作る事なんて。

僕は恥ずかしながら、今この言葉を聞くまで
意識していませんでした。

僕達の関係は、今までもずっと、
彼女が全て主導してきました。

こんな何の取り柄もない僕を、
こんなにも愛してくれ続けている彼女…。

今まで彼女と関わってきて、

彼女はとても愛情深い人だとわかっていたので、

本当の意味での一つに…。

子供まで作って、二人の人生を一つにしたい…。

その気持ちが伝わってきました…。

自信は何も無いままの僕だけど、

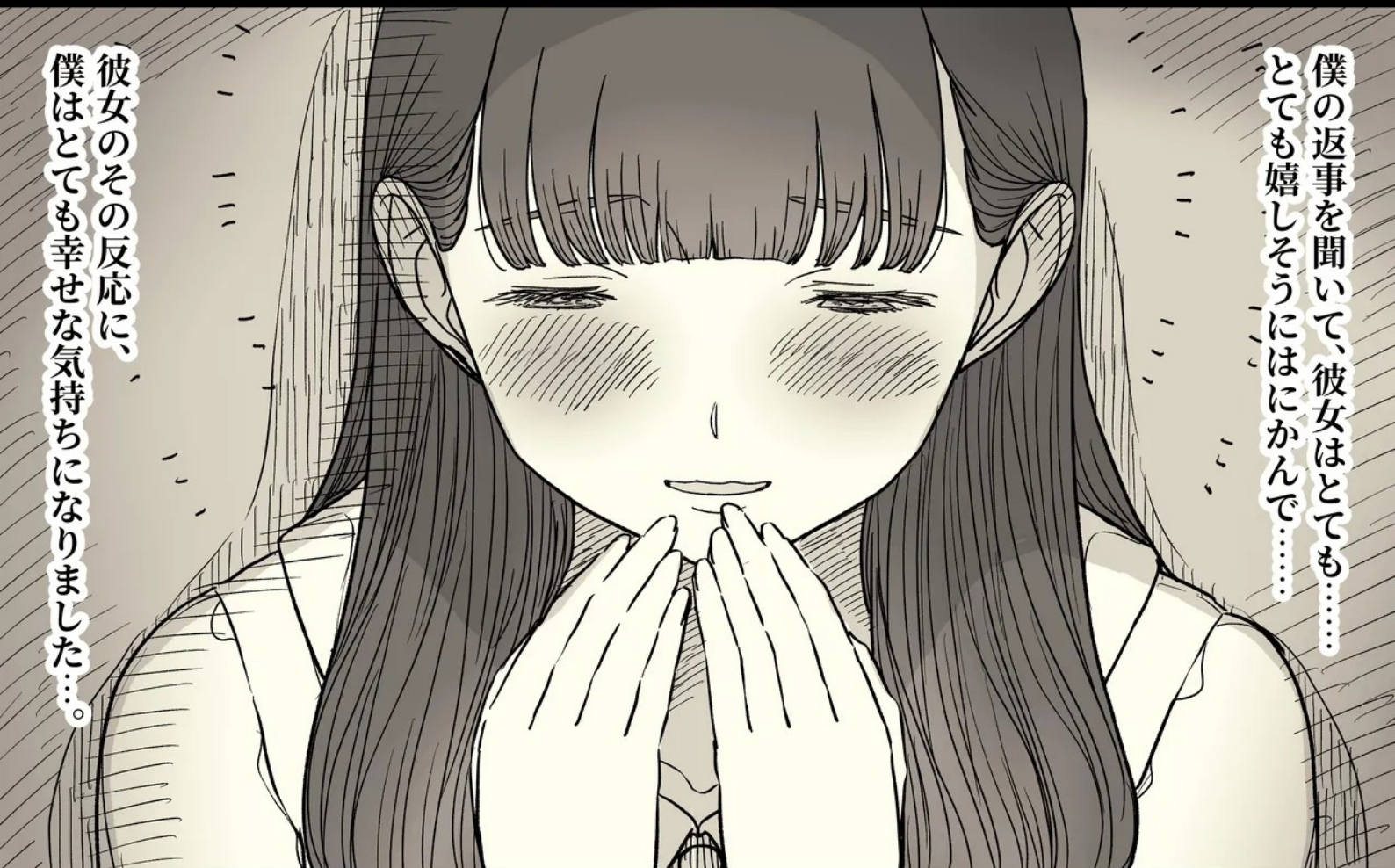
彼女と一緒に…。

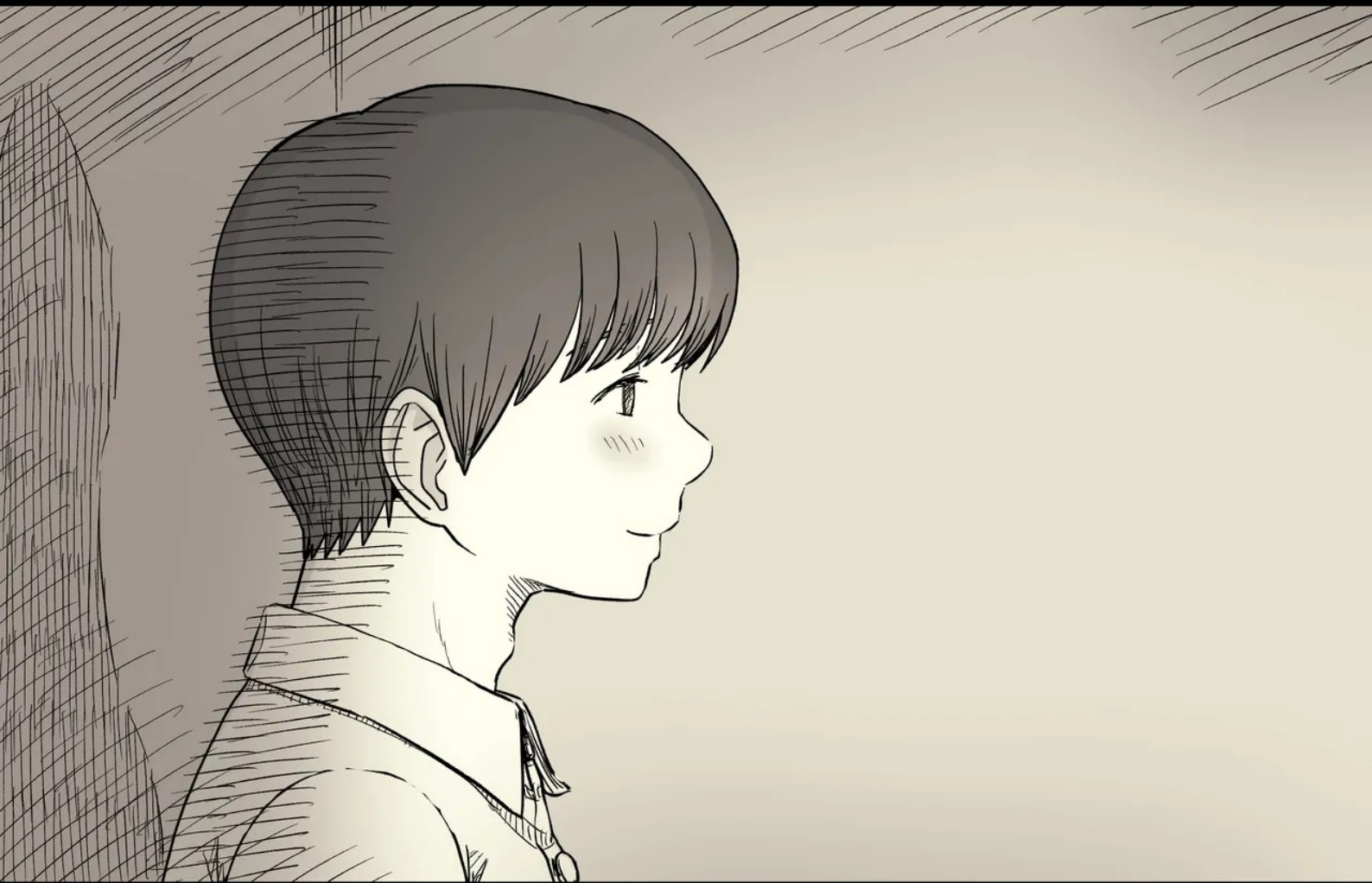
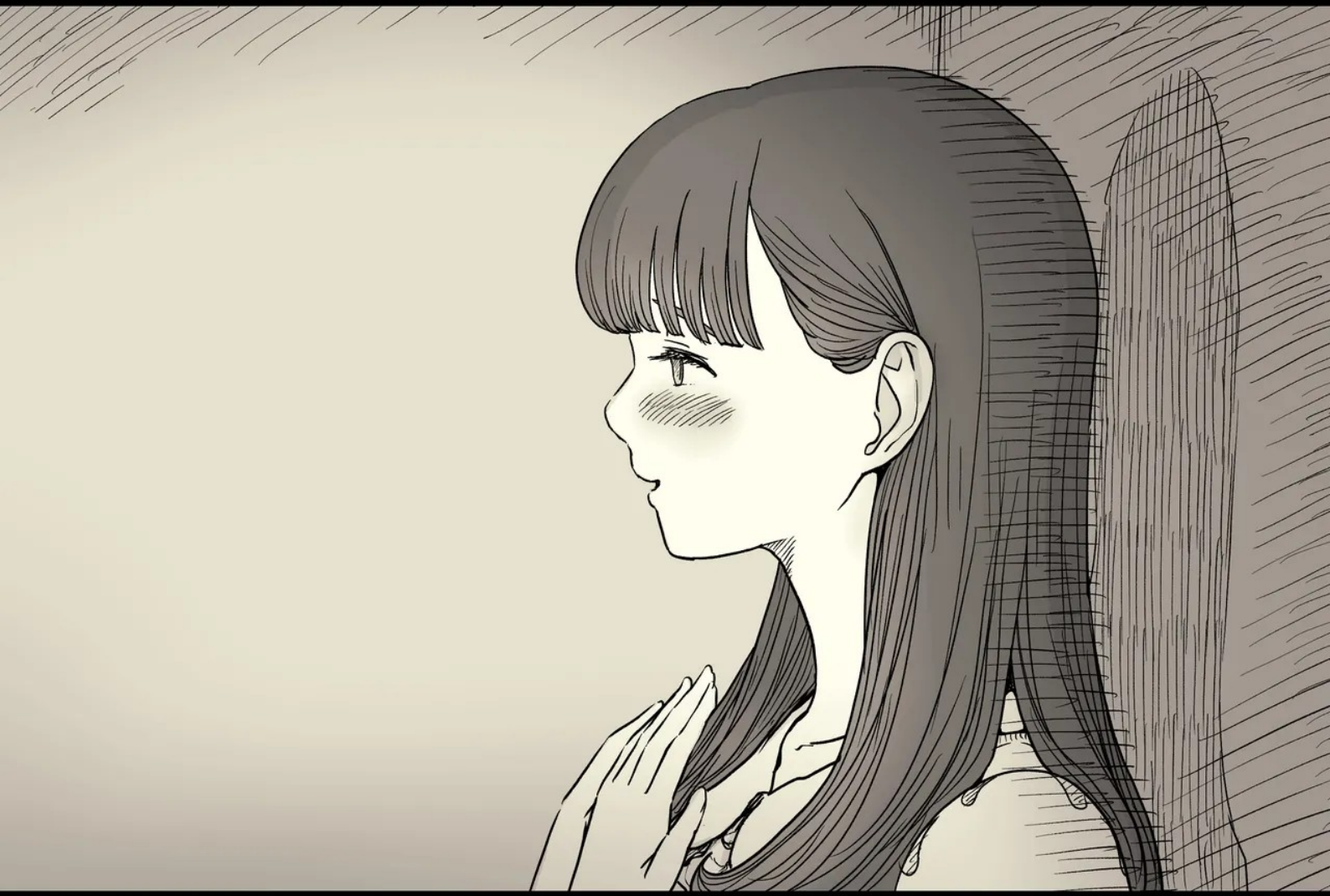
僕も彼女を本当の意味で幸せにしたい…。

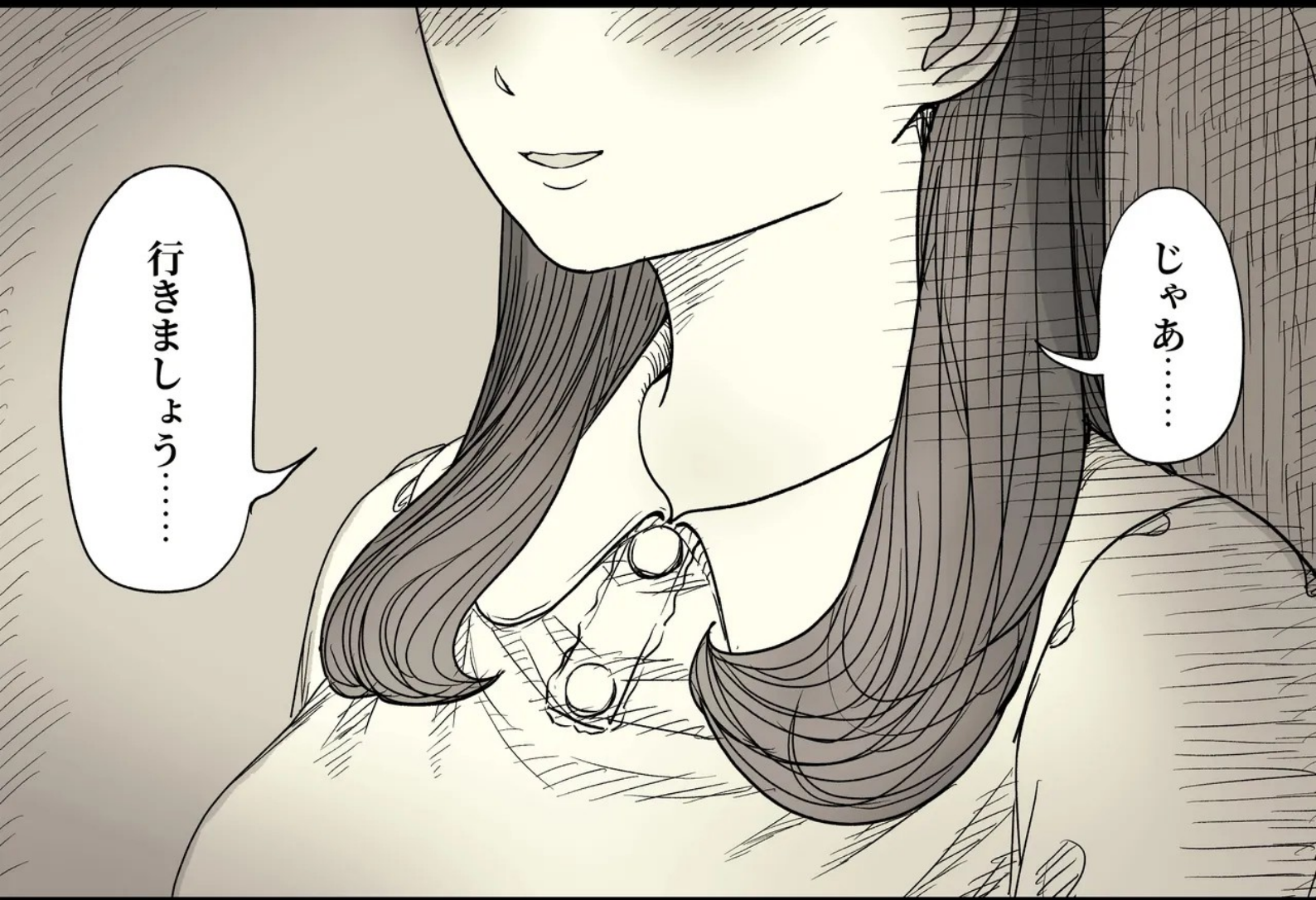
そう心の底から彼女を愛していました…。

そうして、

僕も覚悟を決めました…。







行きましよう……

じゃあ……



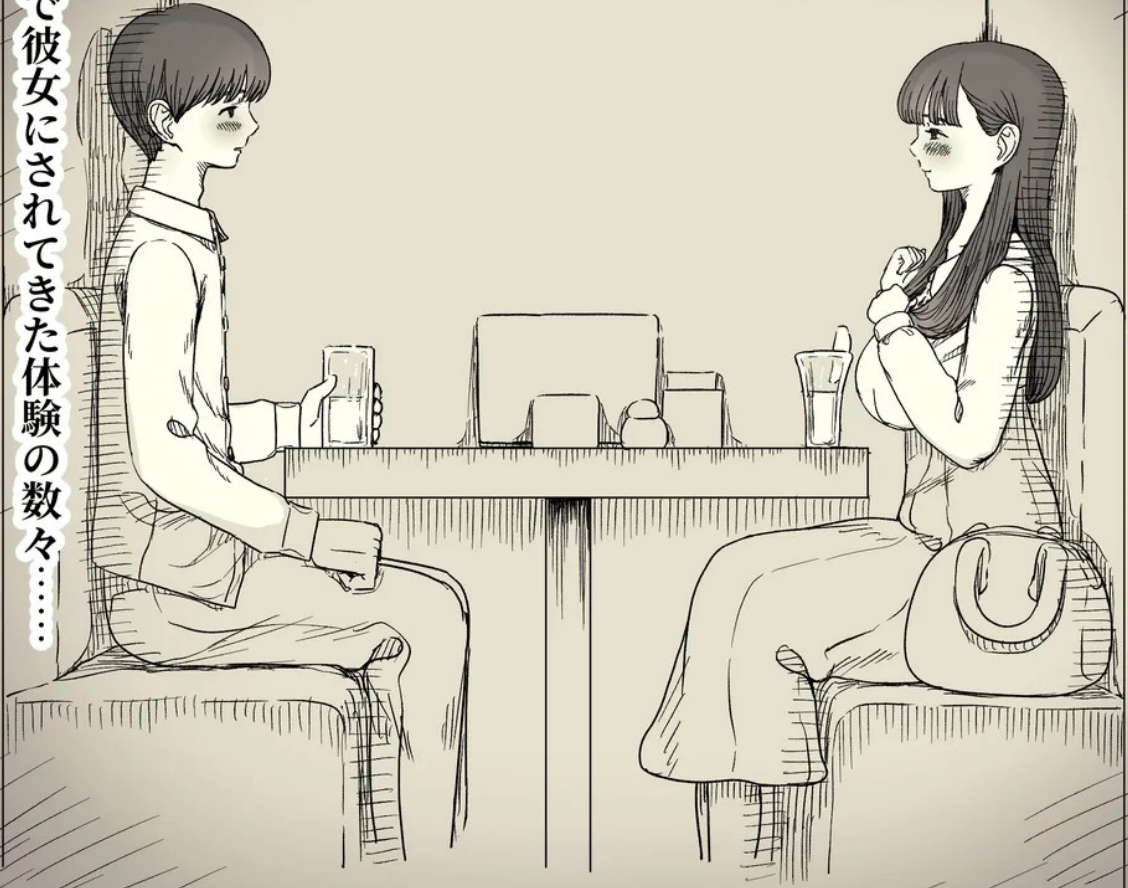
……え……？

彼女は熱っぽい表情を僕に向けながら…

一体僕をどこに連れて行こうというのか……

今まで彼女にされてきた体験の数々……

口数が少なく不思議な雰囲気を持つ彼女に
今日は一体、何をされてしまうのか……



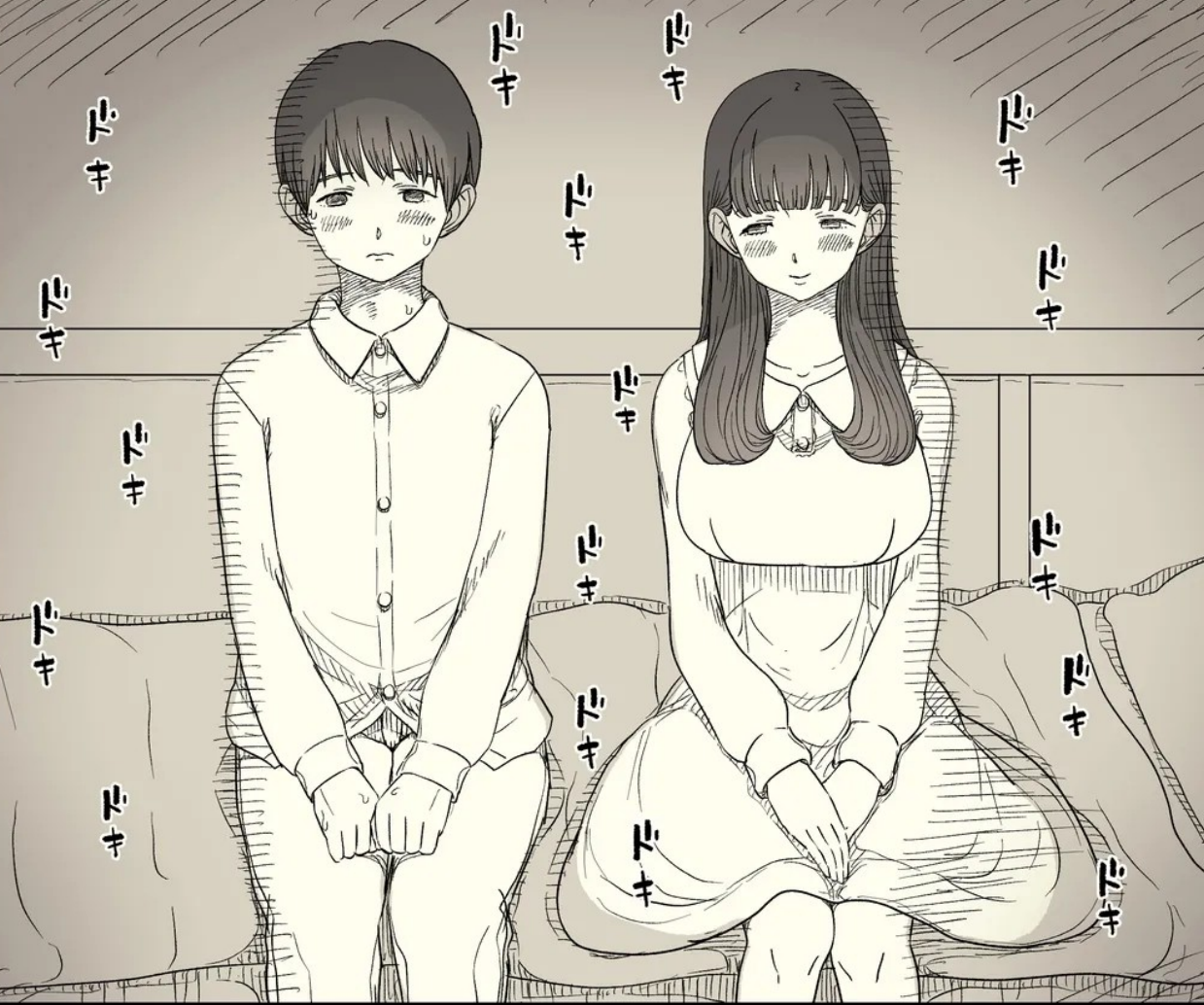
そんな事を思いながら……

僕は彼女に手を引かれ……

夜の街の奥へと歩いて行きました……

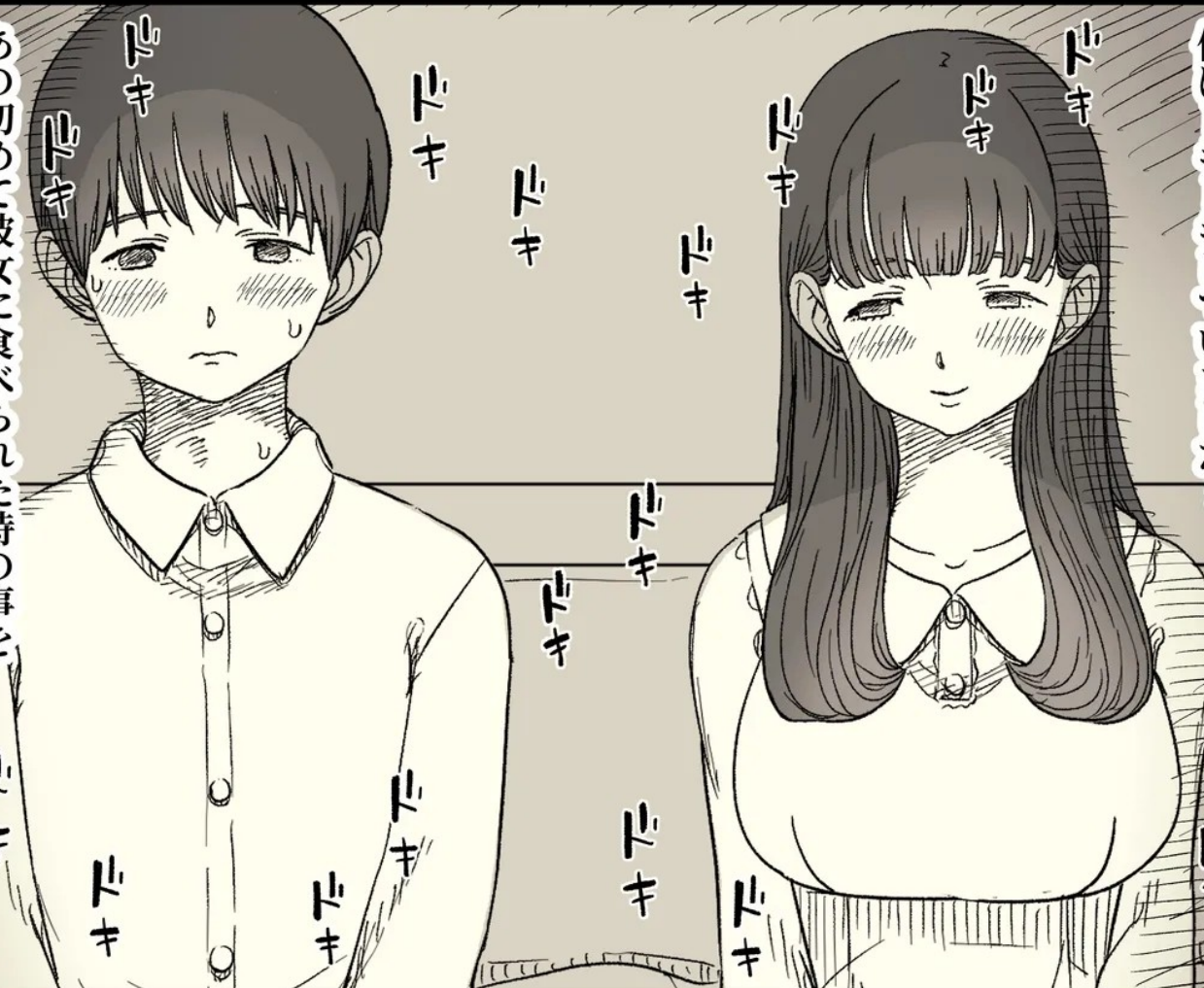
彼女に連れられて来た先は、ラブホテルでした…
僕はラブホテルに初めて入りました…

あの最初に彼女に童貞を食べられた日から、
ずっと彼女の自宅での関係だったので、
ラブホテルという場所に来るのは初めてだったので…。



セックスをするためだけの場所…
そんな場所に初めて連れられて来て
僕はドキドキしていました…

あの初めて彼女に食べられた時の事を
呼び起こすかのように…
彼女は淫靡な空気を出しながらよそよそしく
あの時と同じように…僕の横にそっと座り…



子供を欲しいと言われて、
同意してすぐにこんな所に連れて来るなんて……

もしかして、もう、
今日から……？



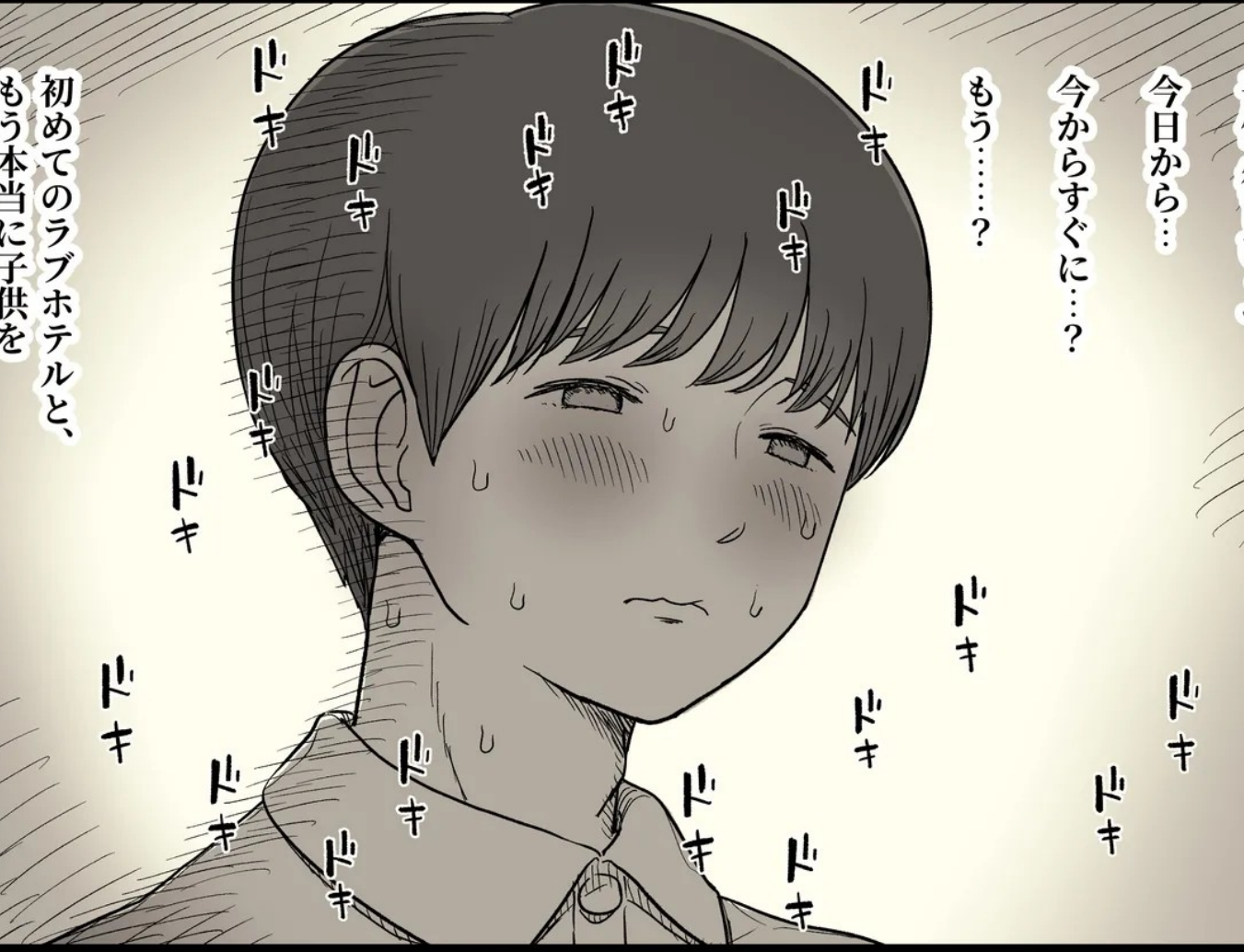
子供、欲しいって、

今日から……

今からすぐに……？

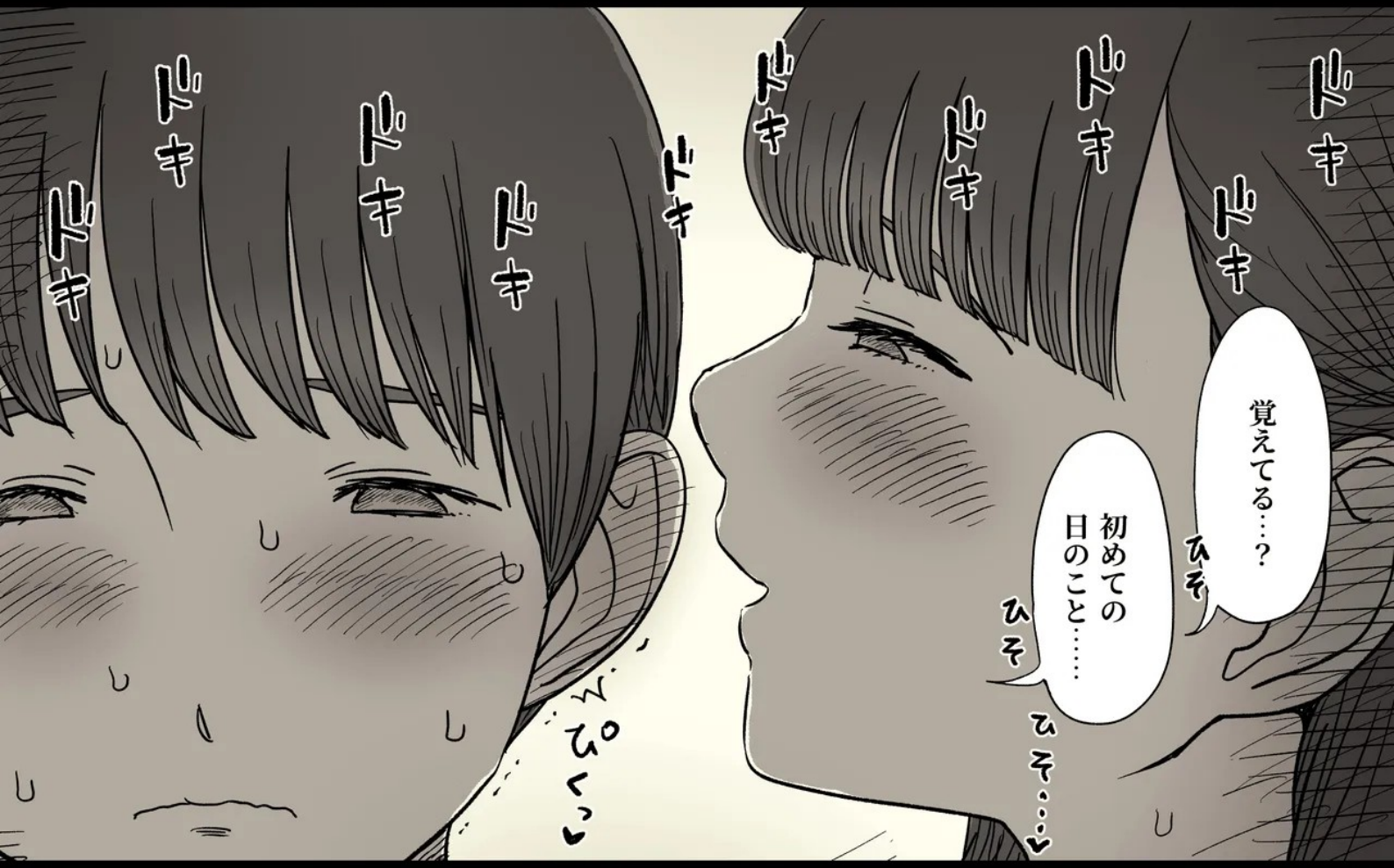
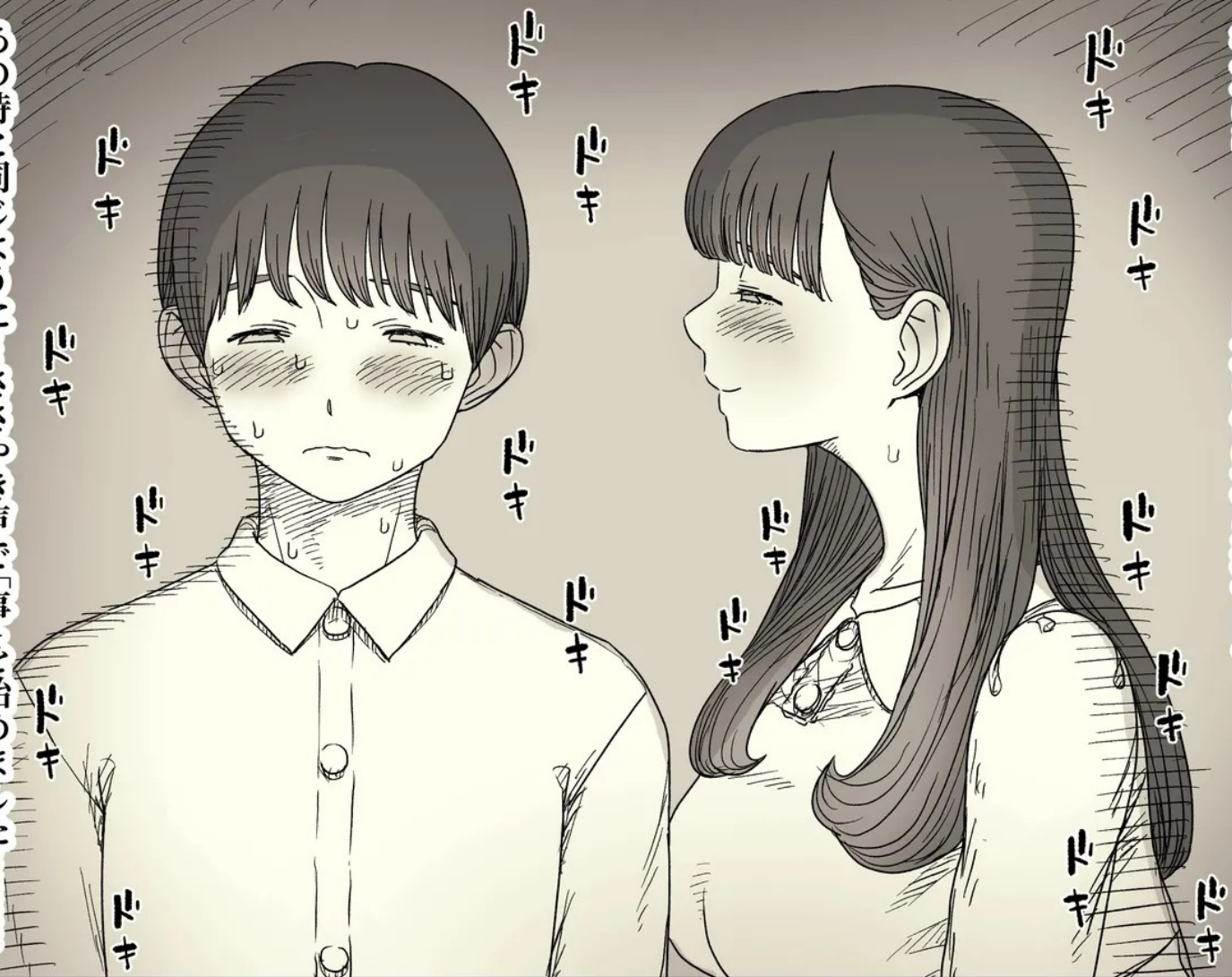
もう……？

初めてのラブホテルと、
もう本当に子供を
作ってしまうかもしれないという気持ちで
ドキドキが止まらなくなって……



そして、あの時と同じように……
彼女はゆっくりと口元を僕の耳に近づけて……

あの時と同じように……ささやき声で「事」を始めました……



覚えてる……?

初めての日のこと……

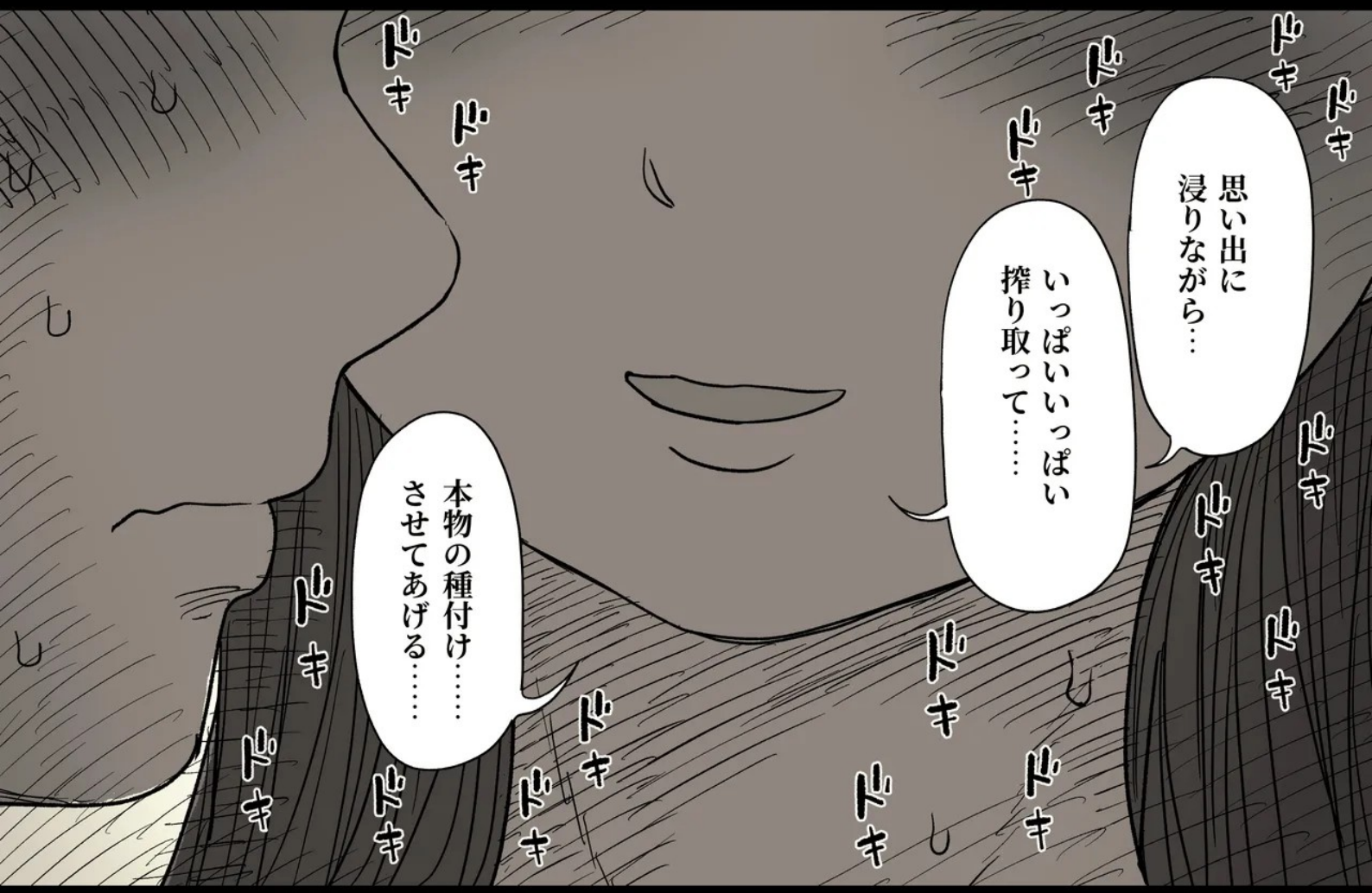


今まで
いっぱいいっぱい
積み重ねてきた…

私たち
二人だけの
愛のカタチ…

あの私達の
初めての
時からの事…

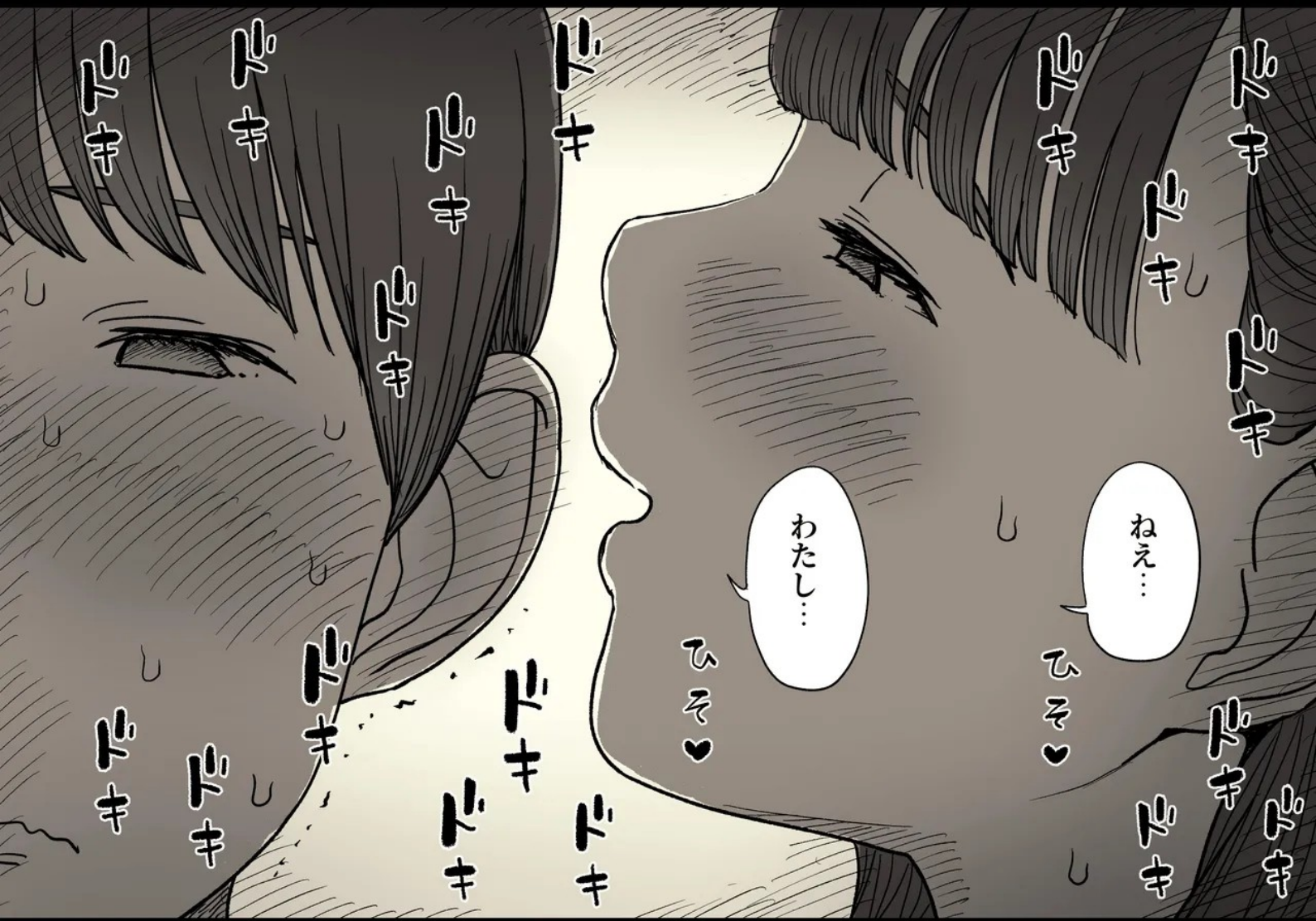
全部思い出
させてあげる…



思い出に
浸りながら…

いっぱい
いっぱい
搾り取って……

本物の種付け……
させてあげる……

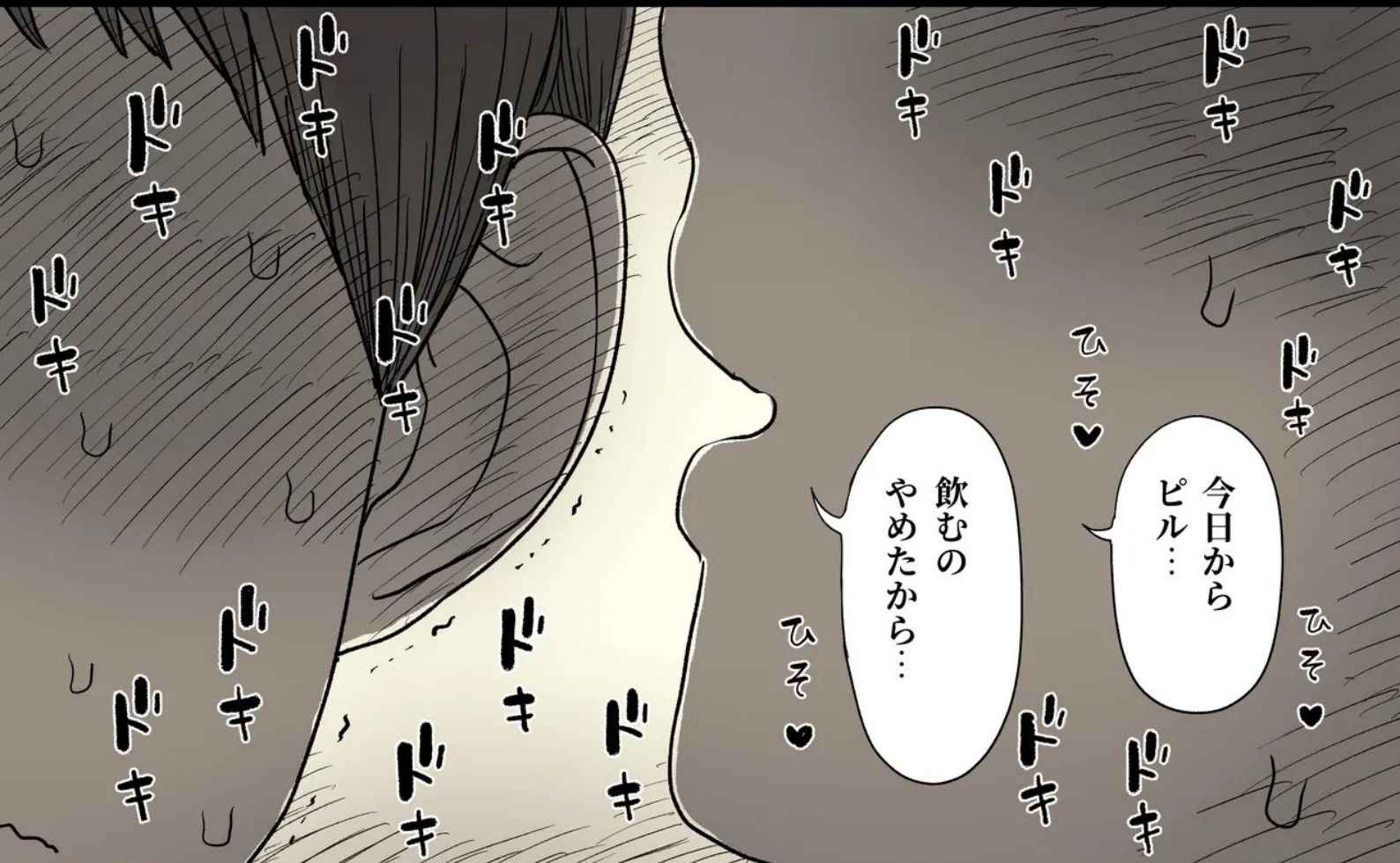


ねえ…

わたし…

ひそ♡

ひそ♡

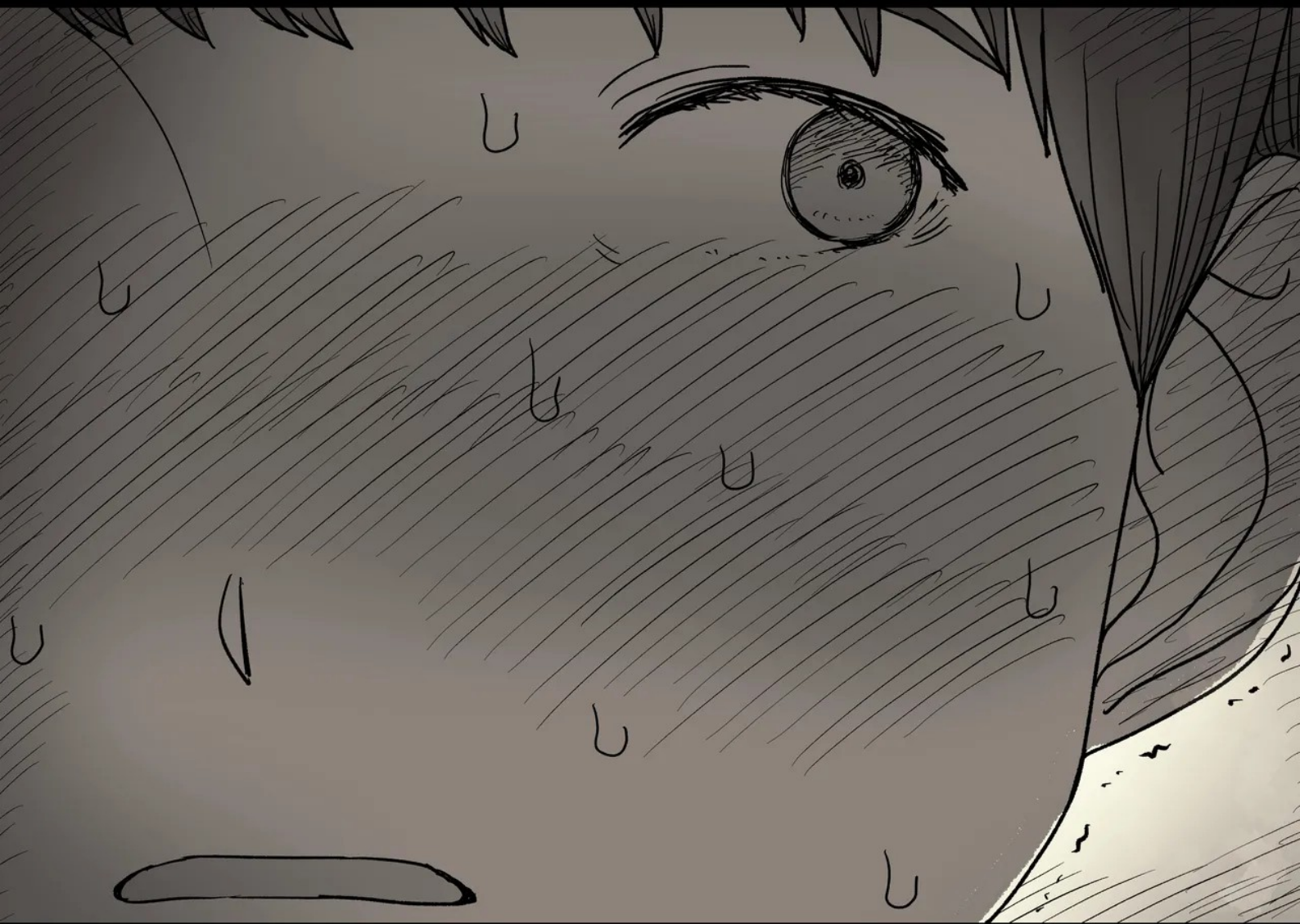


今日から
ピル:

飲むの
やめたから…

ひそ♡

ひそ♡





できちゃうよ...

はあ♡

子供...

はあ♡

はあ♡

はあ♡



くっくっ...♡

ゴク

はあ♡

はあ♡

ゴク

くっくっ♡

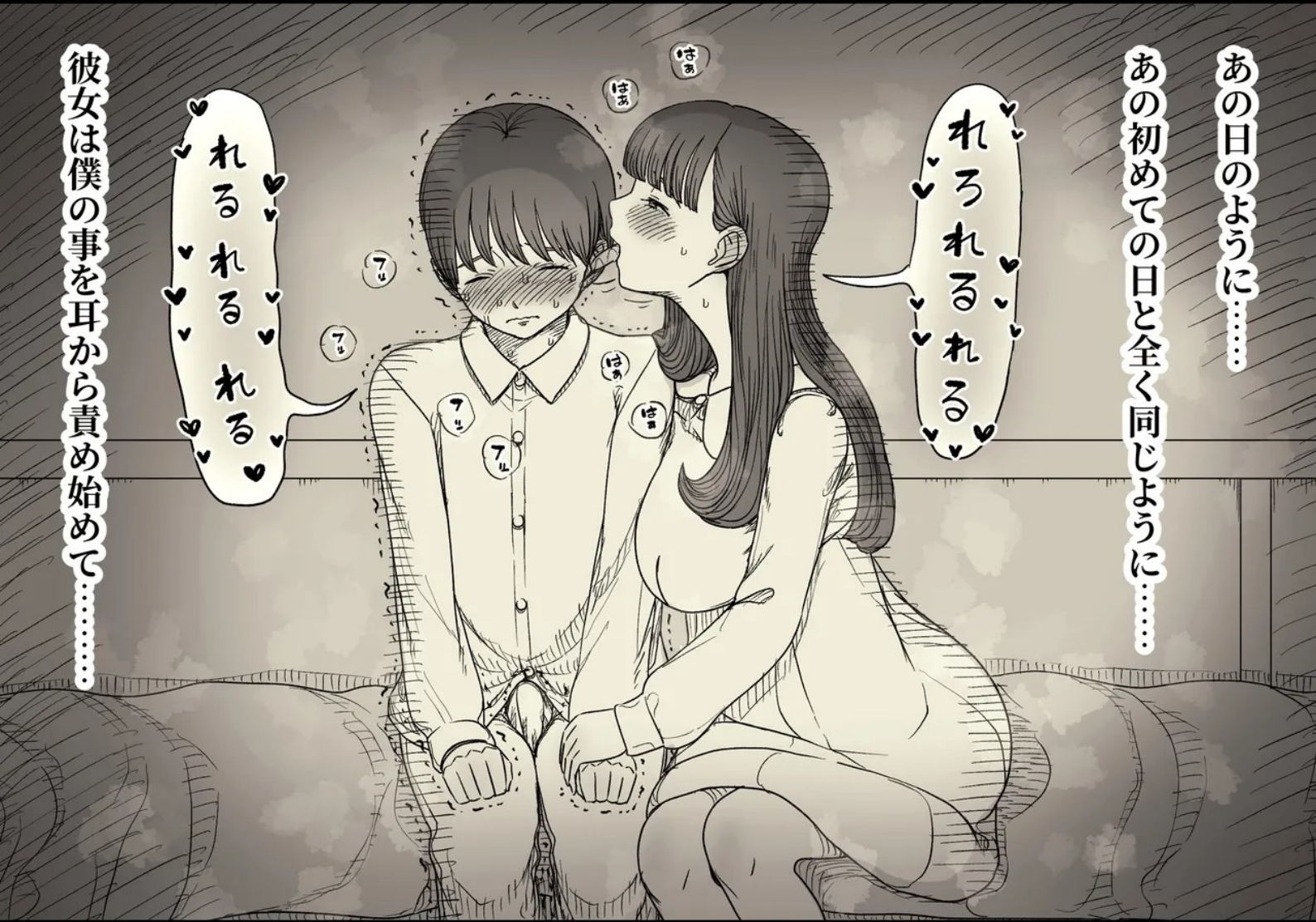
あの日のように……

あの初めての日と全く同じように……

れるれるれる

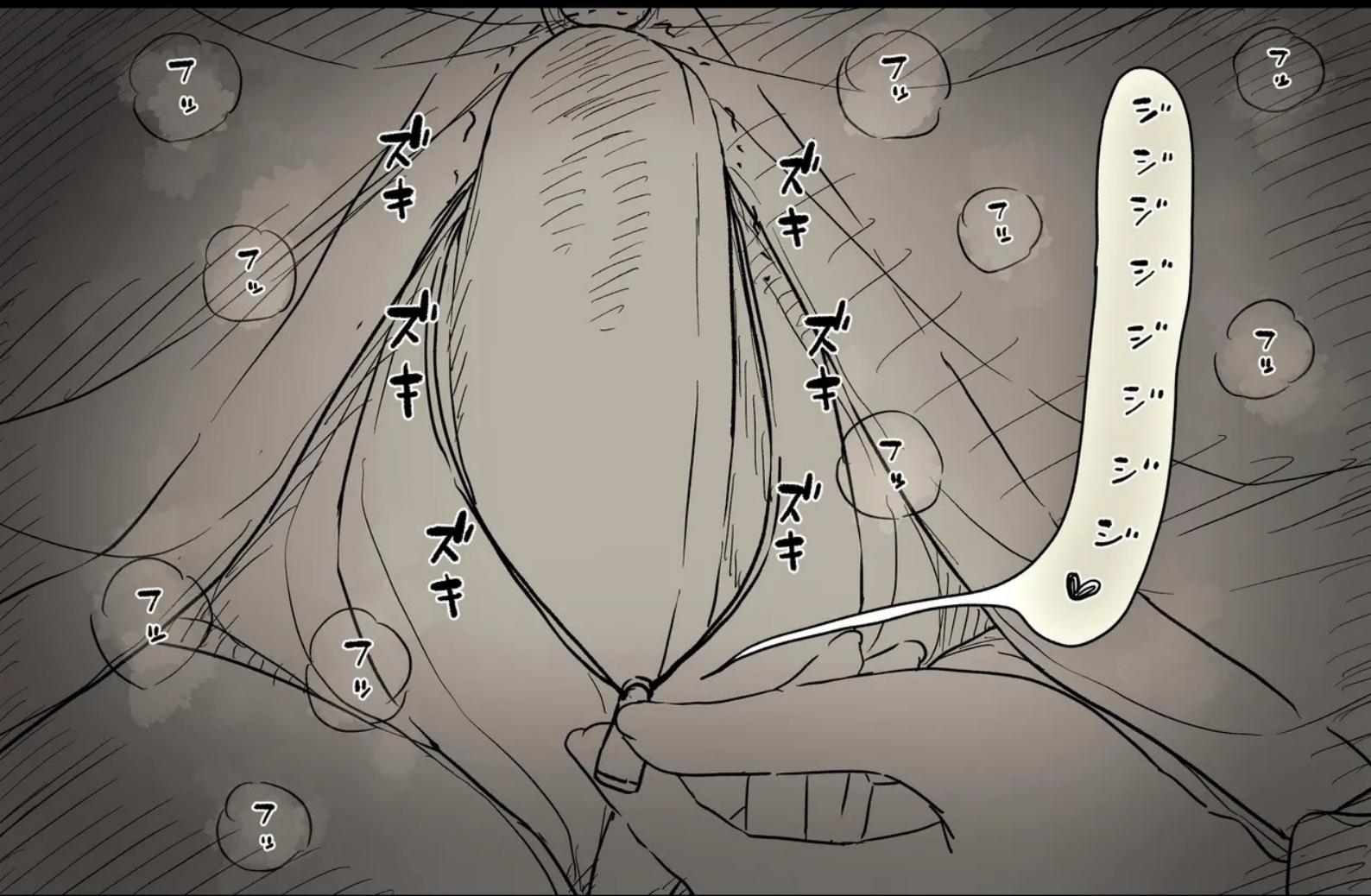
れるれるれる

彼女は僕の事を耳から責め始めて……



れるれるれるれるれる ぐゅ ぐゅ ぐゅ ぐゅ

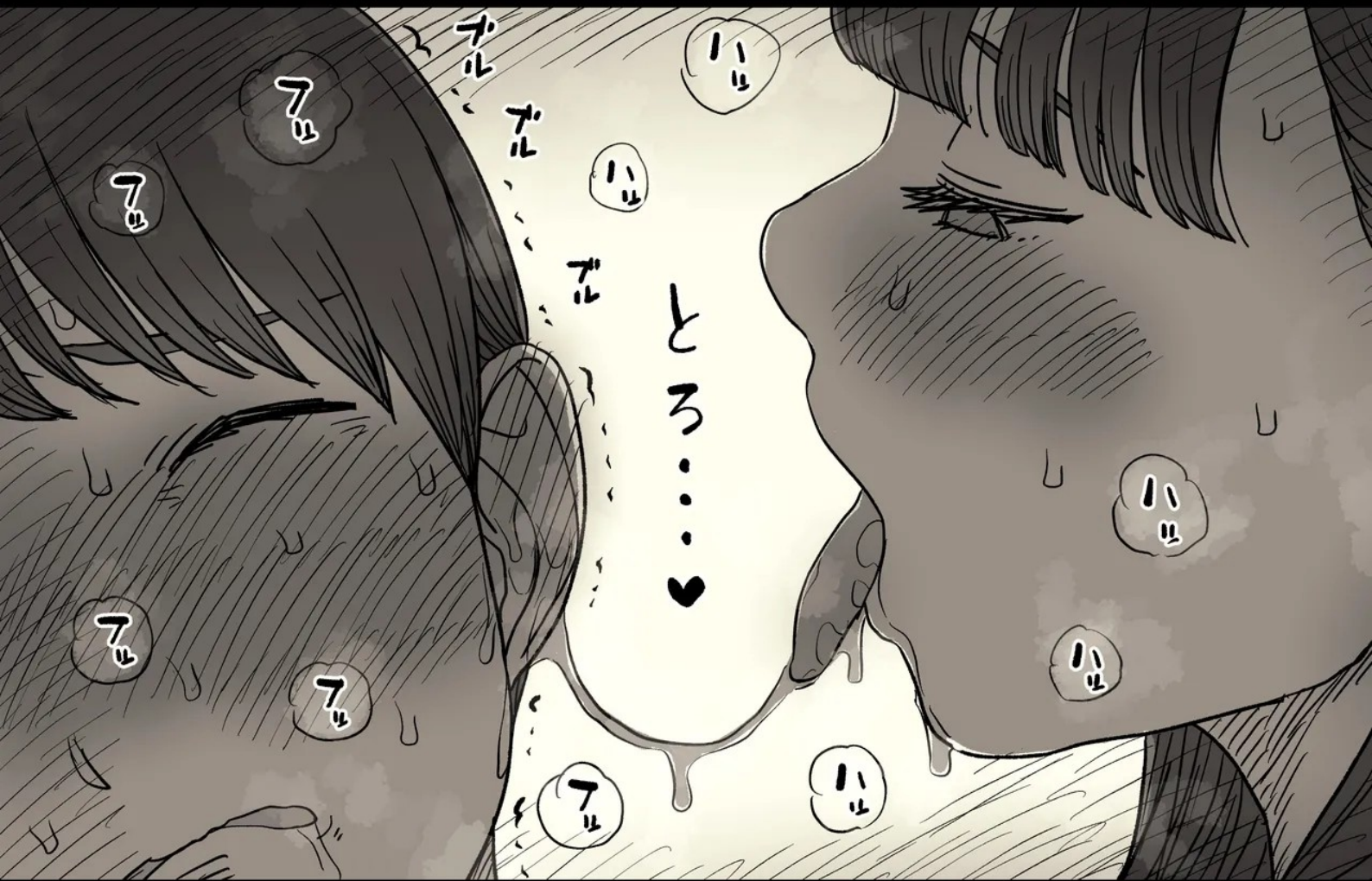
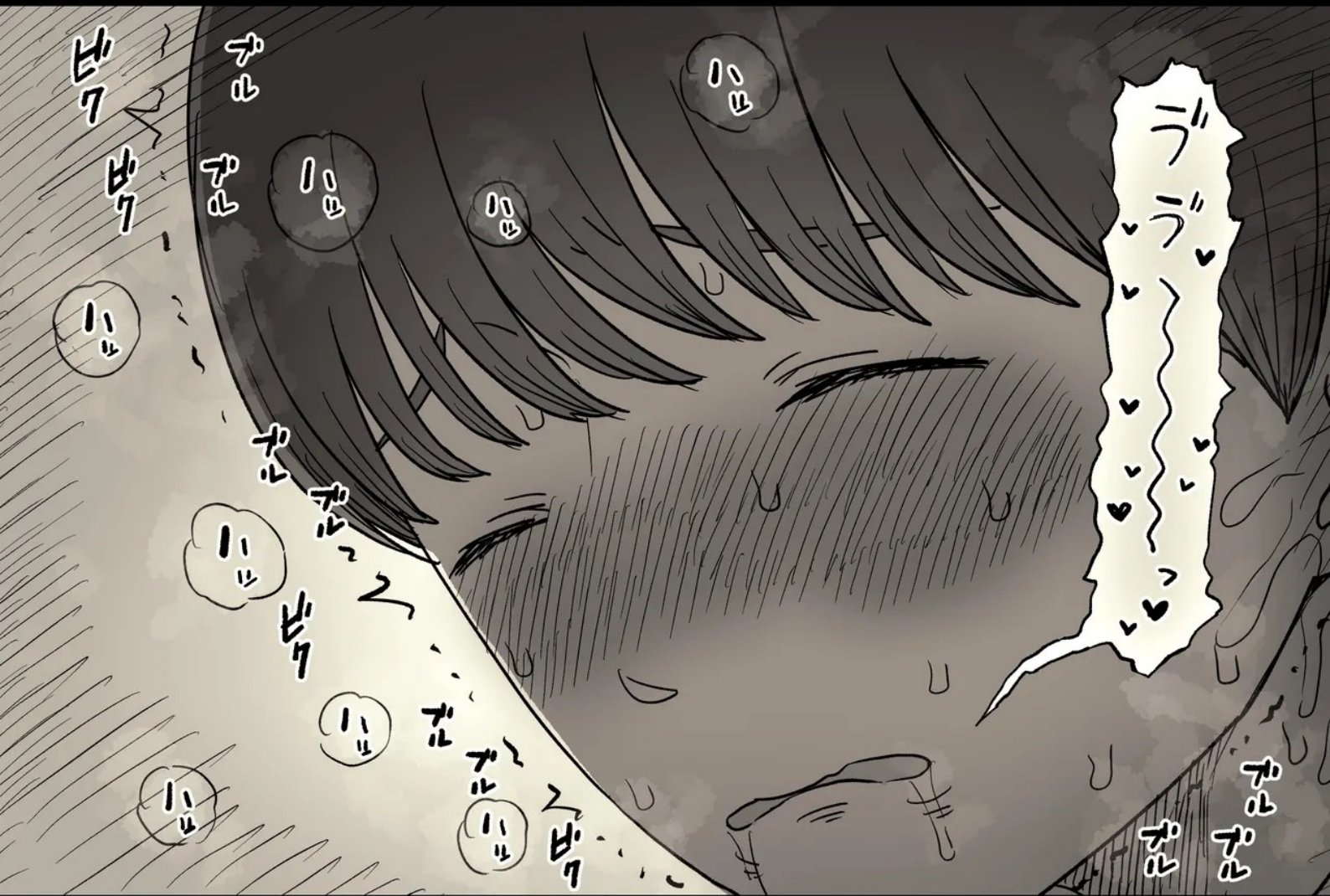




あの時のように耳を舐めながら...



僕の敏感に膨張しすぎた股間を
その白くて細くて柔らかい綺麗な手で
優しく優しく触って……





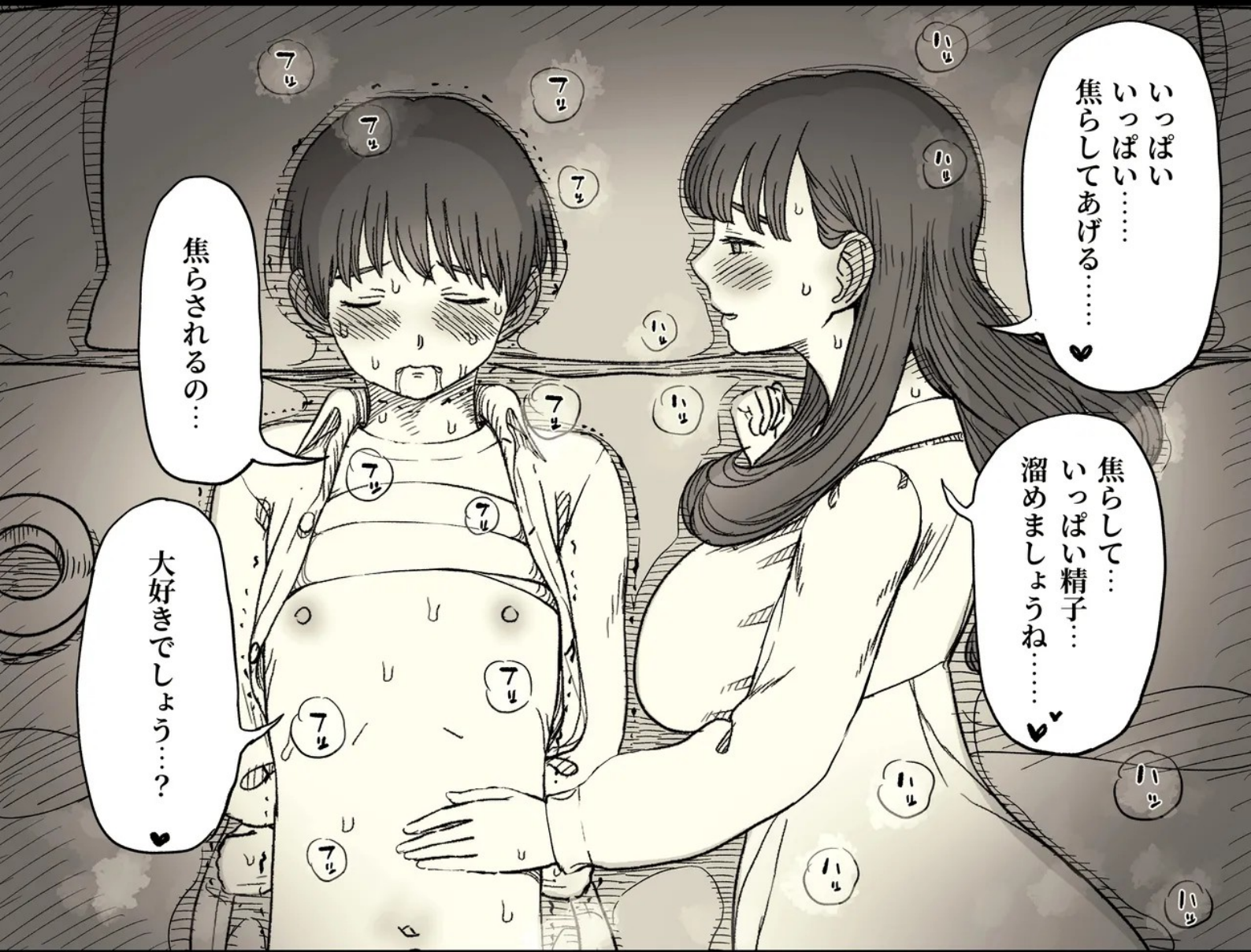
そして彼女は…
耳舐めの前戯で僕を完全に発情させた上で…

あの初めての時と同じように…
僕の手をガムテープで拘束して…

こんな道具まで持ってきてきていたなんて…
今日、居酒屋に行く前から既に…
僕を徹底的に襲うつもりだった事に
気付きました…

あの頃の事を思い出させながら…
僕の事を愛おしそうに見つめながら…
優しく蠱惑的な笑みを浮かべながら…



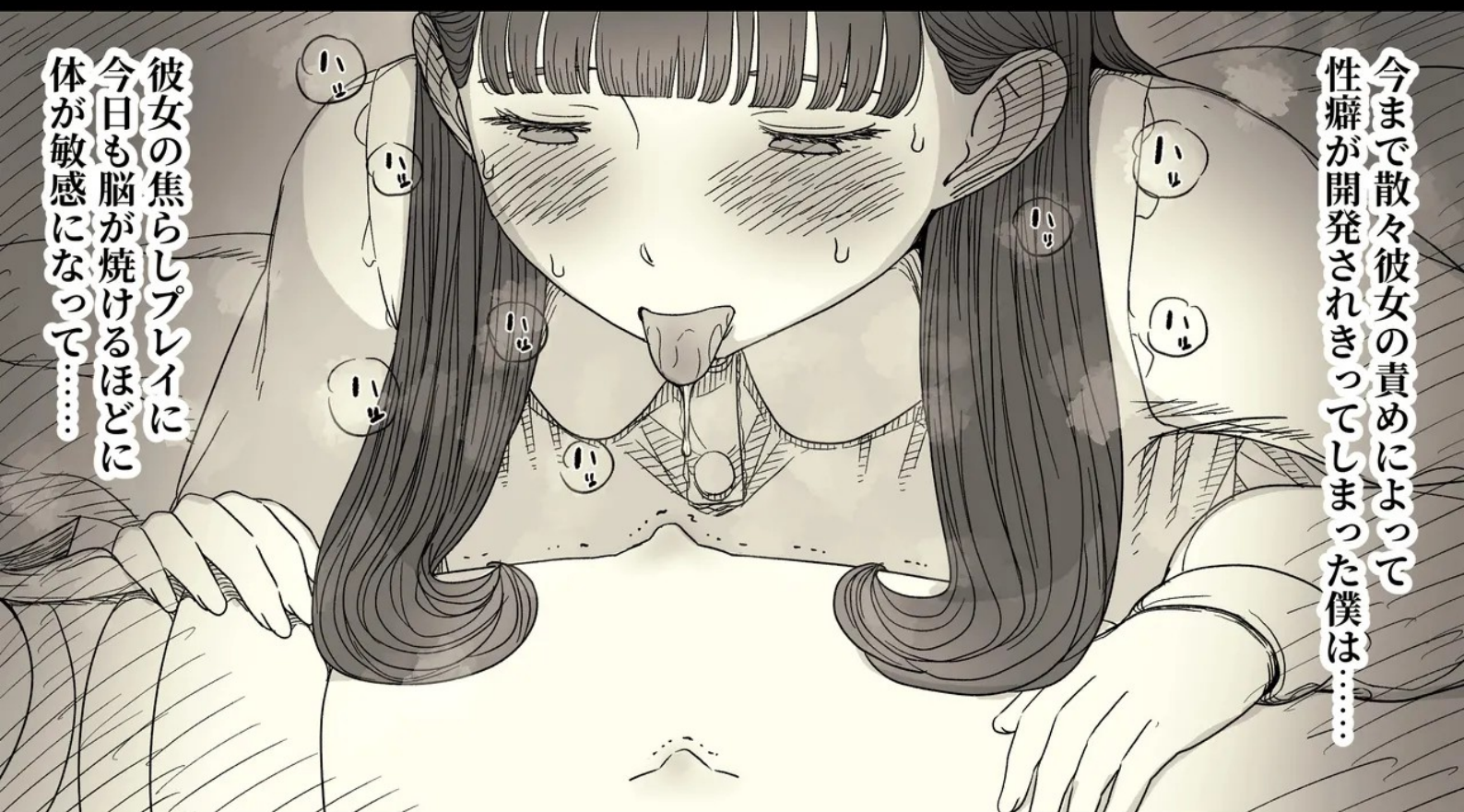


いっぱい
いっぱい
焦らしてあげる……♡

焦らされるの…

焦らして…
いっぱい精子…
溜めましょうね……♡

大好きでしょう…？♡



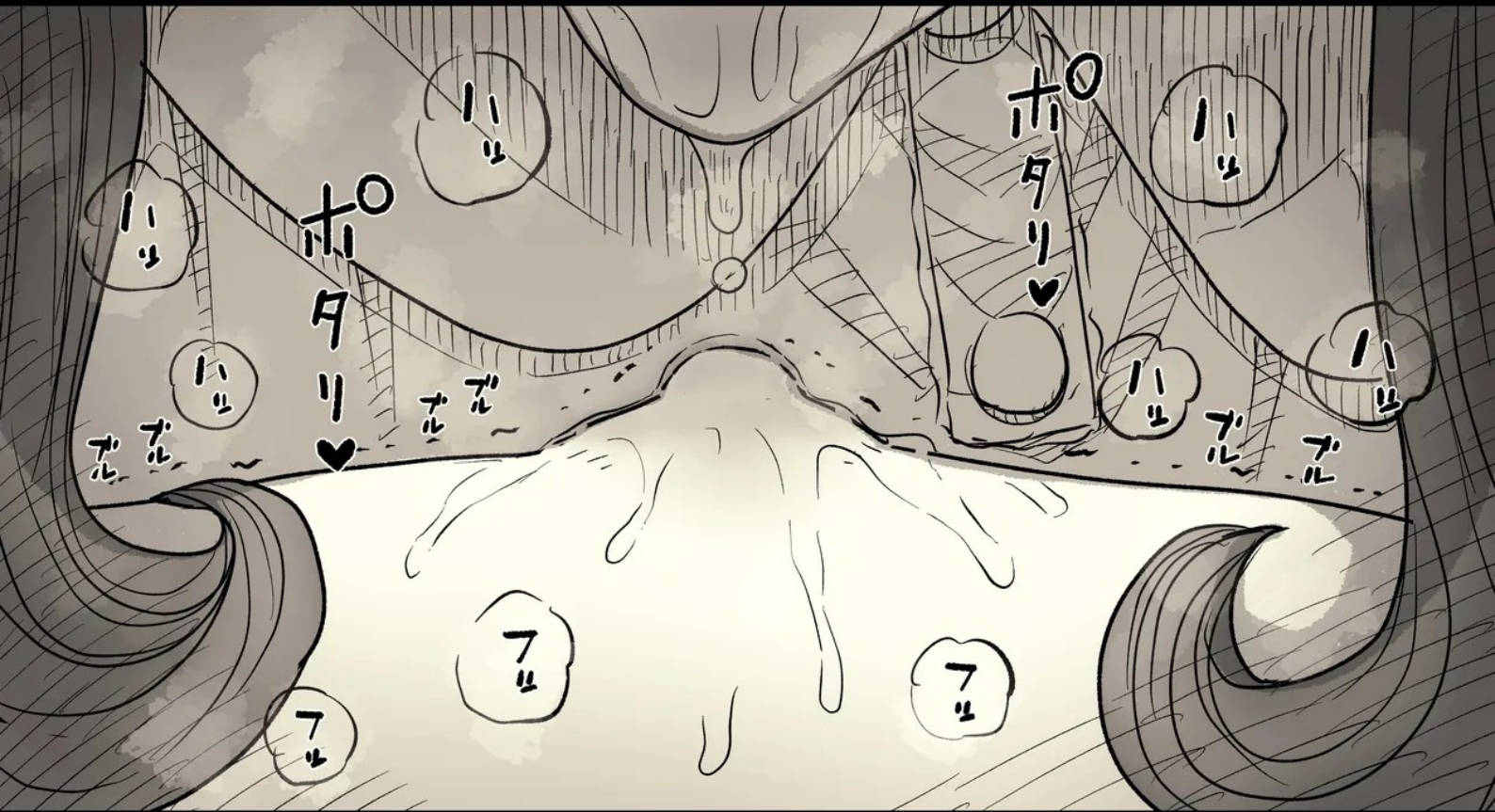
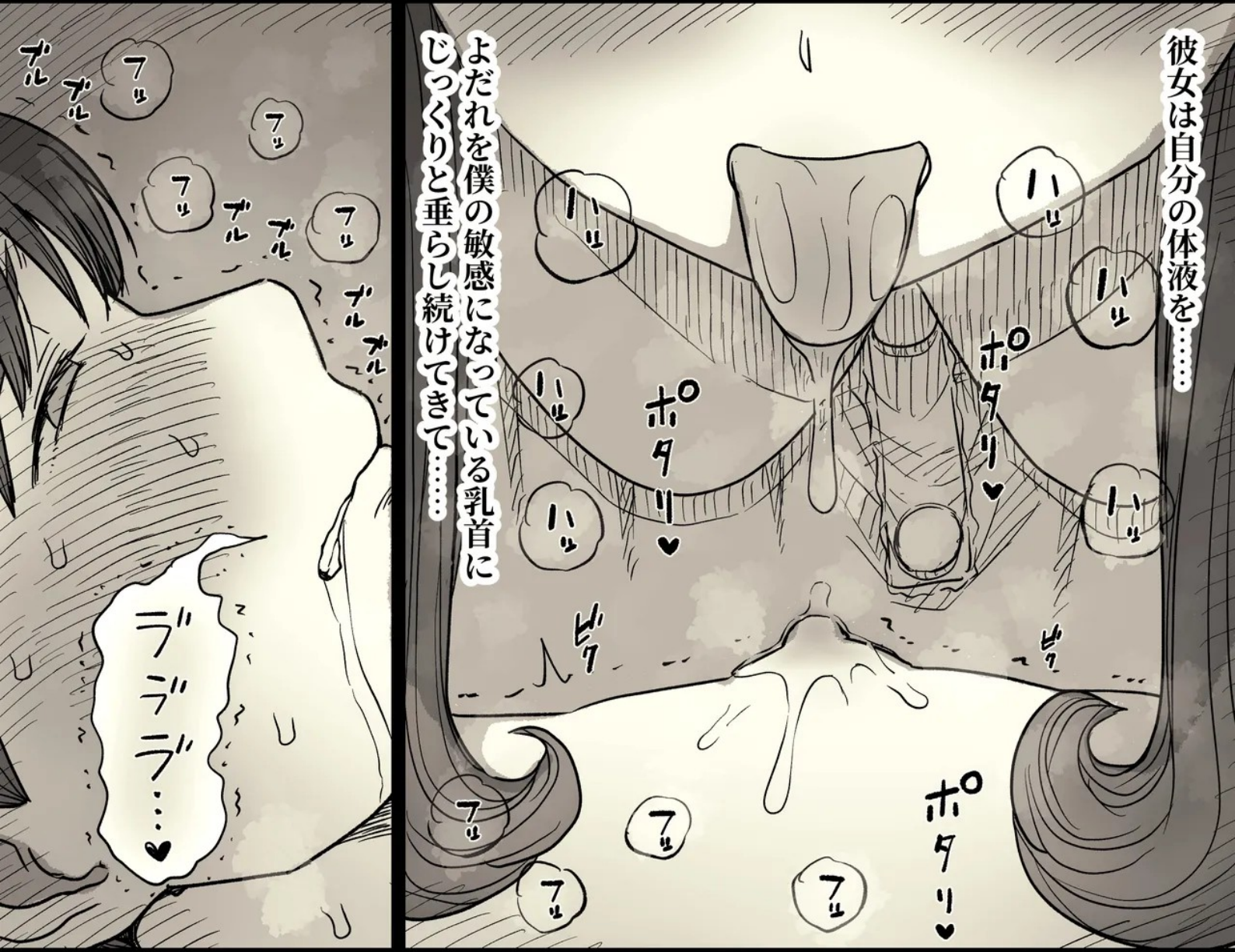
今まで散々彼女の責めによって
性癖が開発されきってしまった僕は……

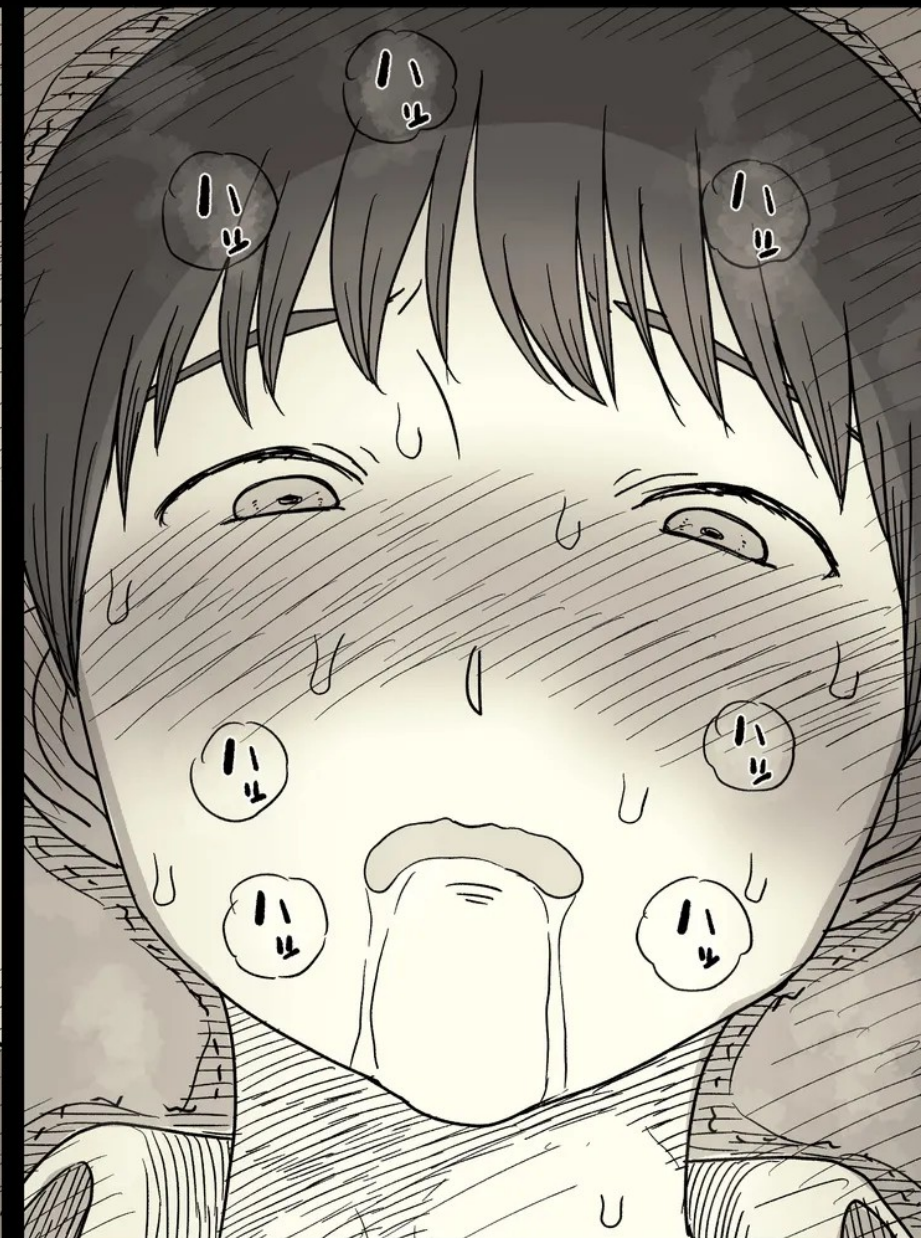
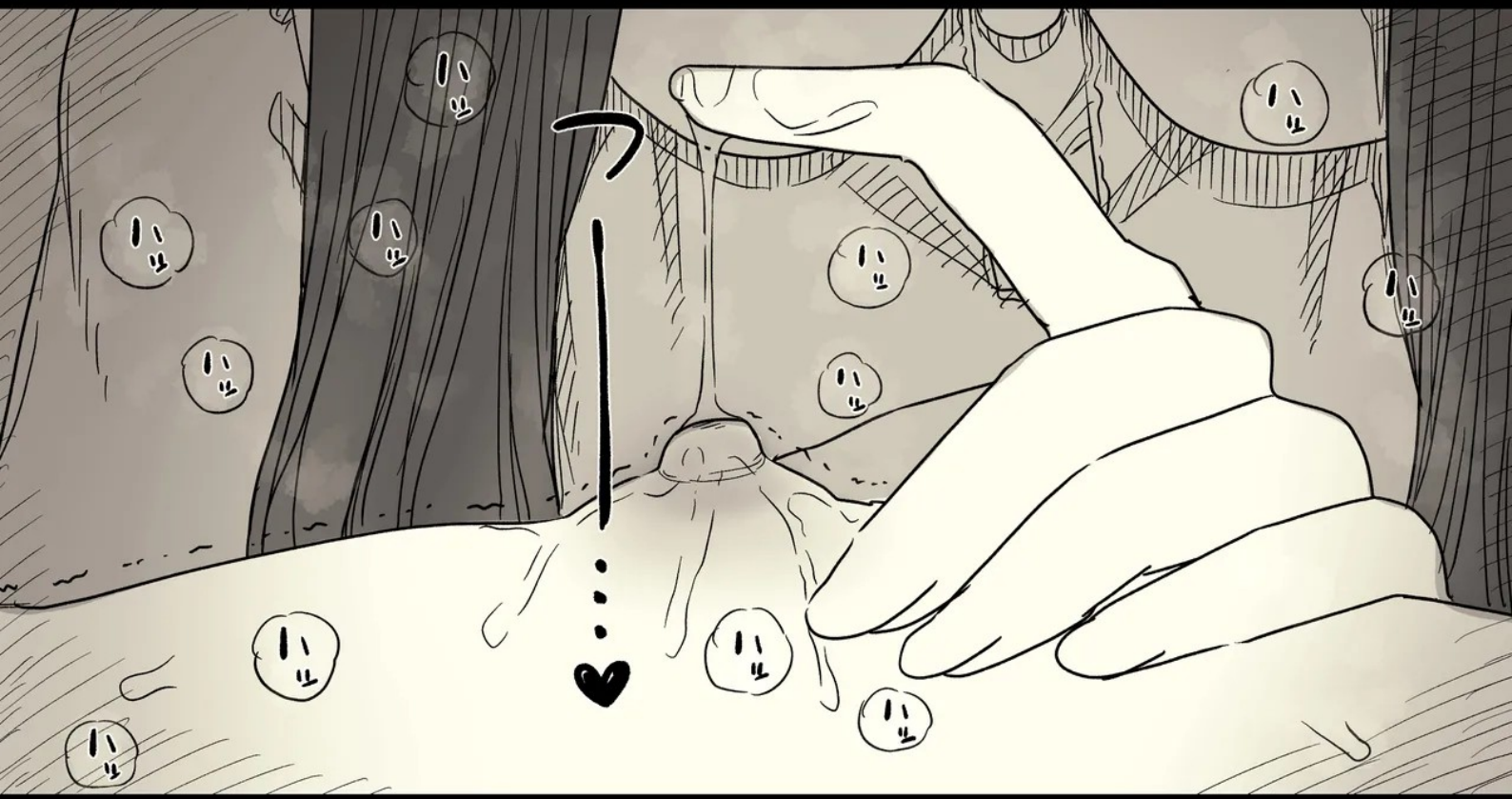
彼女の焦らしプレイに
今日も脳が焼けるほどに
体が敏感になって……

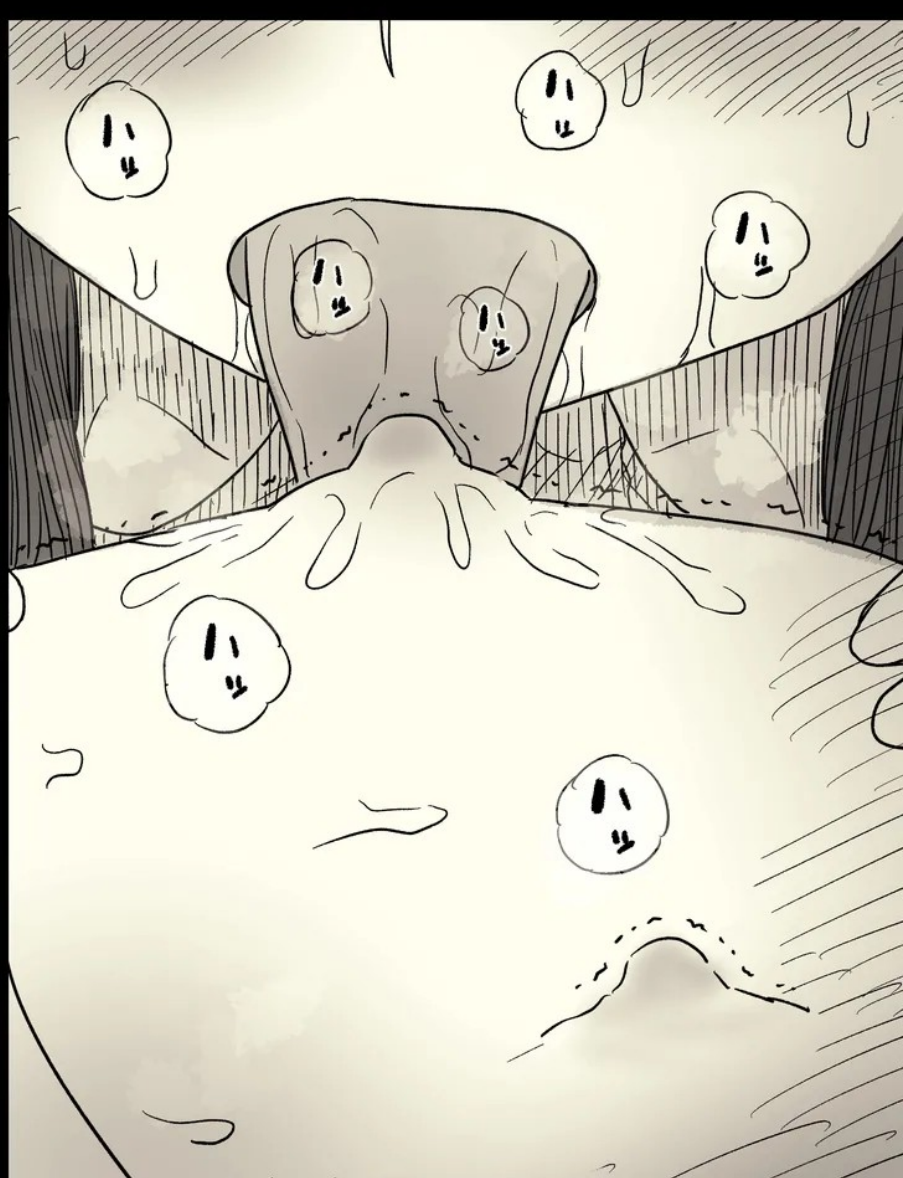
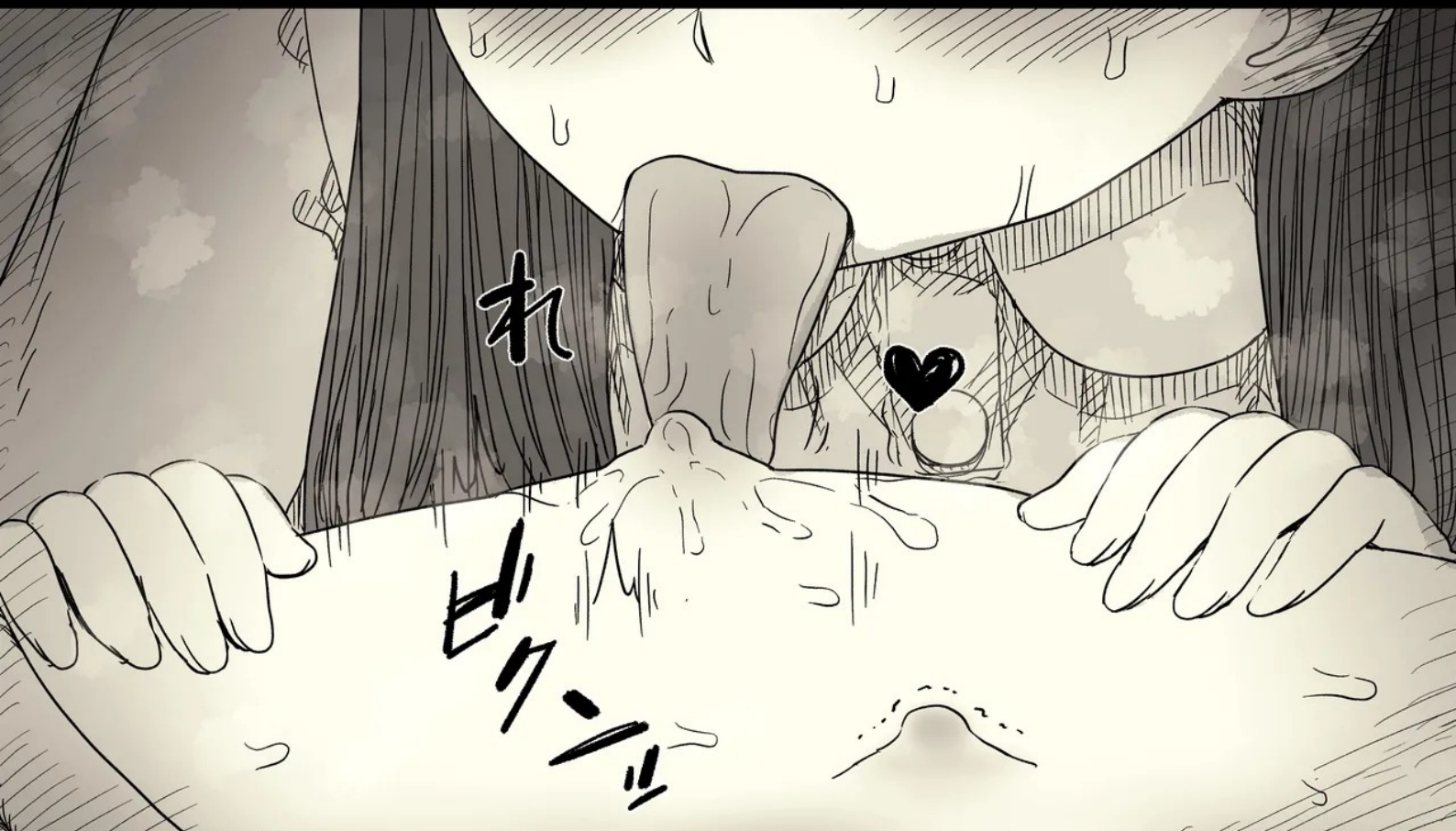
彼女は自分の体液を……

よだれを僕の敏感になっている乳首に
じつくりと垂らし続けてきて……

ラ
ラ
ラ
ラ
……♡



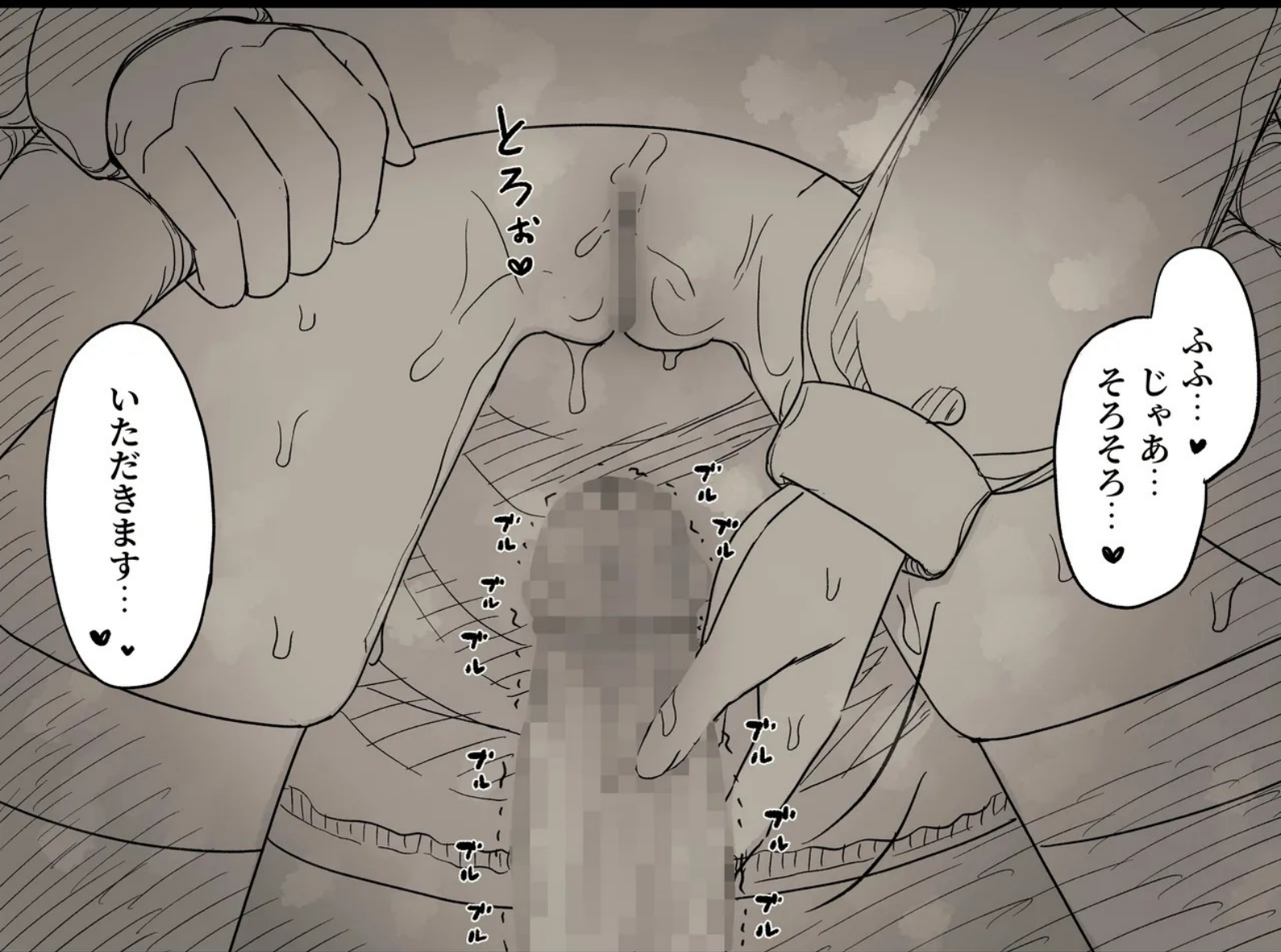




そうして…
僕が乳首だけでイキそうになって
限界まで来てしまったのを察すると…
彼女はその責めを止めて…

だあめ♡

寸止めされた苦しさに
身悶えていると…彼女は…

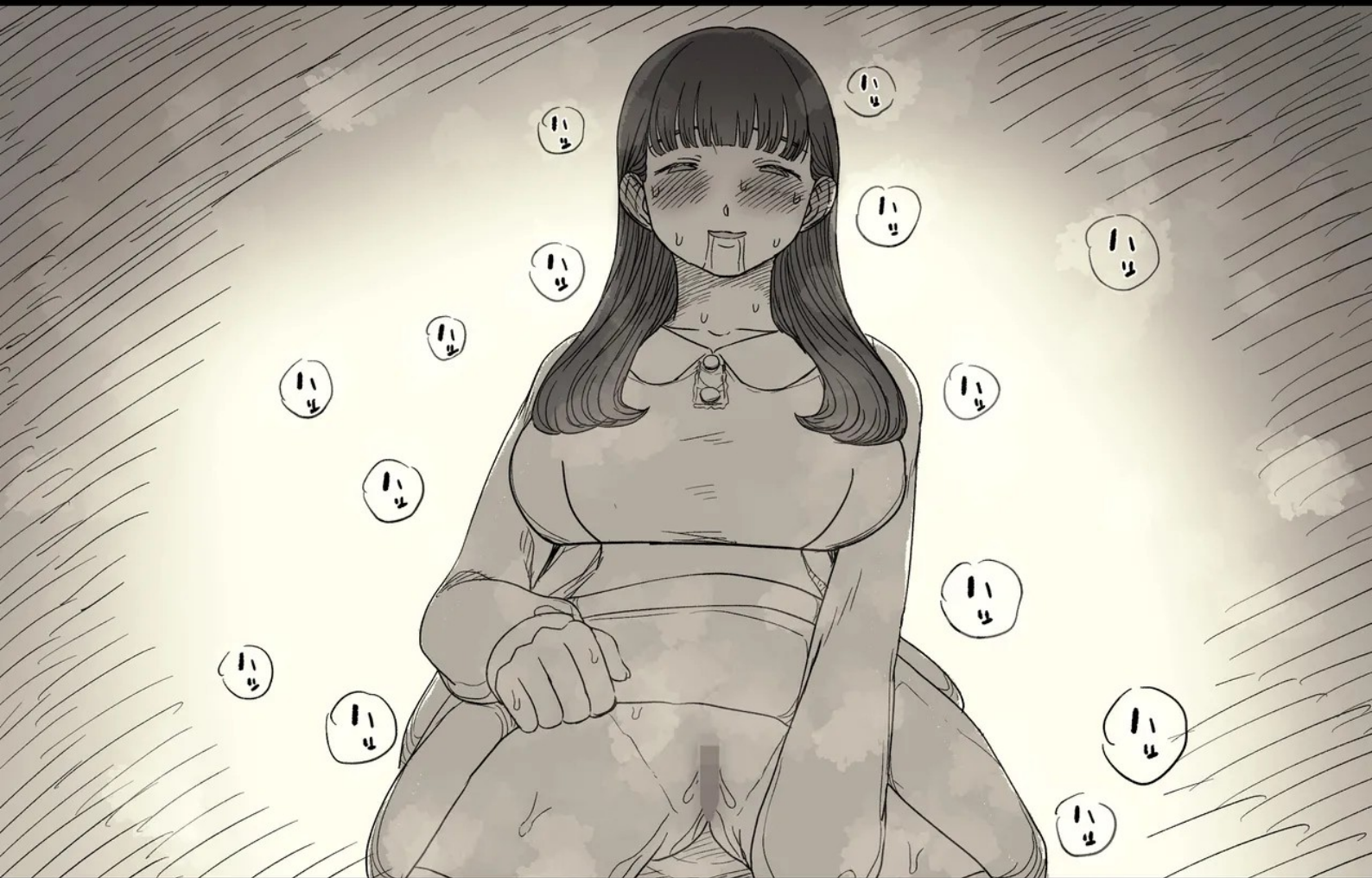


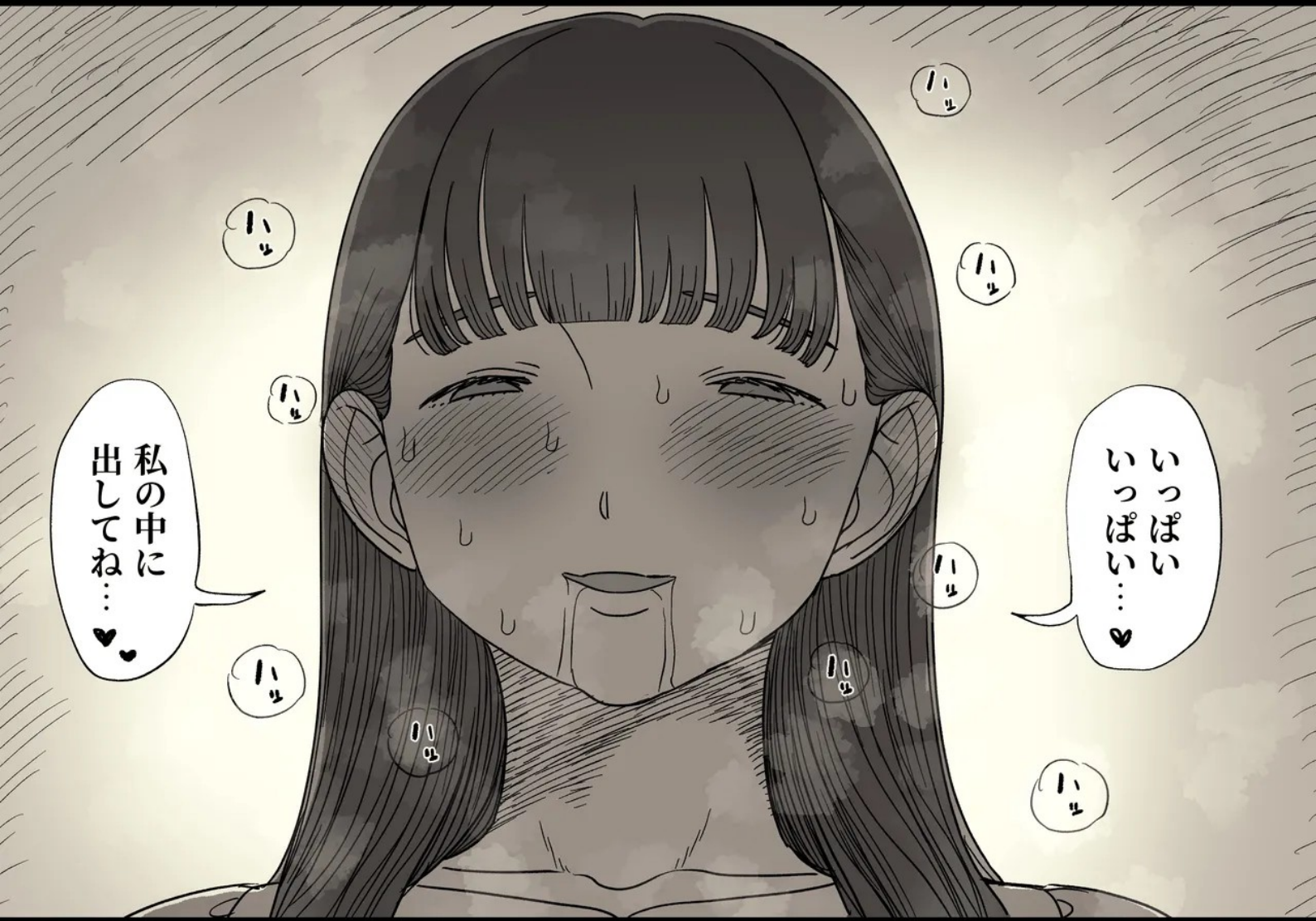
ふふ…♡
じゃあ…
そろそろ…♡

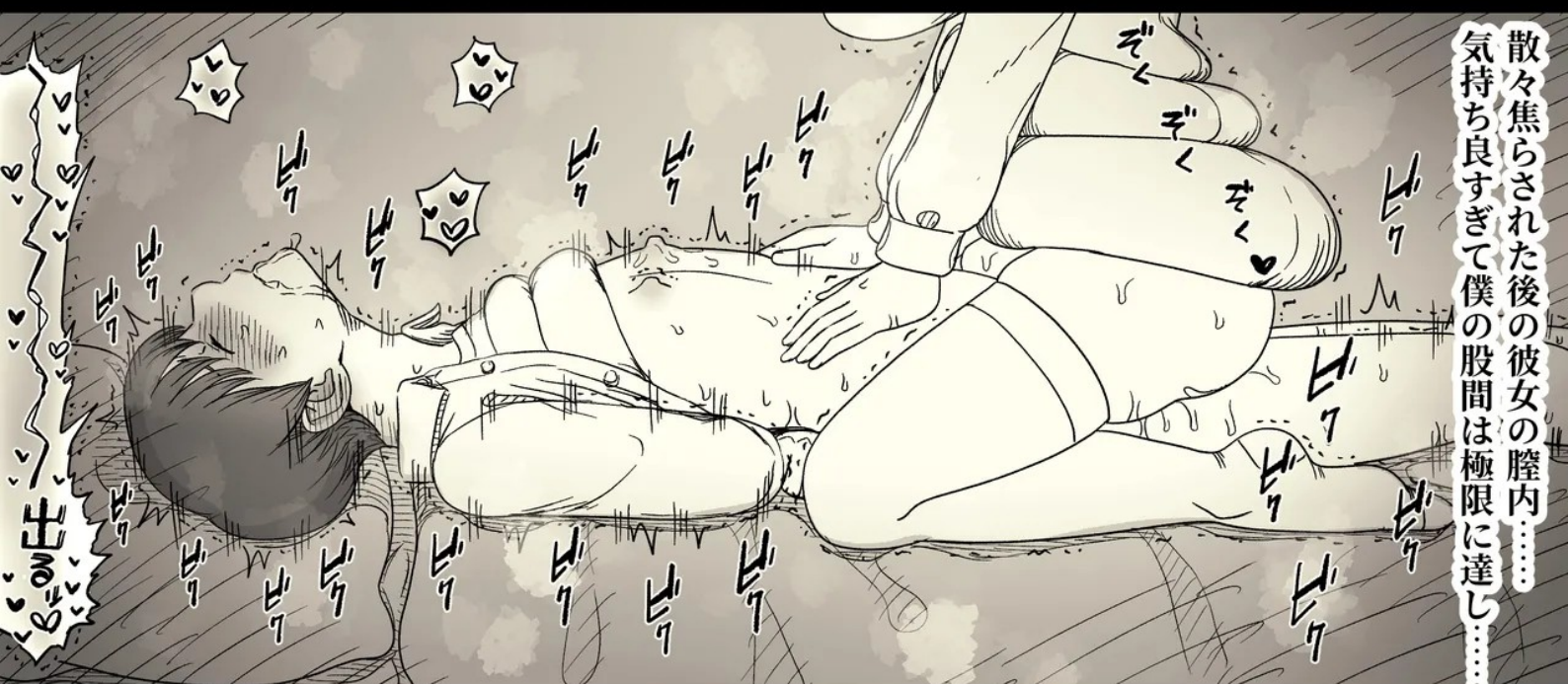
とろお♡

いただきます…♡

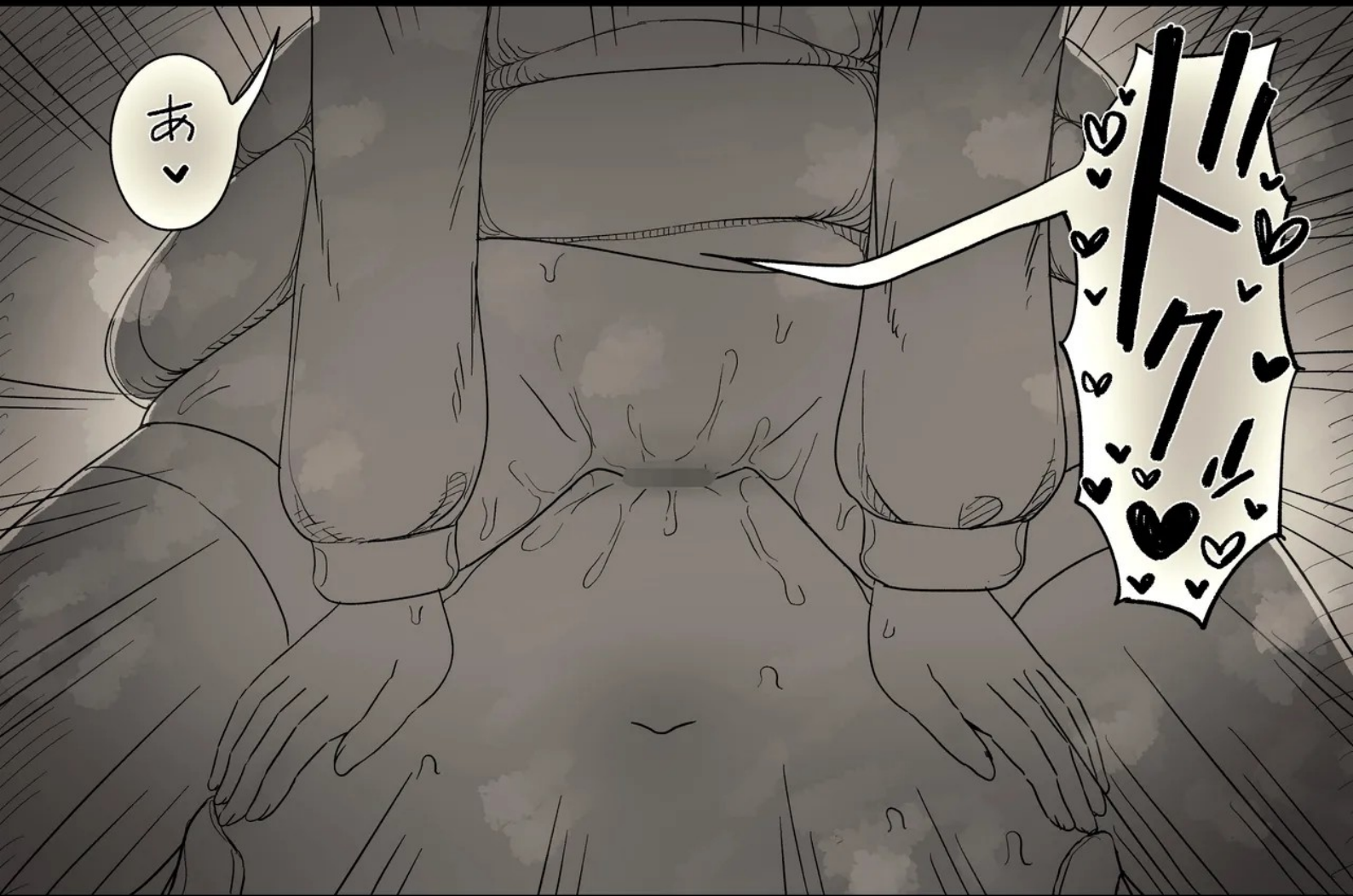
ブルブル
ブルブル
ブルブル
ブルブル
ブルブル
ブルブル
ブルブル
ブルブル
ブルブル
ブルブル

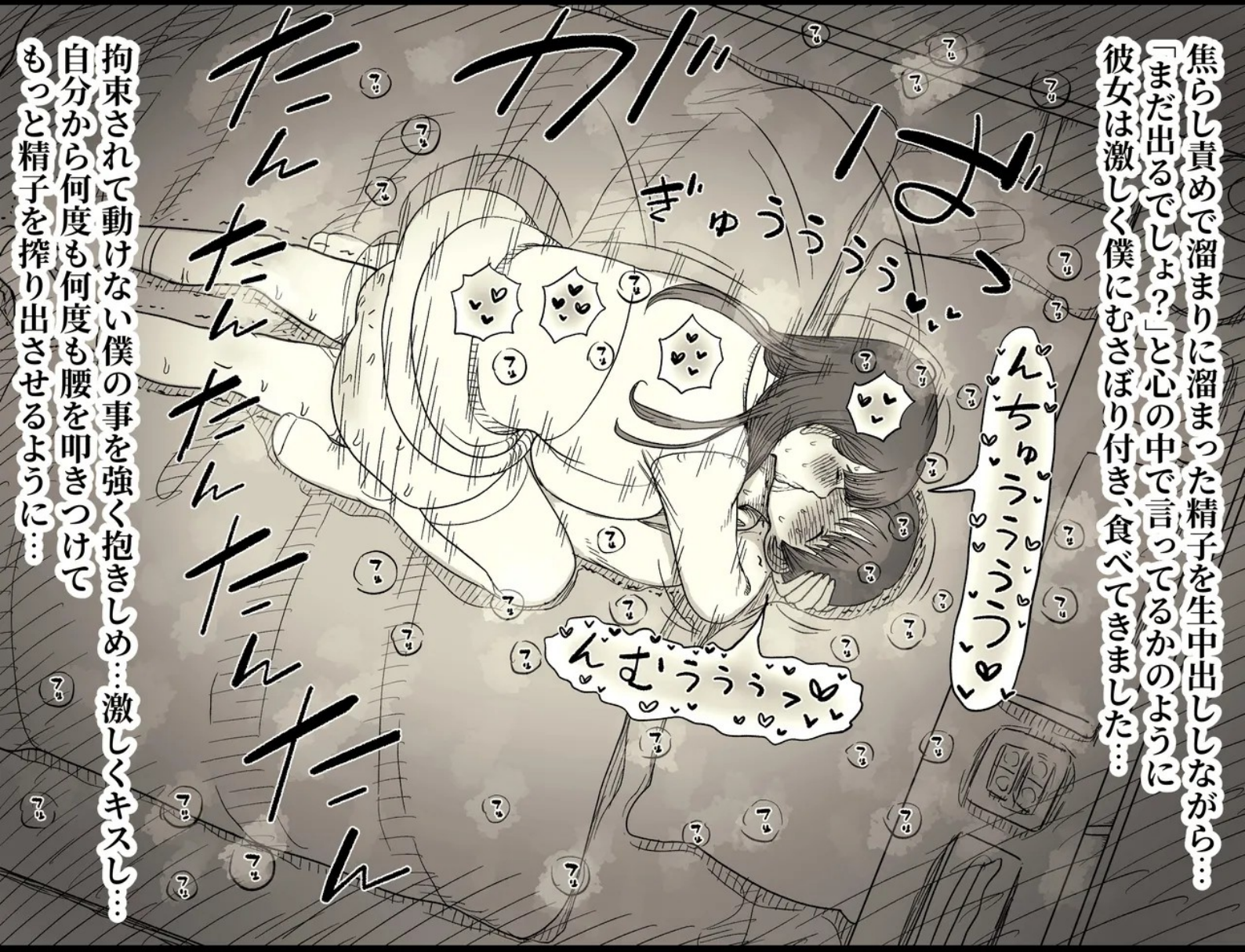






散々焦らされた後の彼女の膣内……
気持ち良すぎて僕の股間は極限に達し……





焦らし責めで溜まりに溜まった精子を生中出ししながら…
「まだ出るでしょ？」と心の中で言ってるかのようになり
彼女は激しく僕にむさぼり付き、食べてきました…

拘束されて動けない僕の事を強く抱きしめ…激しくキスし…
自分から何度も何度も腰を叩きつけて
もっと精子を搾り出させるように…

彼女の激しい攻めに全身が痙攣し続け…
断続的に何度も何度も射精が続き…



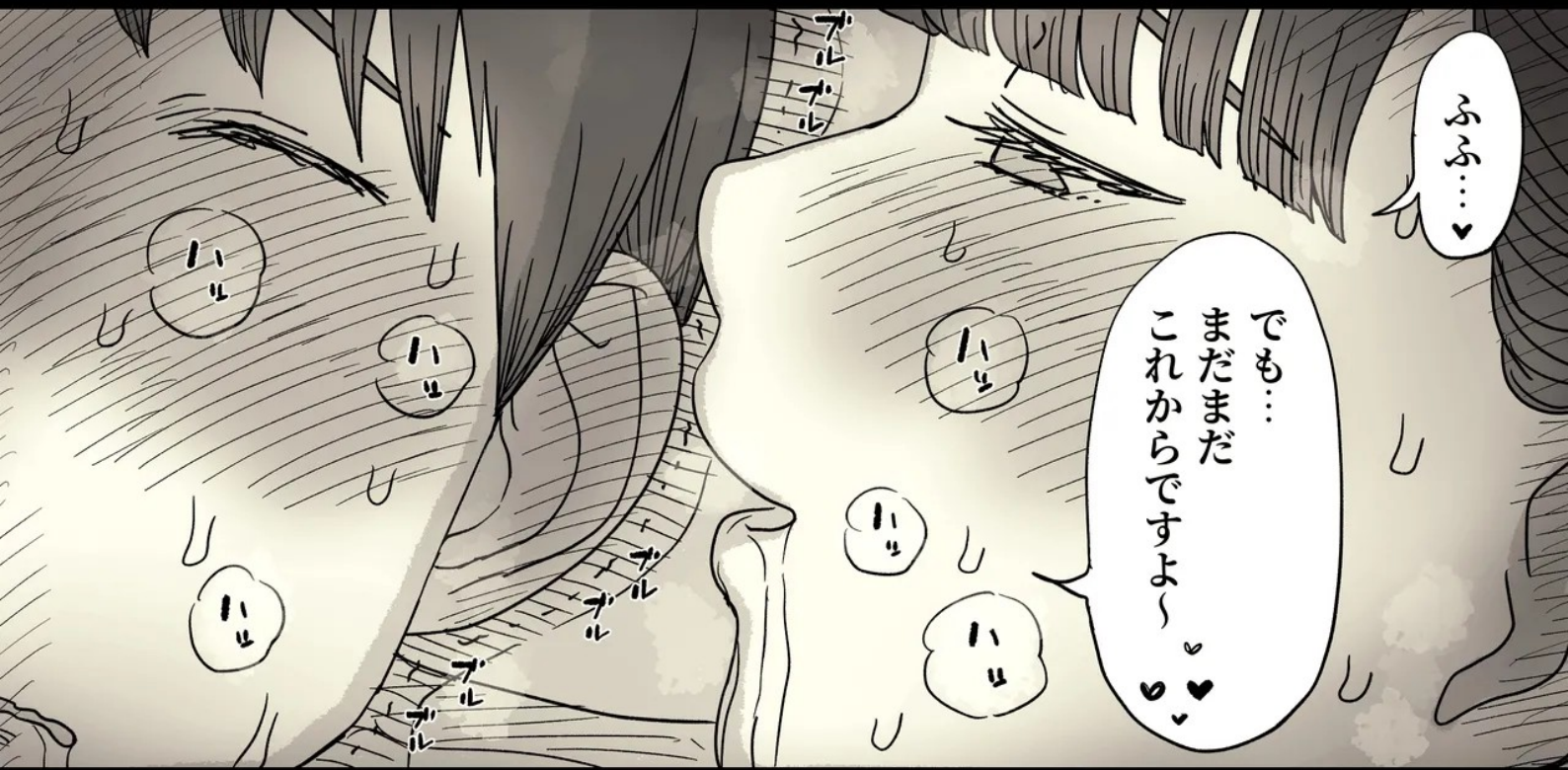
彼女も初めての本物の子作り種付けセックスに
いつも以上に凄く興奮しているようでした…



彼女も自分の体内に精子が満たされるのを感じて、興奮の絶頂に達し…

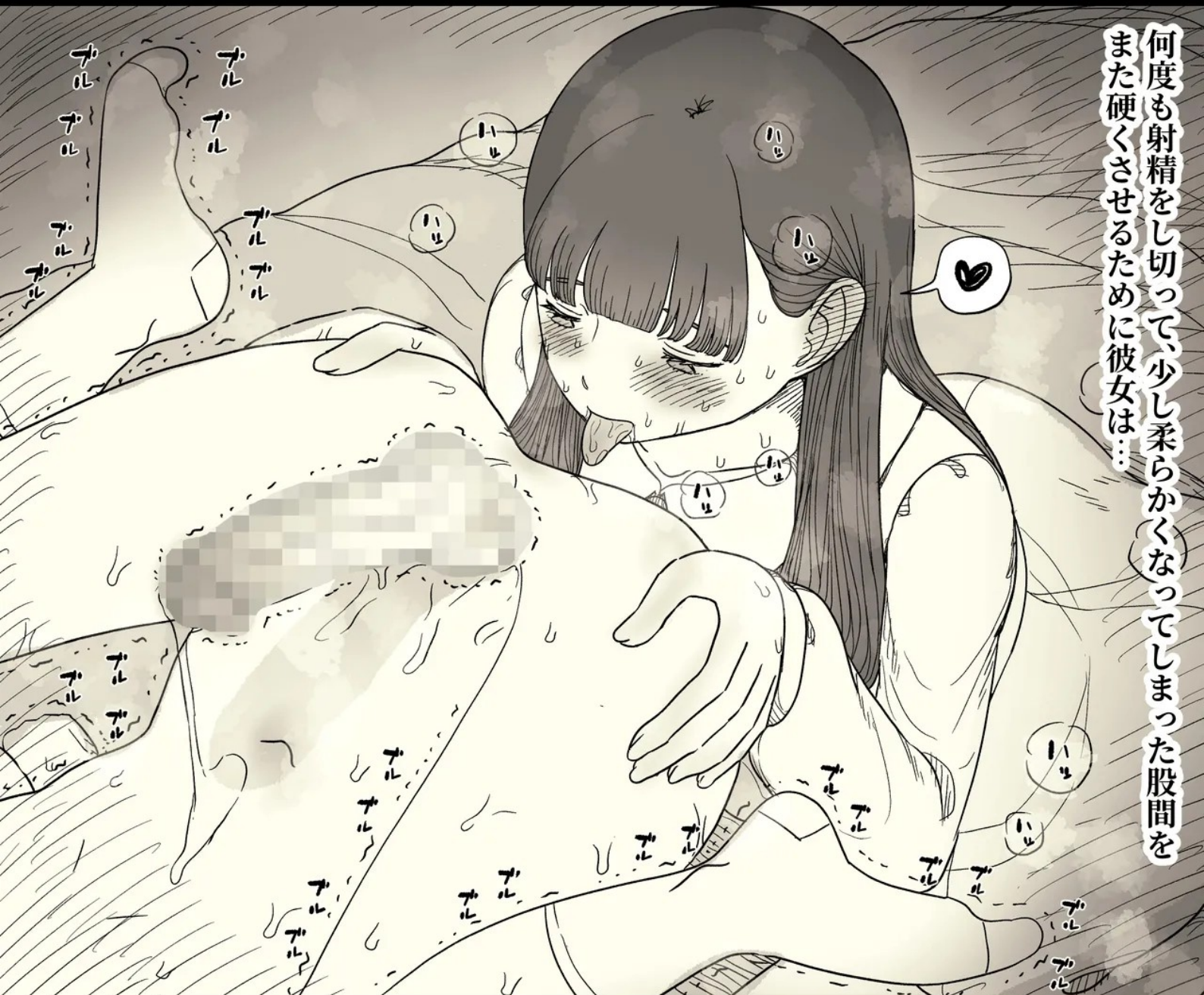




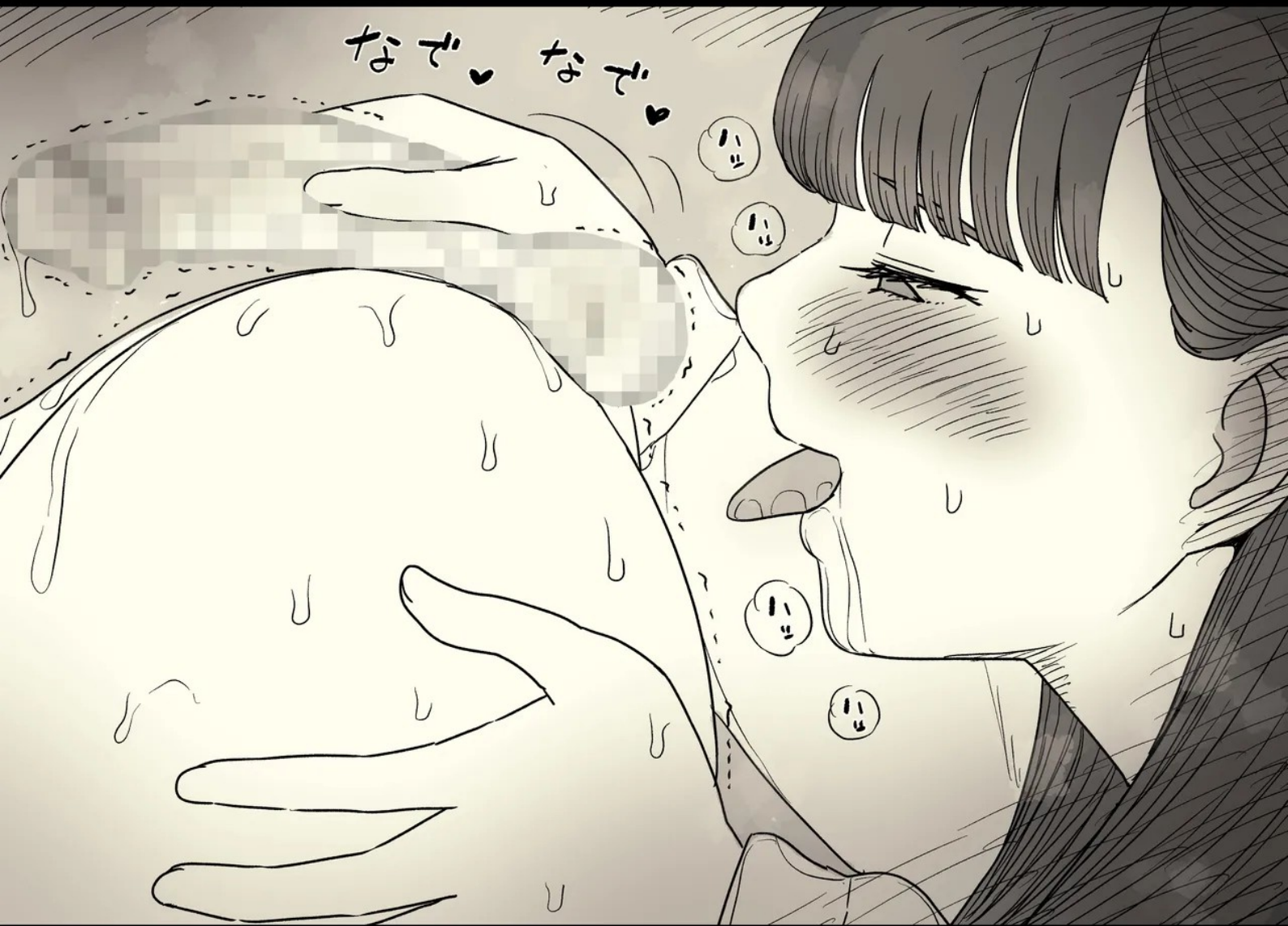


ふふ…♡

でも…
まだまだ
これからですよ♡



何度も射精をし切って、少し柔らかくなくなってしまった股間を
また硬くさせるために彼女は…





散々乳首を責められながら
お尻を舐められて僕は……



ちゅーん
ちゅーん
ちゅーん

ぐわー
ぐわー
ぐわー

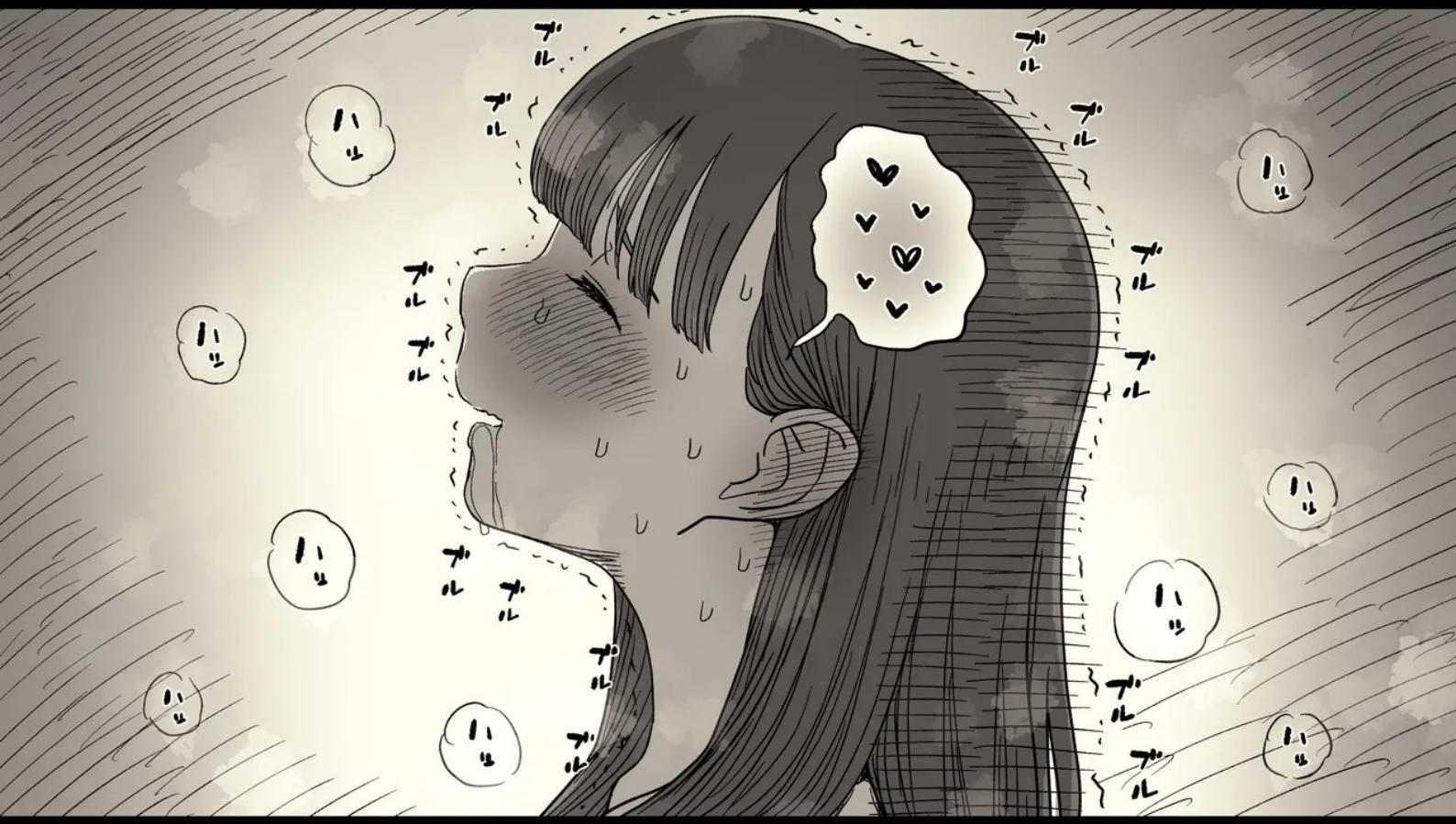
前立腺が
シクシク
疼いて……

ちゅーん
ちゅーん
ちゅーん

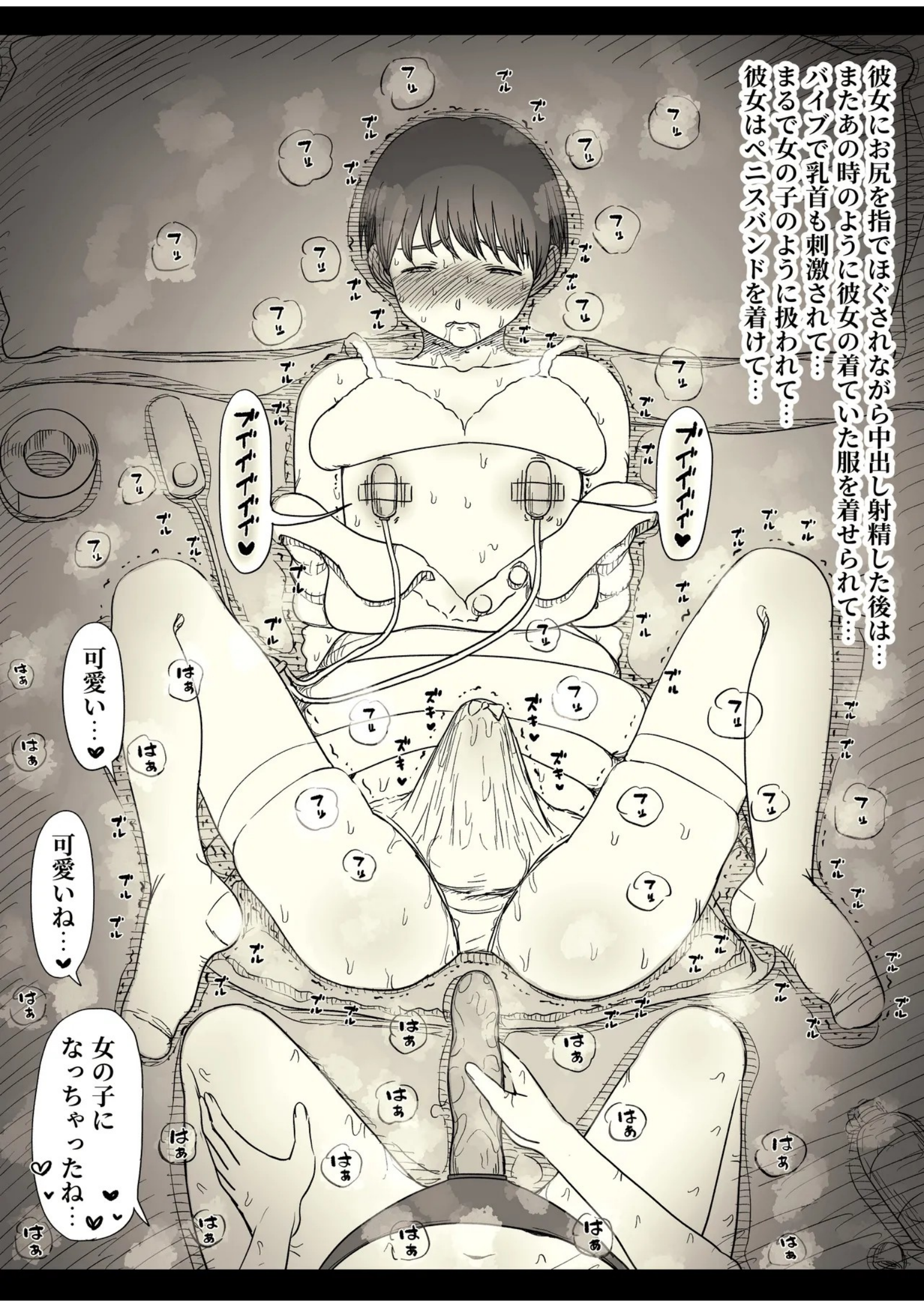
そして彼女は僕のいきり勃った肉棒を
貪るように膣で食べながら……
精子を絞り出すように
僕の前立腺も指で刺激して……

たんたんたんたんたん





彼女にお尻を指でほぐされながら中出し射精した後は…
またあの時のように彼女の着ていた服を着せられて…
パイプで乳首も刺激されて…
まるで女の子のように扱われて…
彼女はペニスバンドを着けて…



パイプパイプ♡

パイプパイプ♡

可愛い…♡

可愛いね…♡

女の子になっちゃったね♡♡♡

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

ブル

ブル

はぁ

はぁ

はぁ

ブル

ブル

はぁ

はぁ

はぁ

ブル

ブル

はぁ

はぁ

ブル

ブル

ブル

はぁ

はぁ

ブル

ブル

ブル

ブル

ブル

ブル

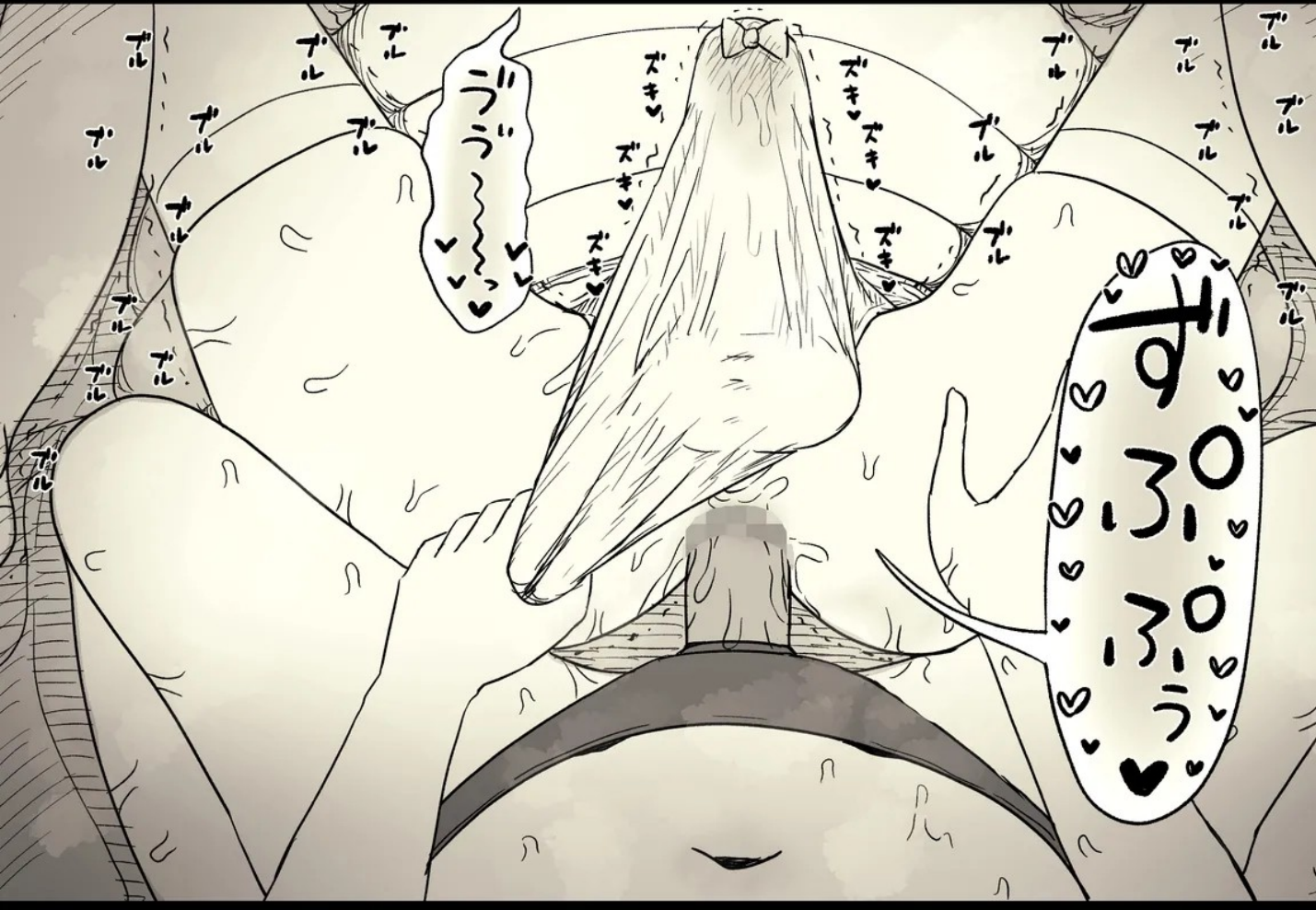
ブル

ブル

ブル

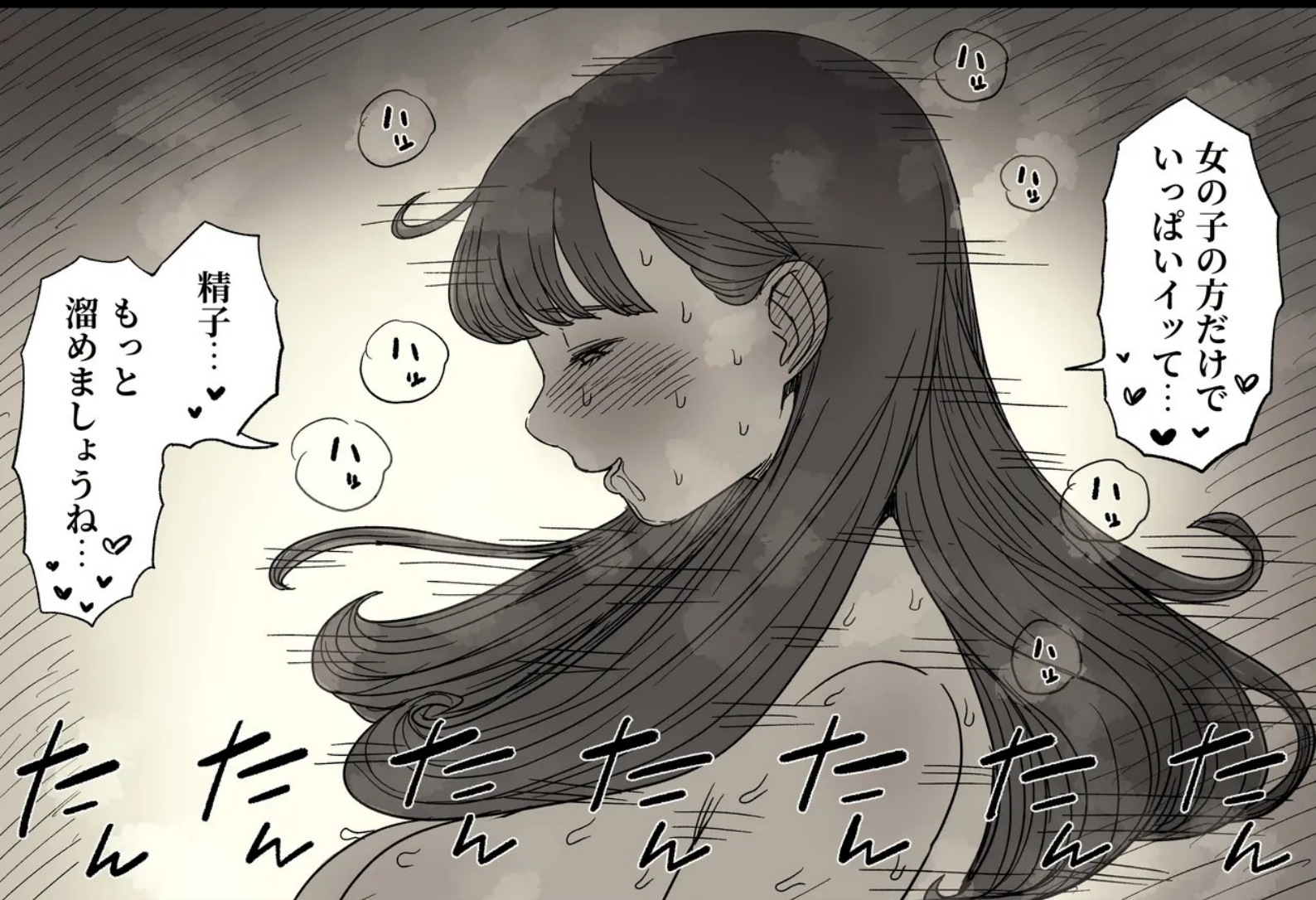
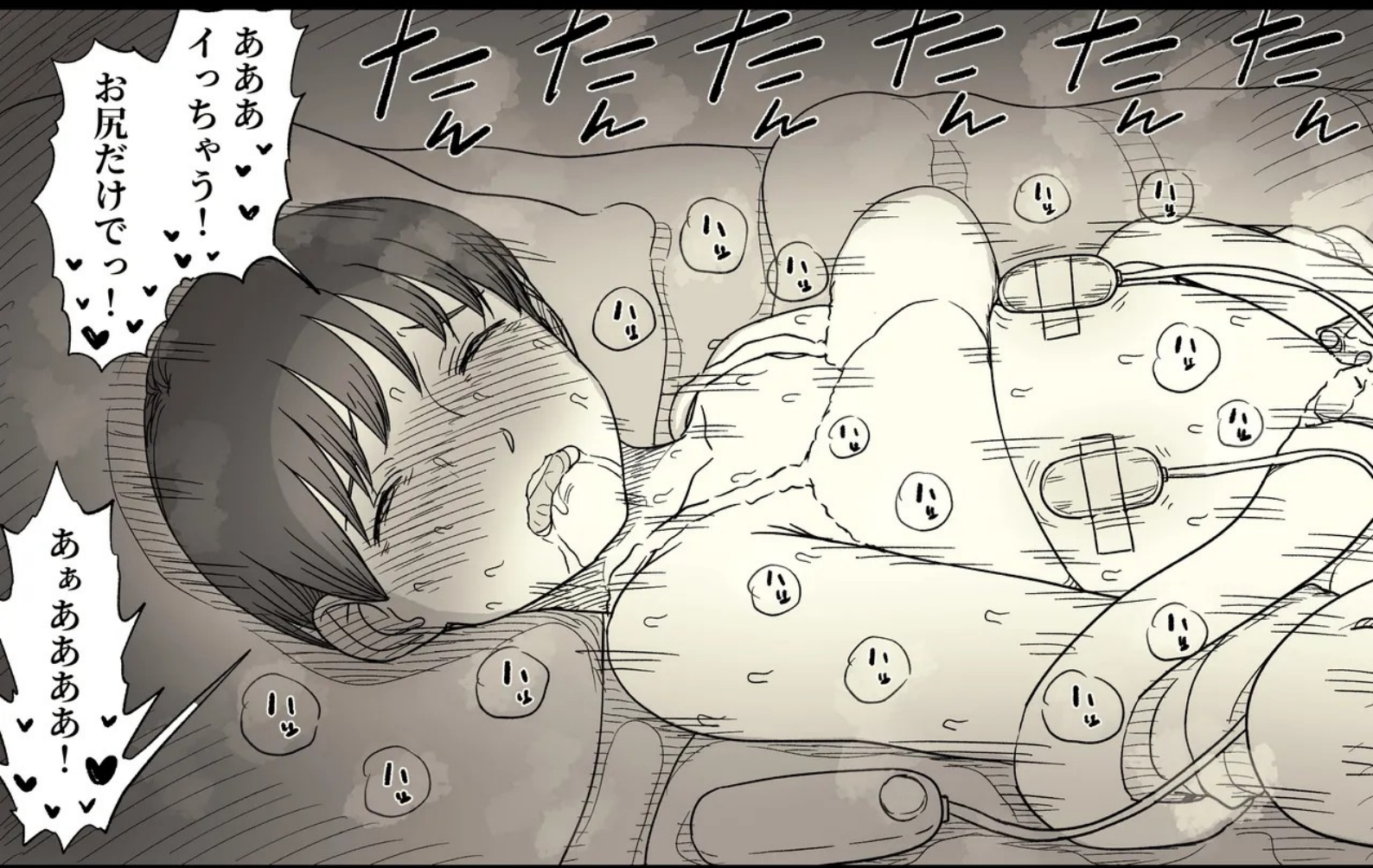
ブル

彼女は僕の事を可愛い可愛いと呟きながら…
ペニスバンドでお尻を犯してきて…



たんたんたんたんたん

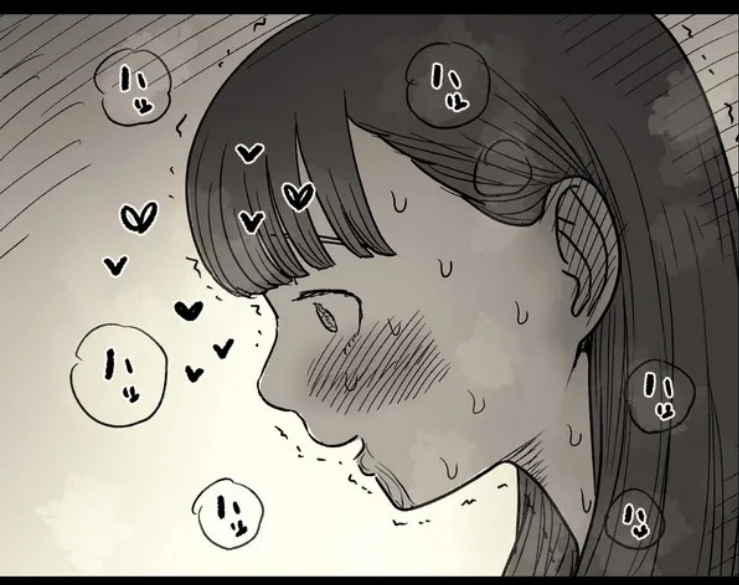


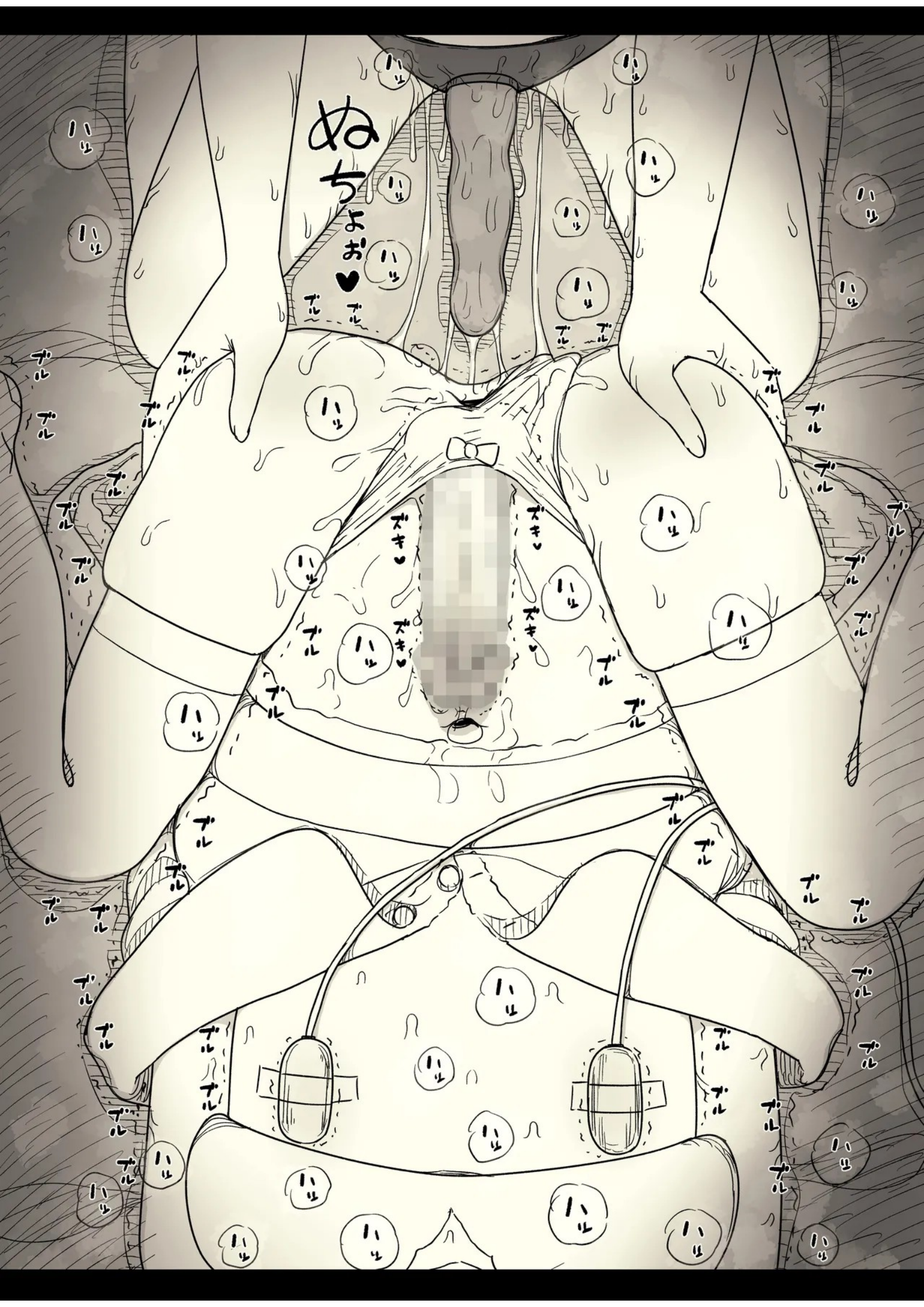


彼女の着ていたまだ体温が残っている服を着させられ…
ペニスバンドでお尻を責められ続け…
僕は何度も何度もメスイキしてしまいました…

今まで彼女に何度もされて開発され尽くした僕のメスの体…
射精無しのドライオーガズムで何度も達して…
そしてまた睾丸に精子が溜まっていく感覚…

たんたんたんたんたんたん





ぬち

おま
♥
ブル

ケキョ
ケキョ
ケキョ

ケキョ
ケキョ
ケキョ

ハニ
ハニ
ハニ

ハニ
ハニ
ハニ

ハニ
ハニ
ハニ

ブル
ブル
ブル

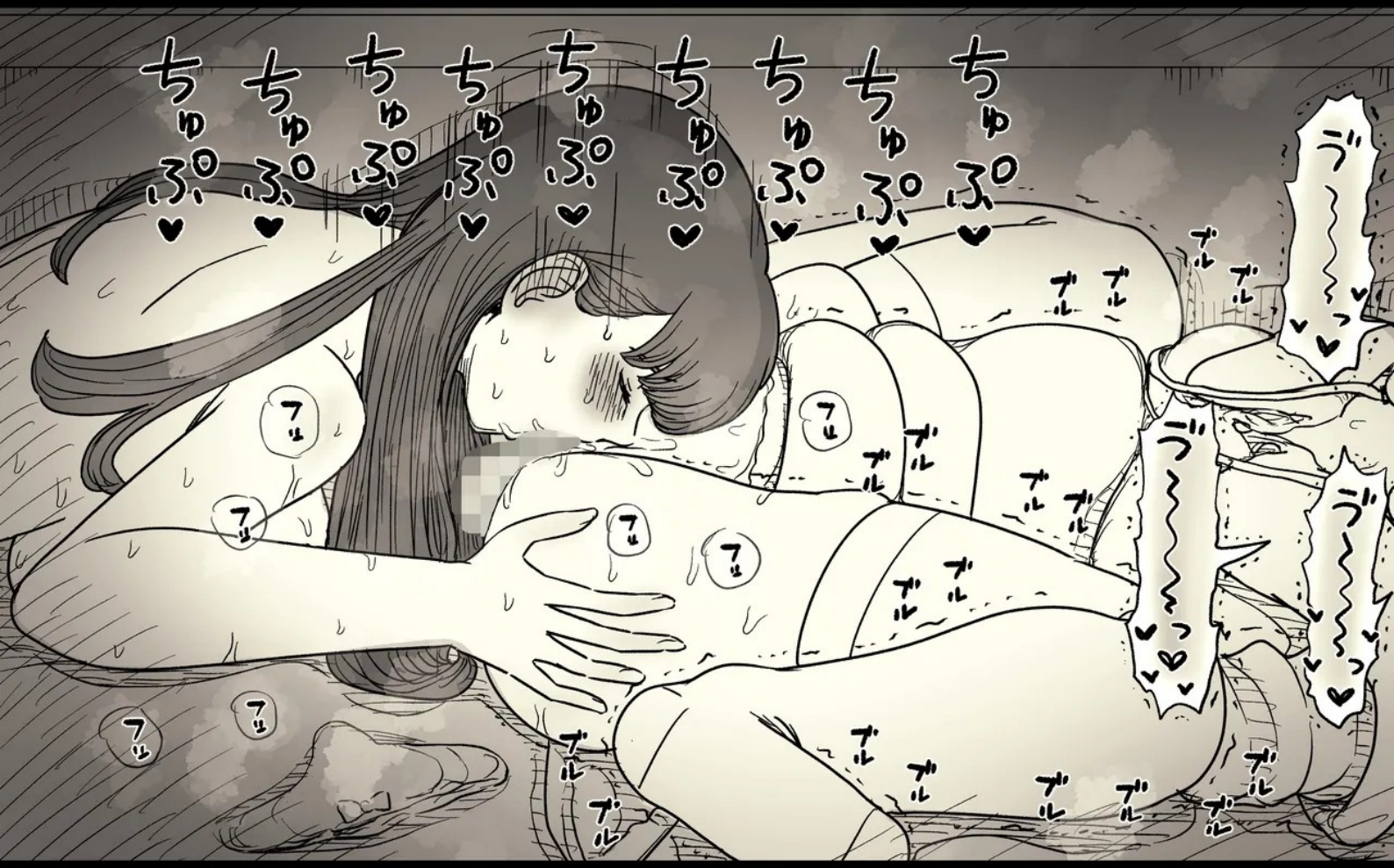
ブル
ブル
ブル

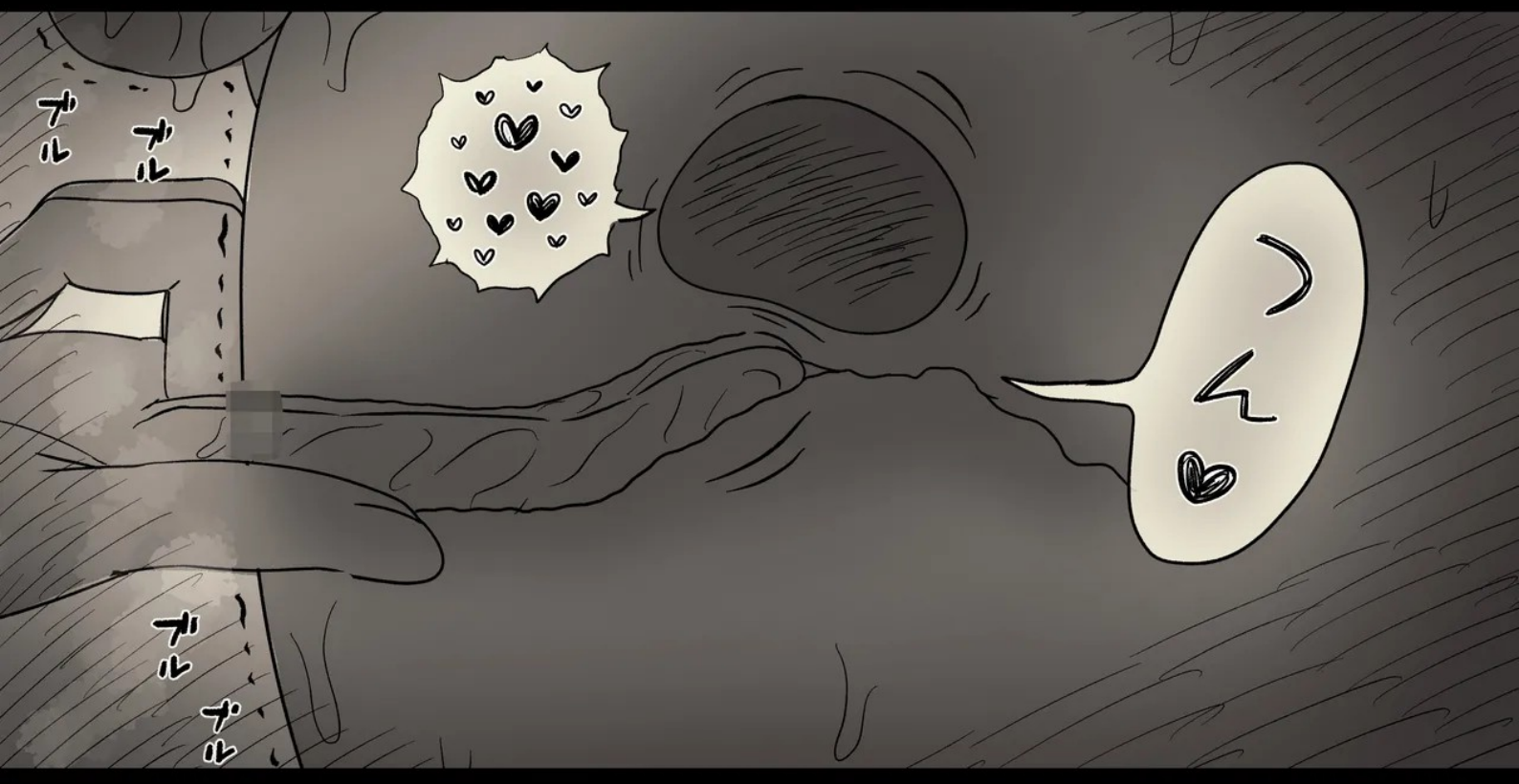
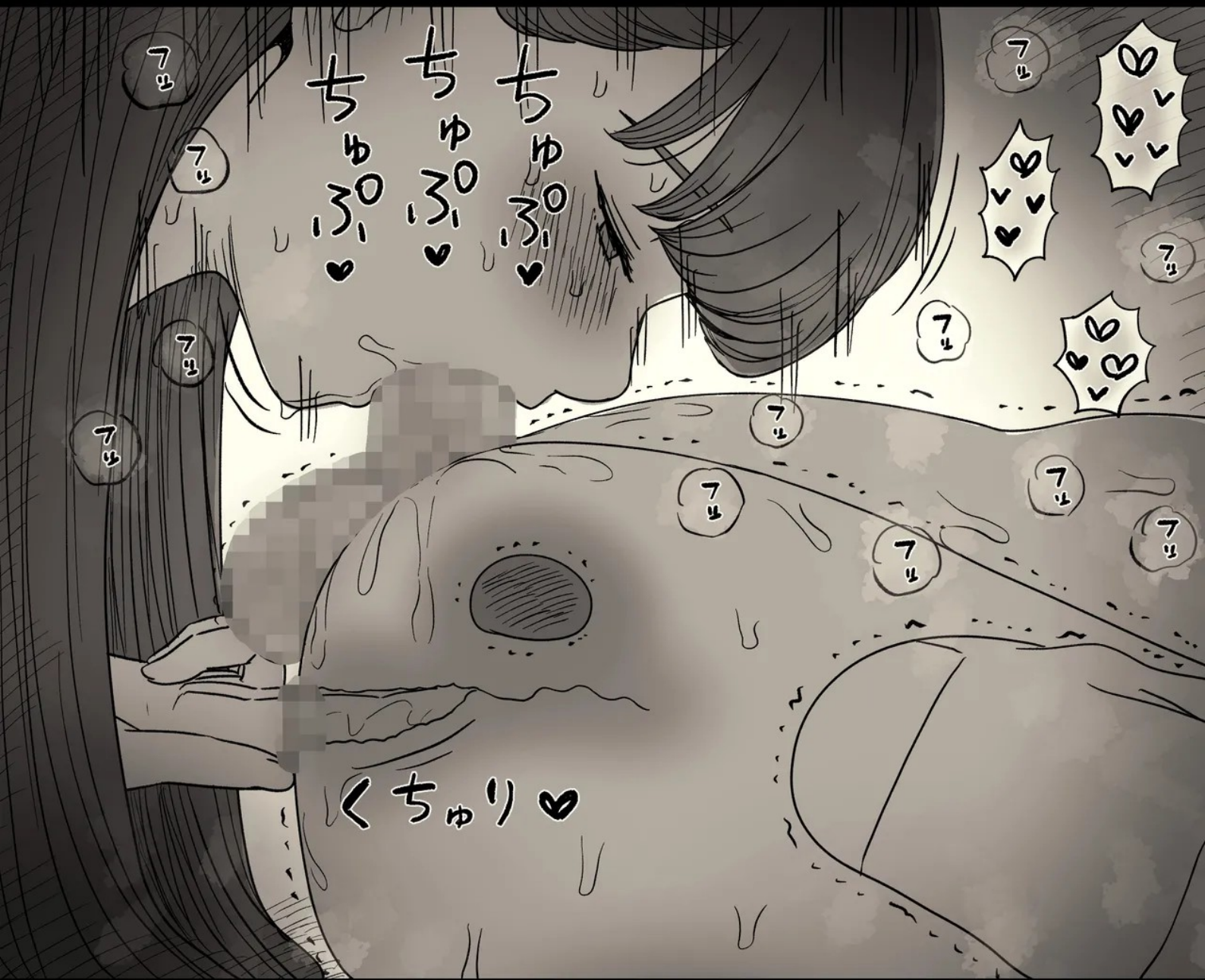
ブル
ブル
ブル

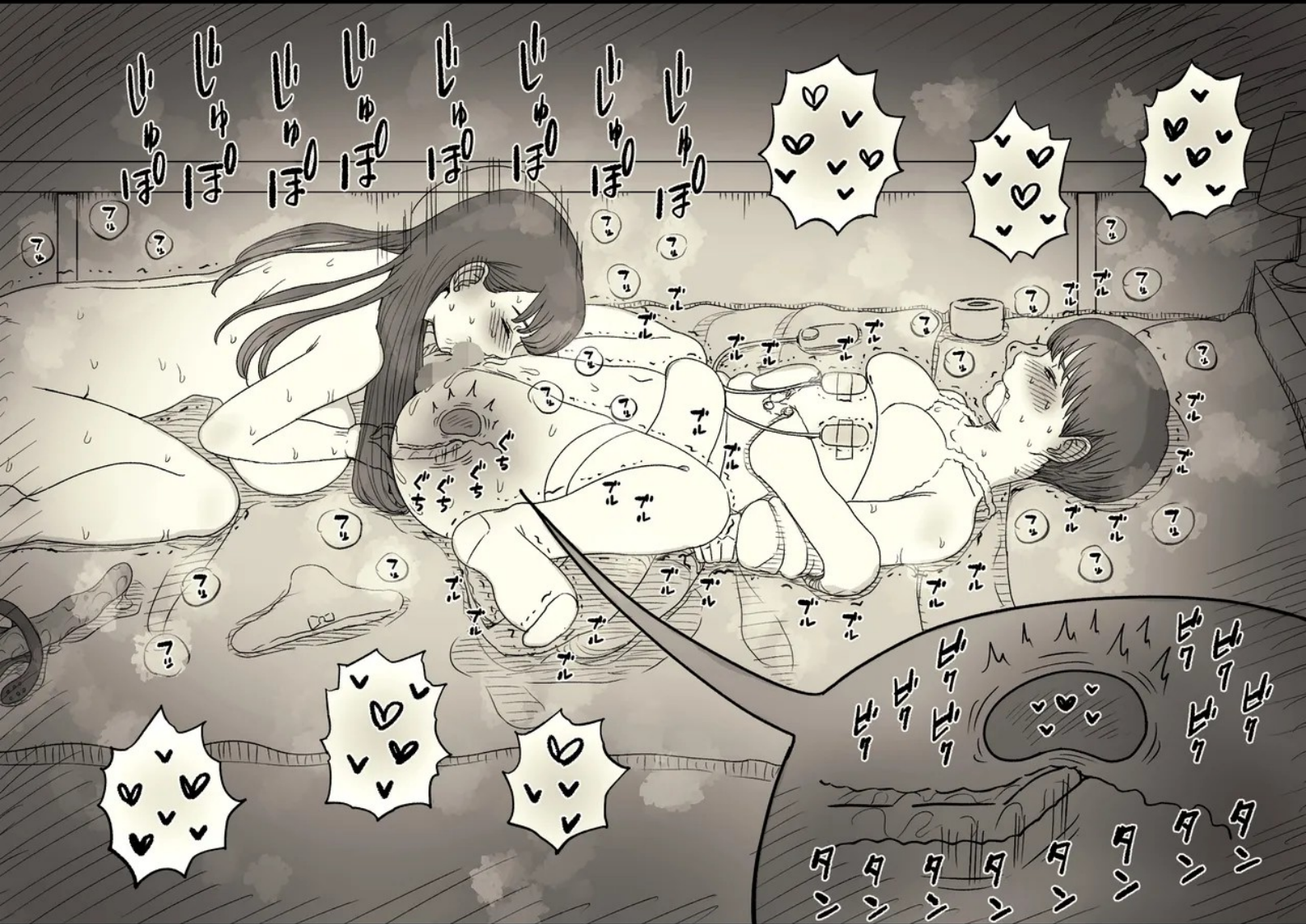
ハニ
ハニ
ハニ

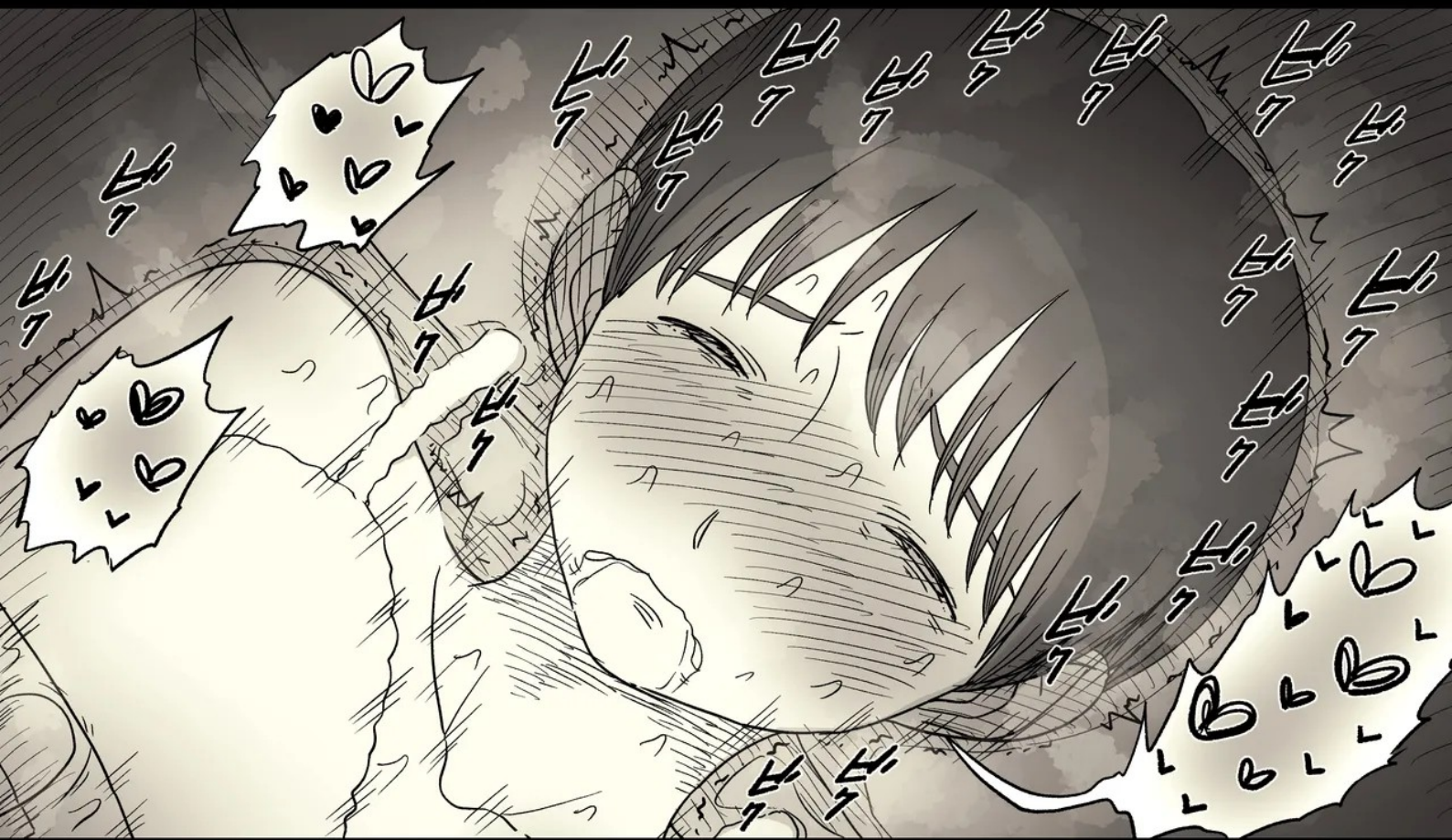
ハニ
ハニ
ハニ

メスイキしすぎた後：
おちんちんよりもお尻の奥に感覚が強く
移ってしまったているのを知っている彼女は：
またおちんちんに感覚を戻すために口で含み：





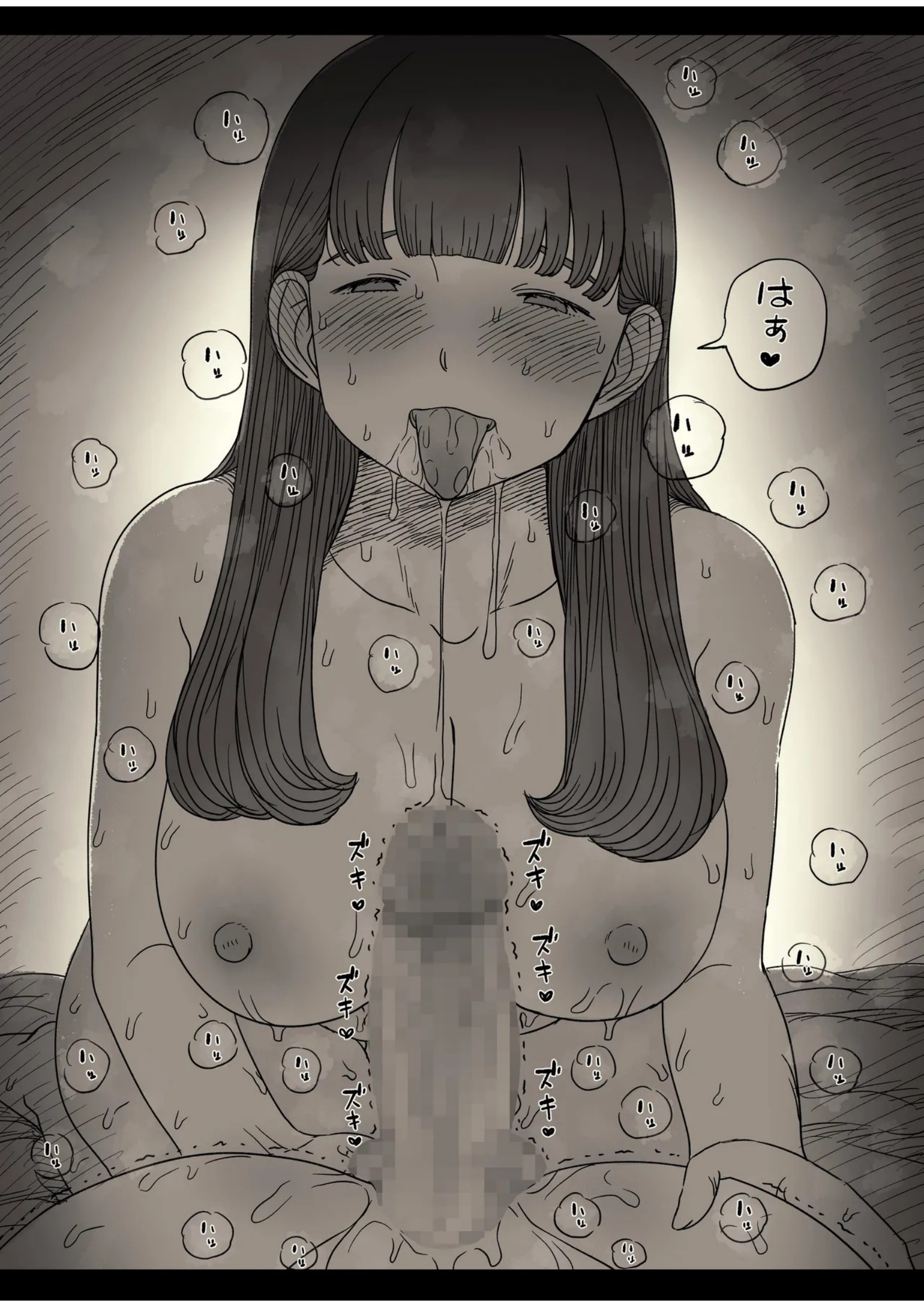




喉奥まで
僕のおちんちんを
飲み込みながら……



精子を更に増産させるように
前立腺をぎゅらぎゅらと
指先で刺激して……



はあ♡

ズキ♡
ズキ♡
ズキ♡

ズキ♡
ズキ♡
ズキ♡

じゃあ…

今日は
これで最後…

残りの精子…

いっぱい全部…
私の中に出してね…
♡





ねえっ

ねえっ

二人の子供

欲しいの…っ

たんたんたんたんたん

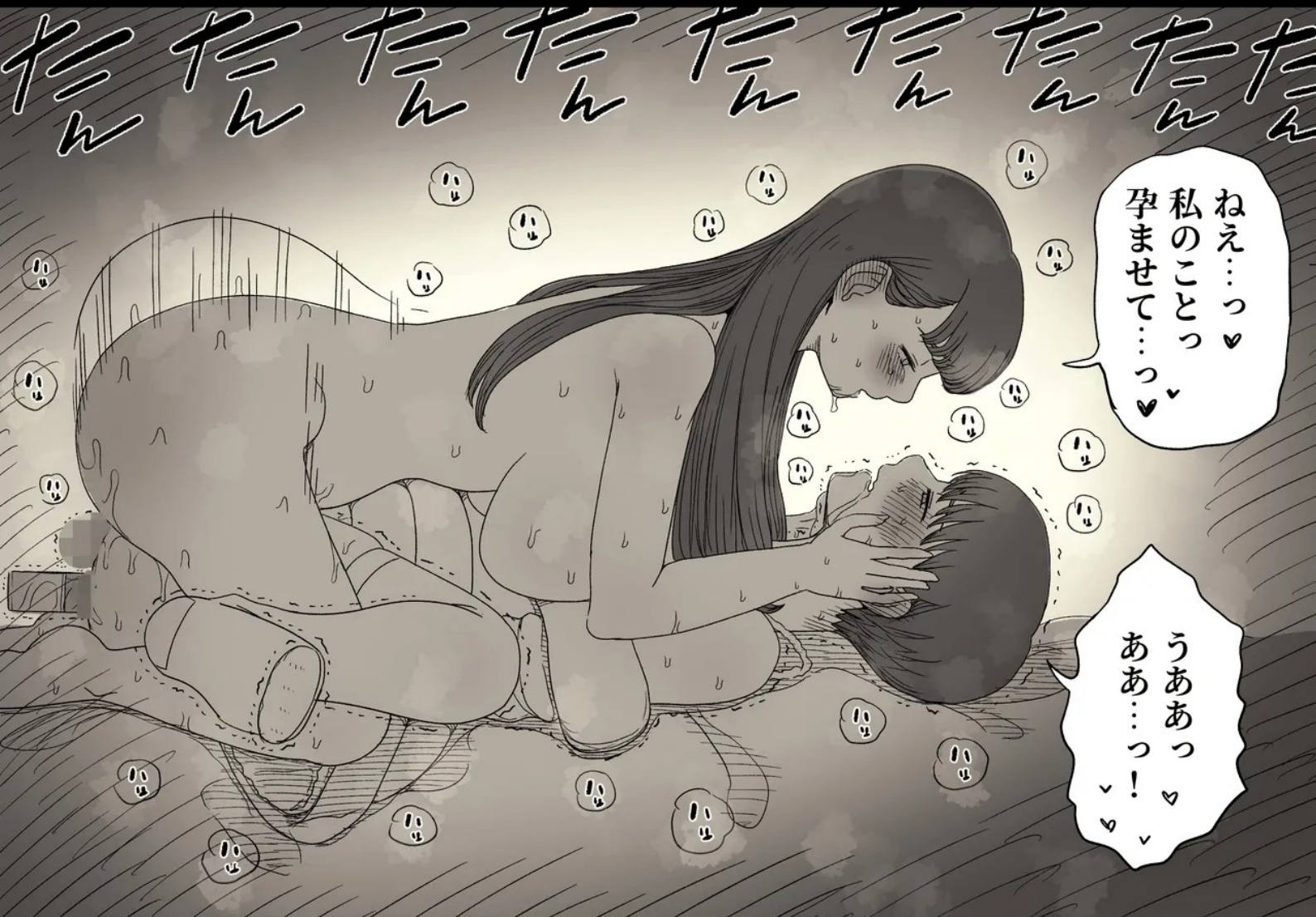
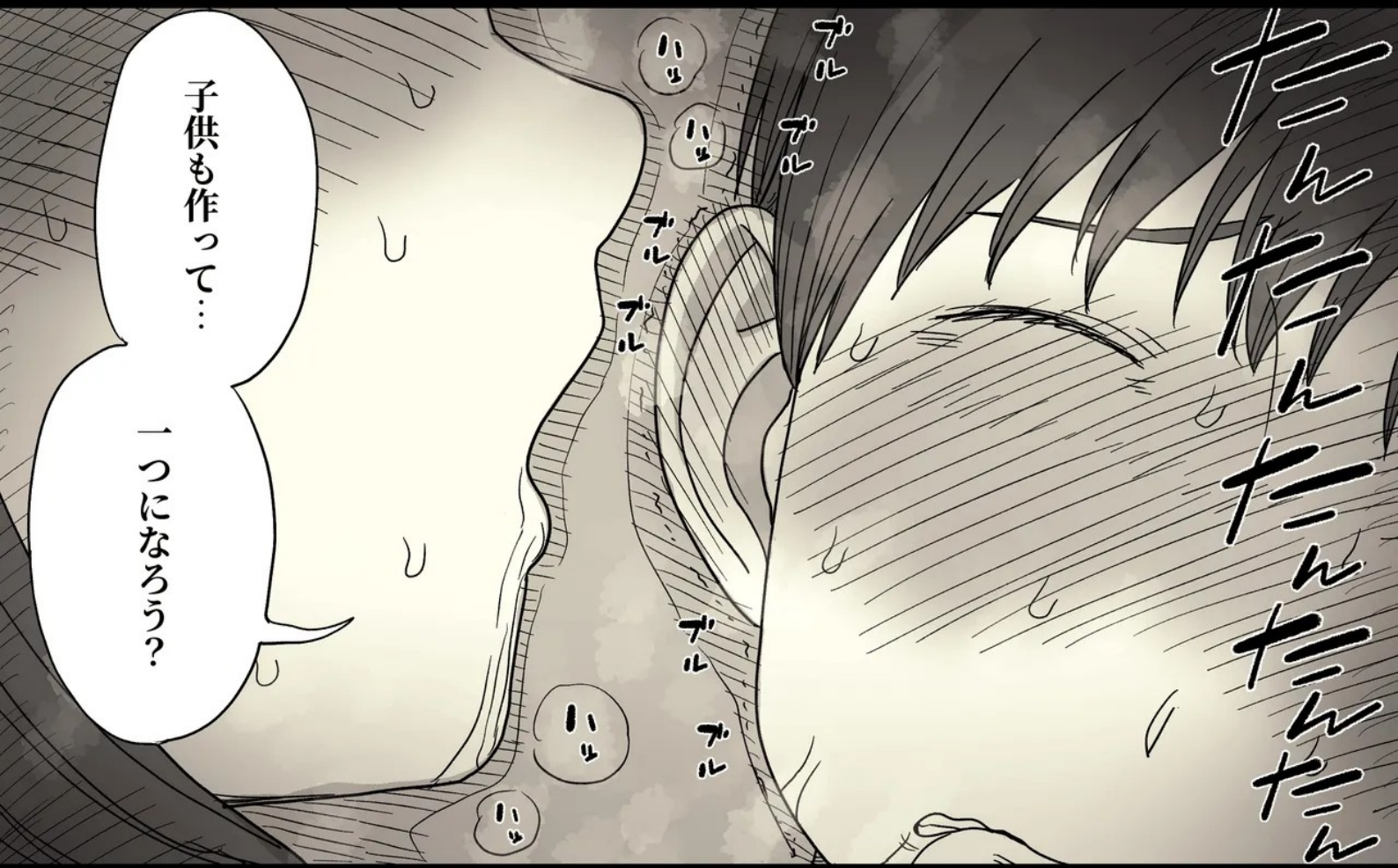


一生一緒に…

全部全部…

一つになろう？

たんたんたんたんたん



たんたんたんたんたんたんたんたんたんたん



孕ませて…っ♡

孕ませて…っ♡

孕ませて…っ♡

孕ませて…っ♡

うあああああ!

子種で孕ませて…っ♡

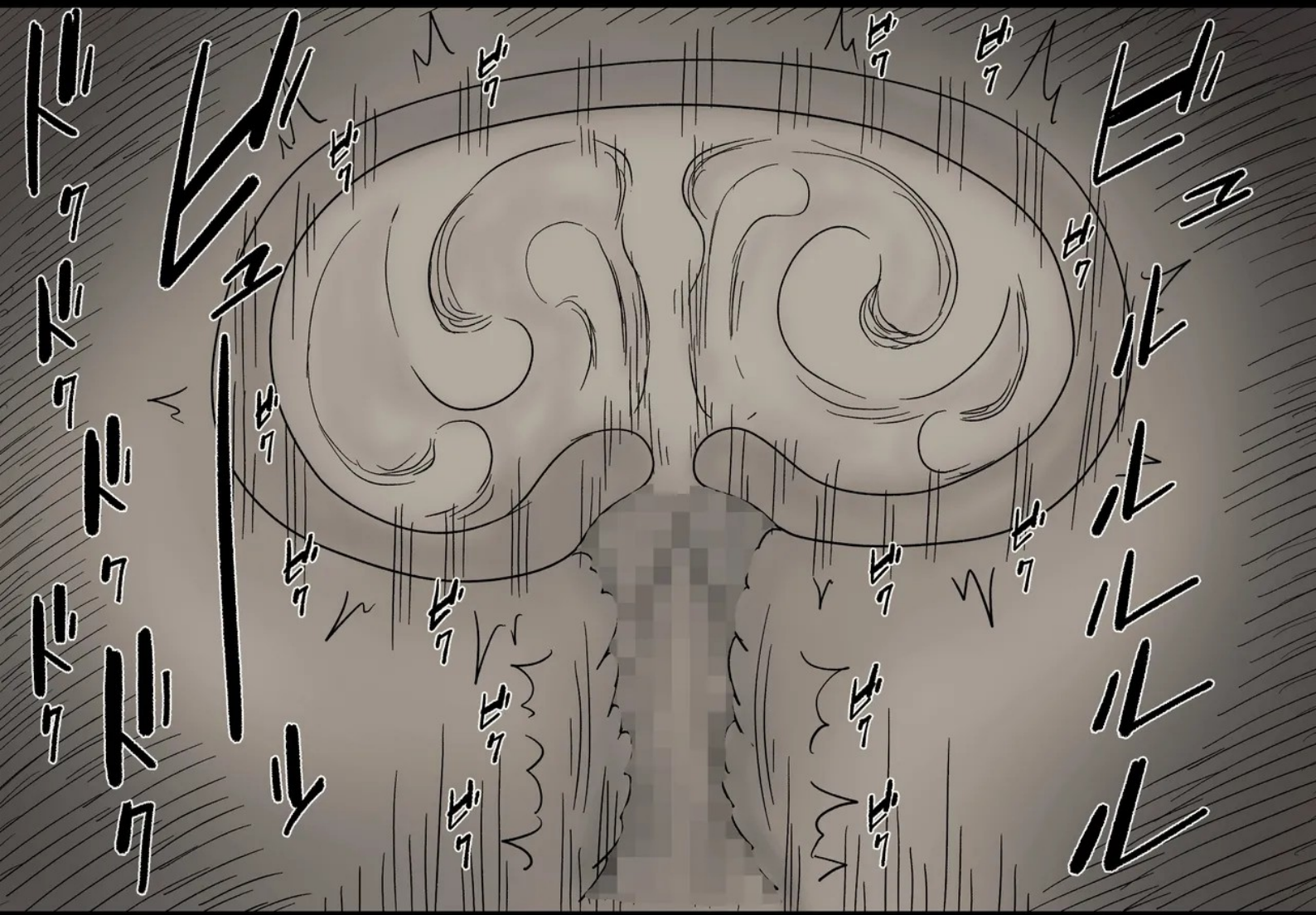
中にいっぱい…っ♡

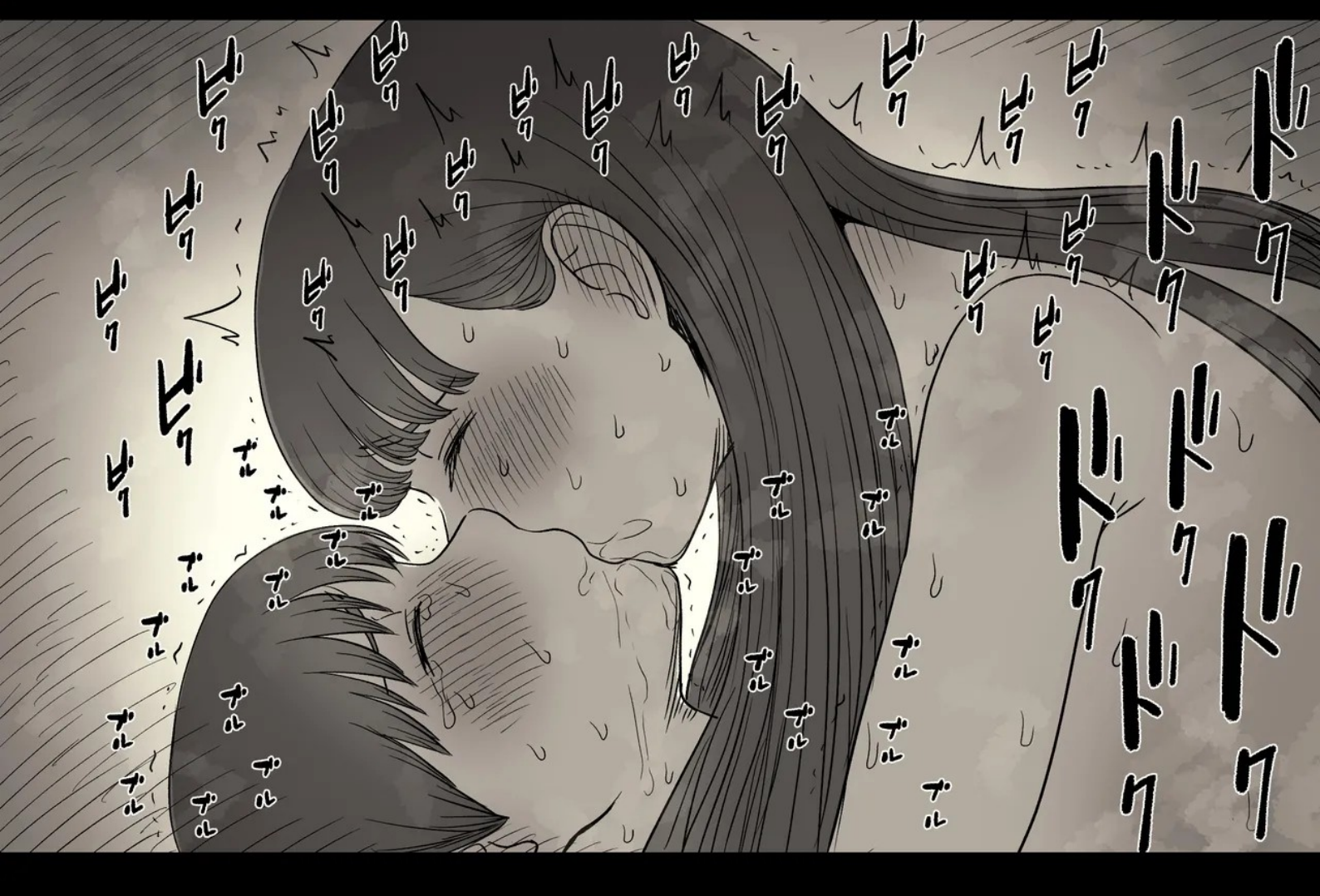
たんたんたんたんたんたんたん

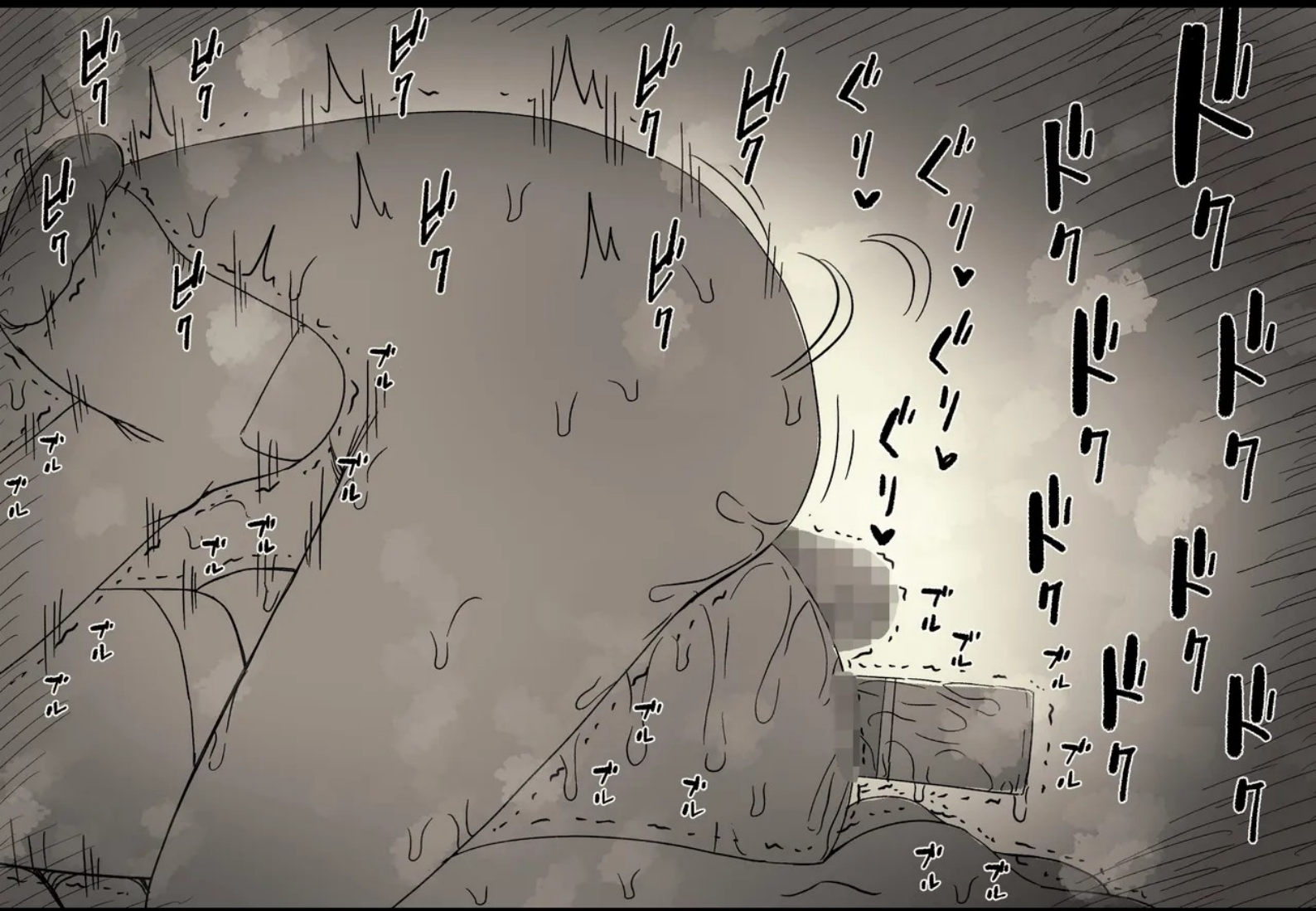
ねえ好き…♡
大好き…♡
ずっと好き…♡
いっぱい好き…♡
同じ気持ちでしょう？♡
わかるよ…♡
だから出して…♡
全部出して…♡
私の中に子種全部出して
子供孕ませて…♡

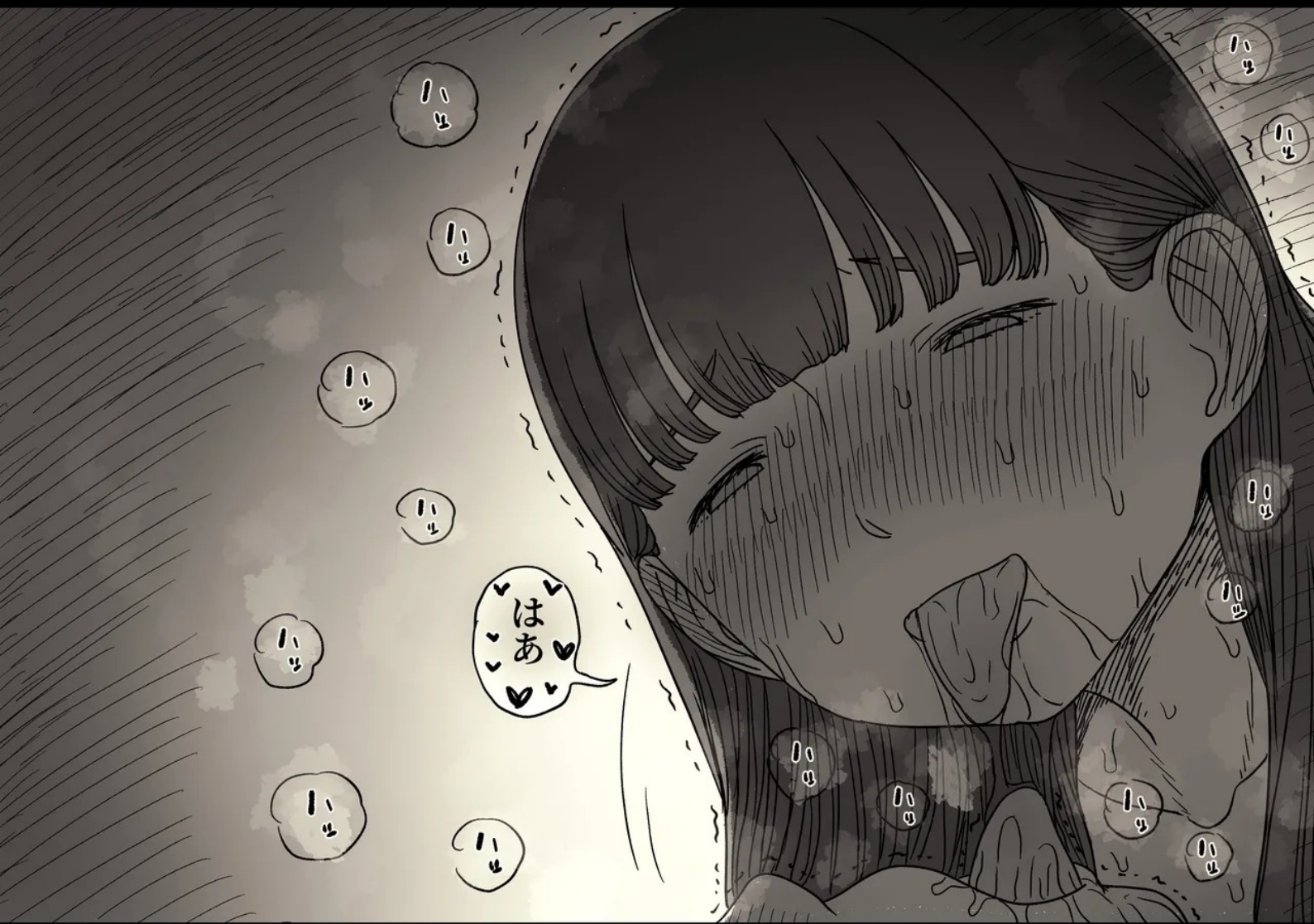


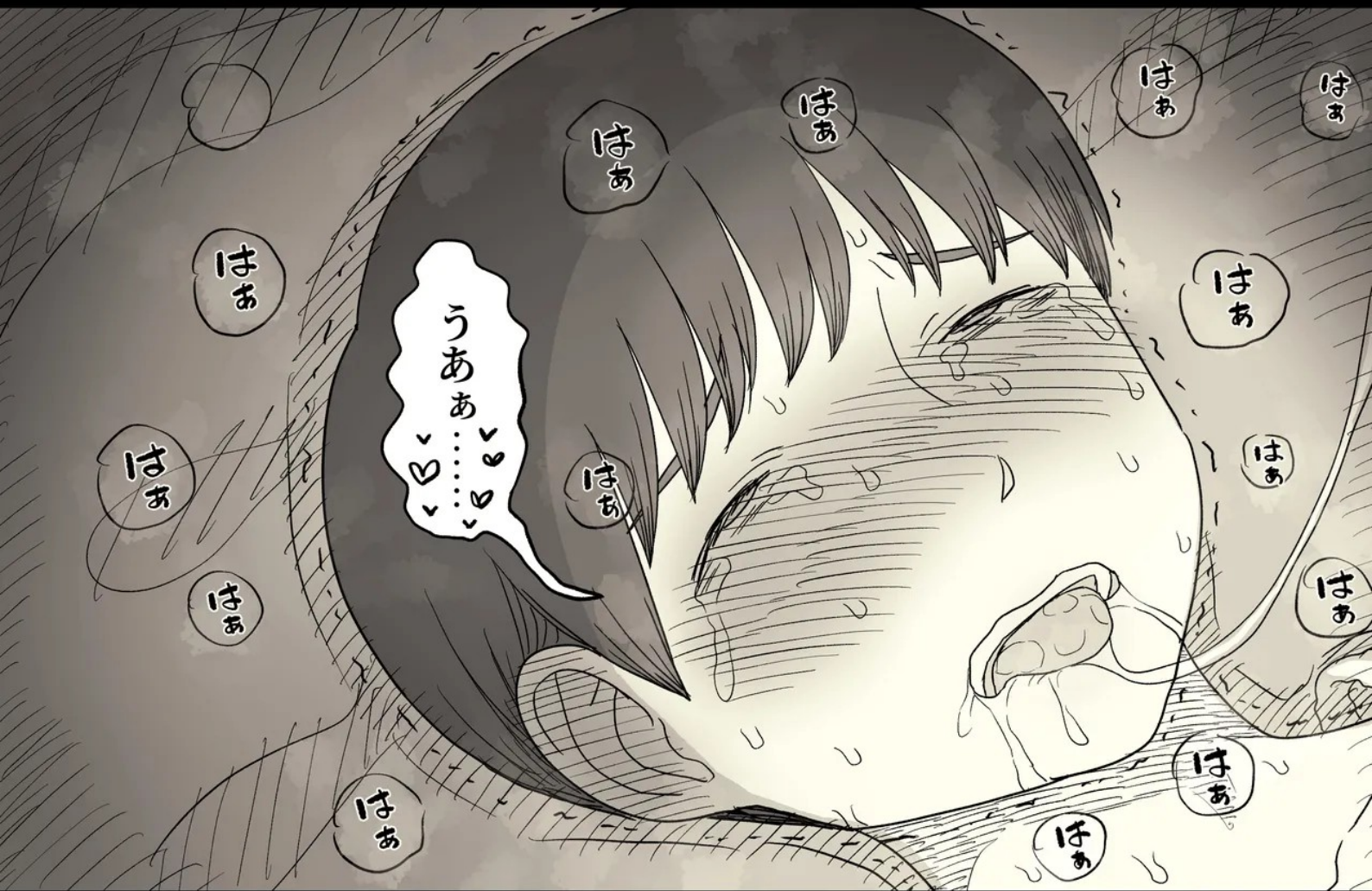


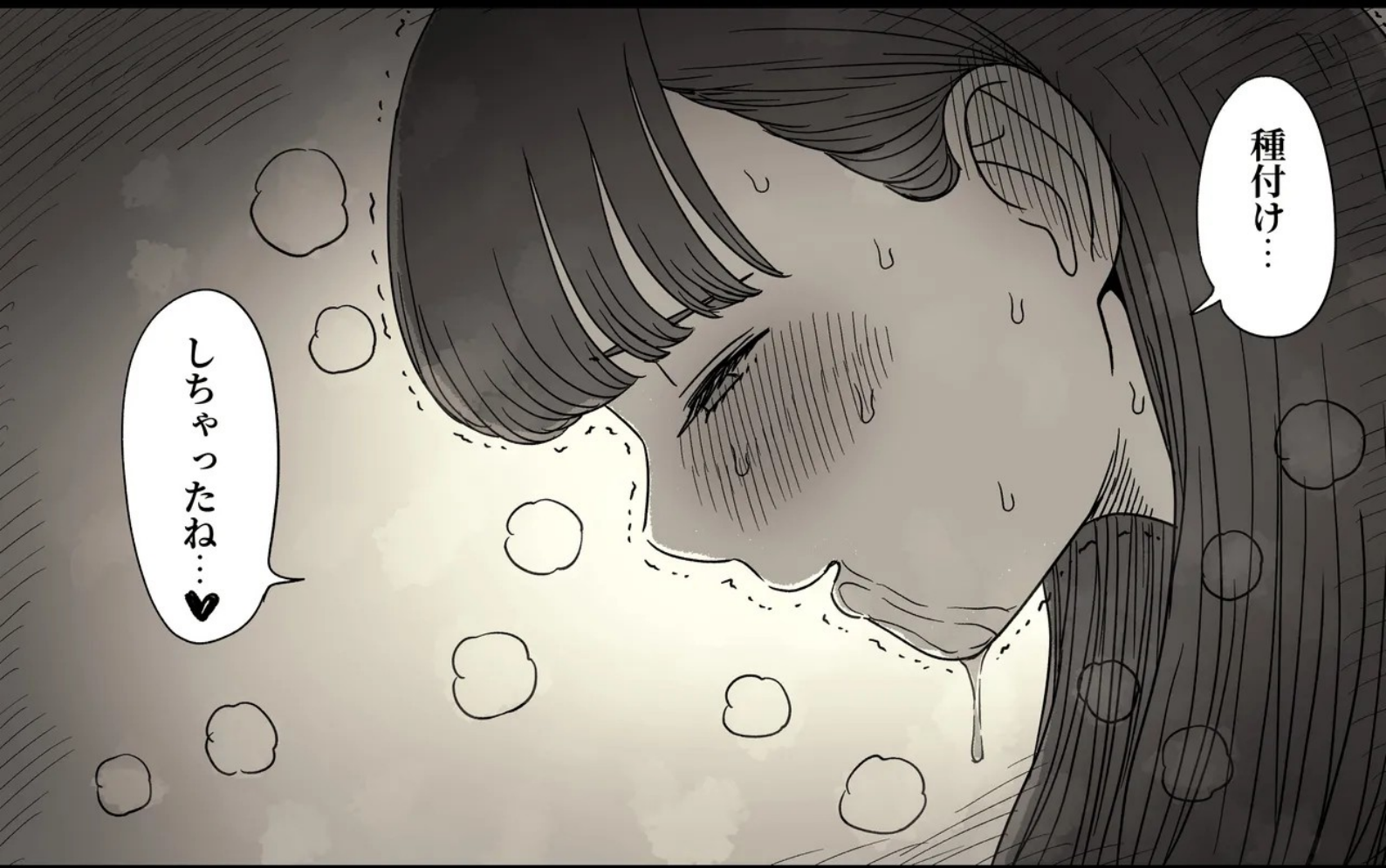






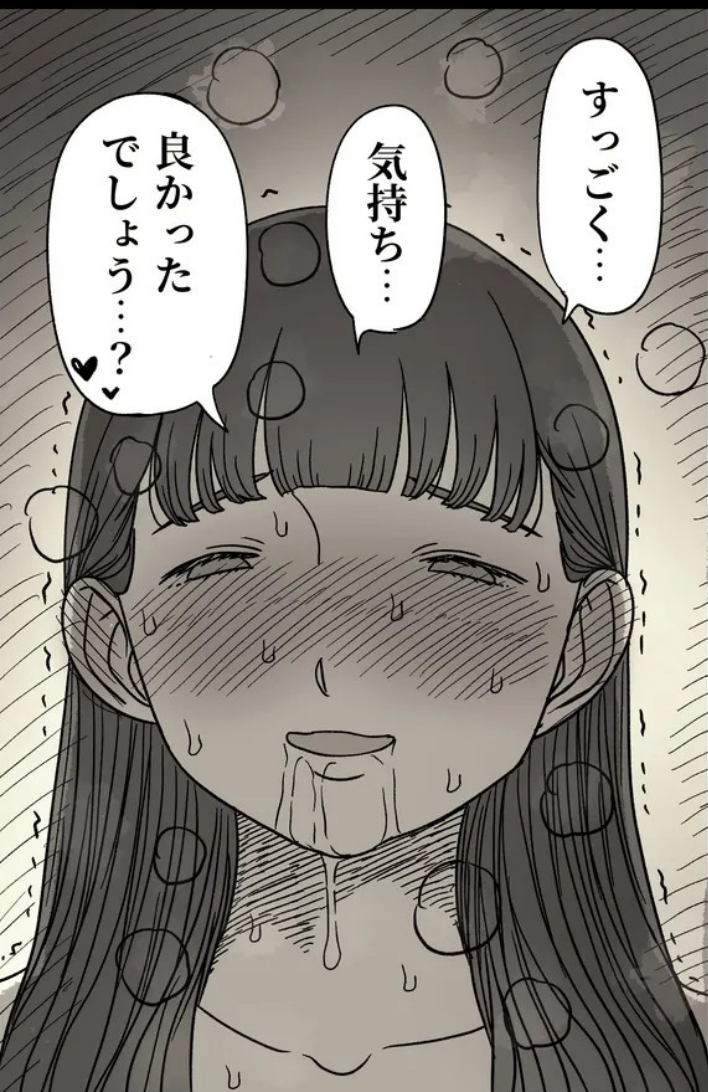






種付け…

しちゃったね…♡



すっごく…

気持ち…

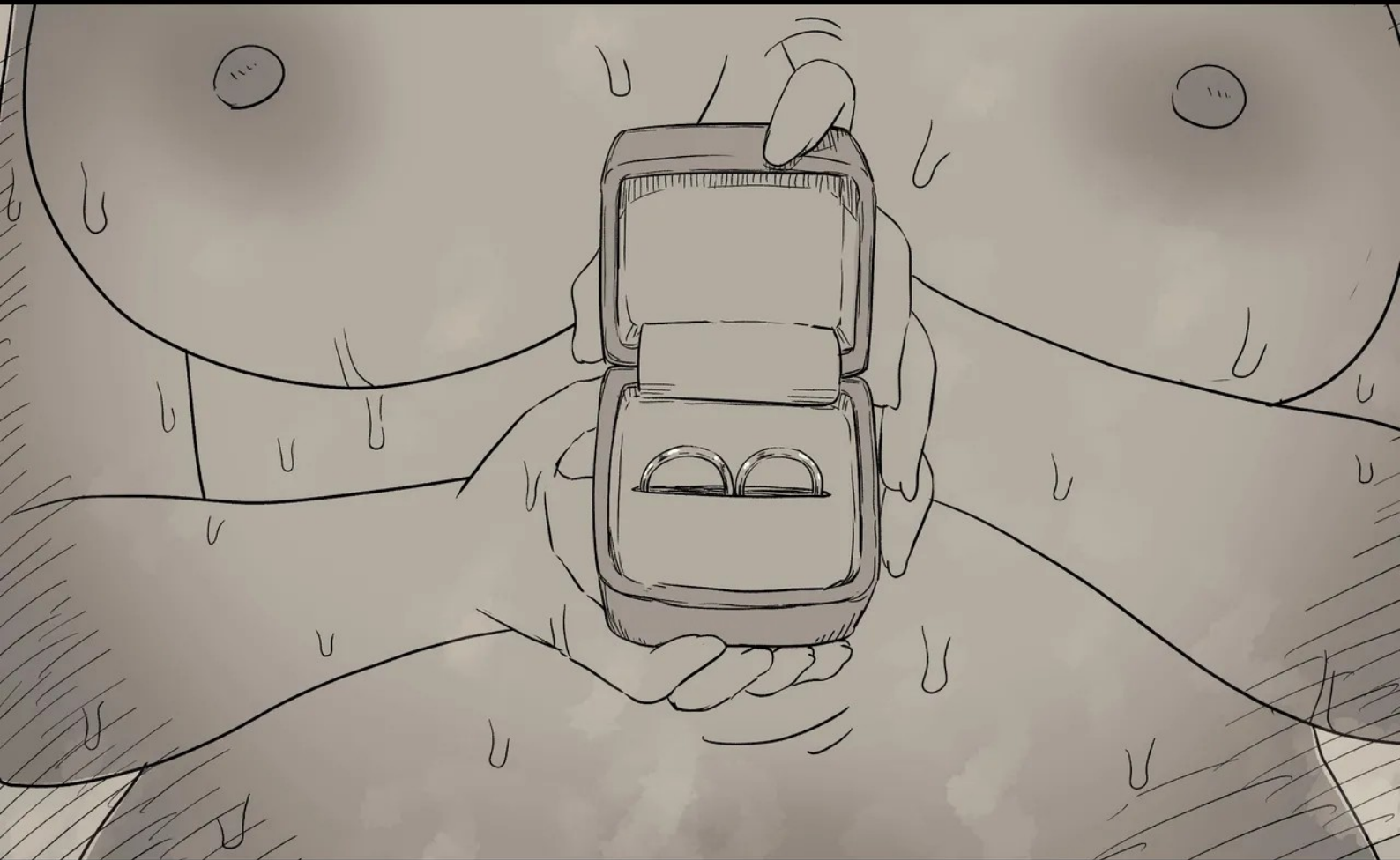
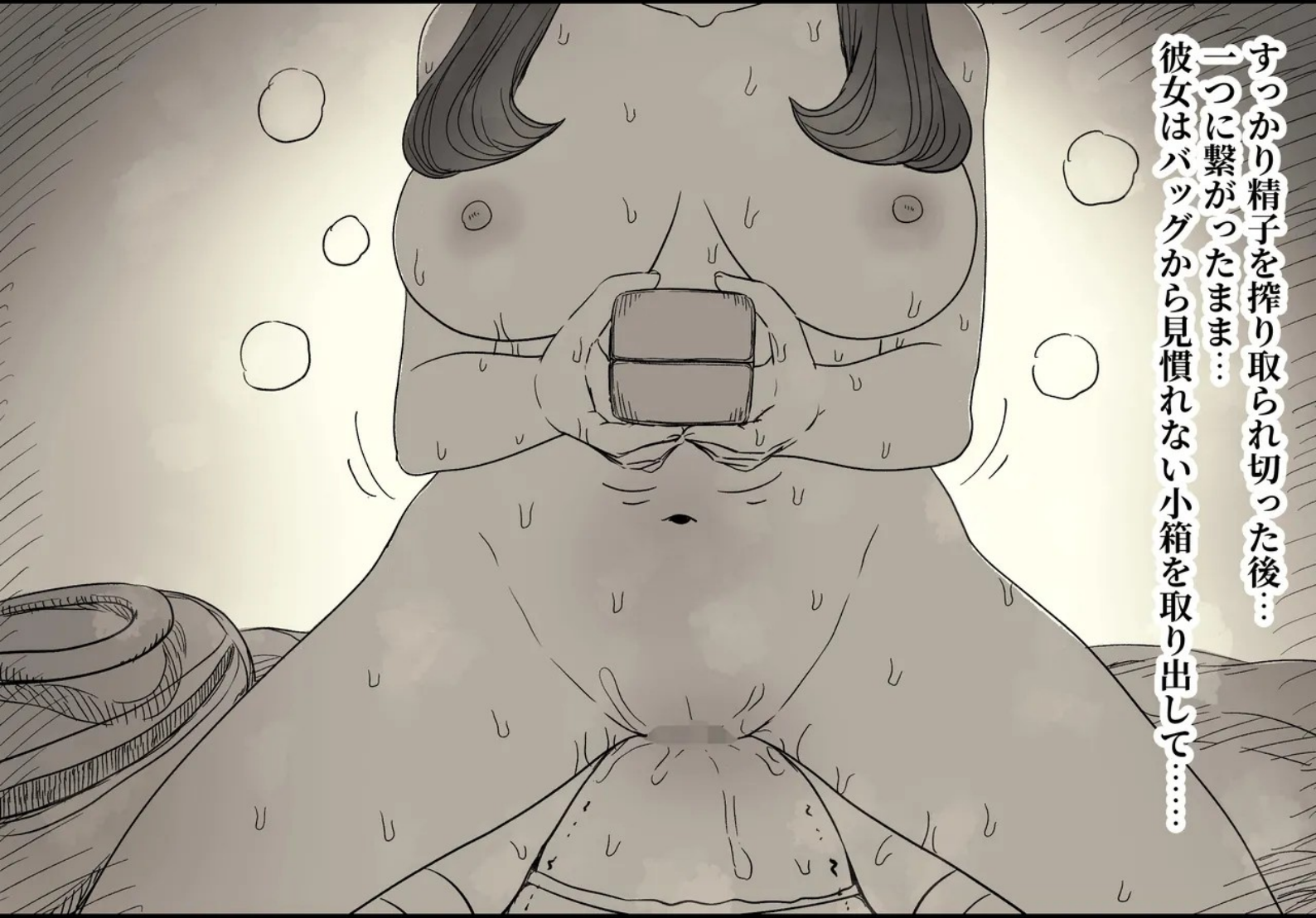
良かった
でしょう…?♡



すっごく…

気持ち良かった…♡

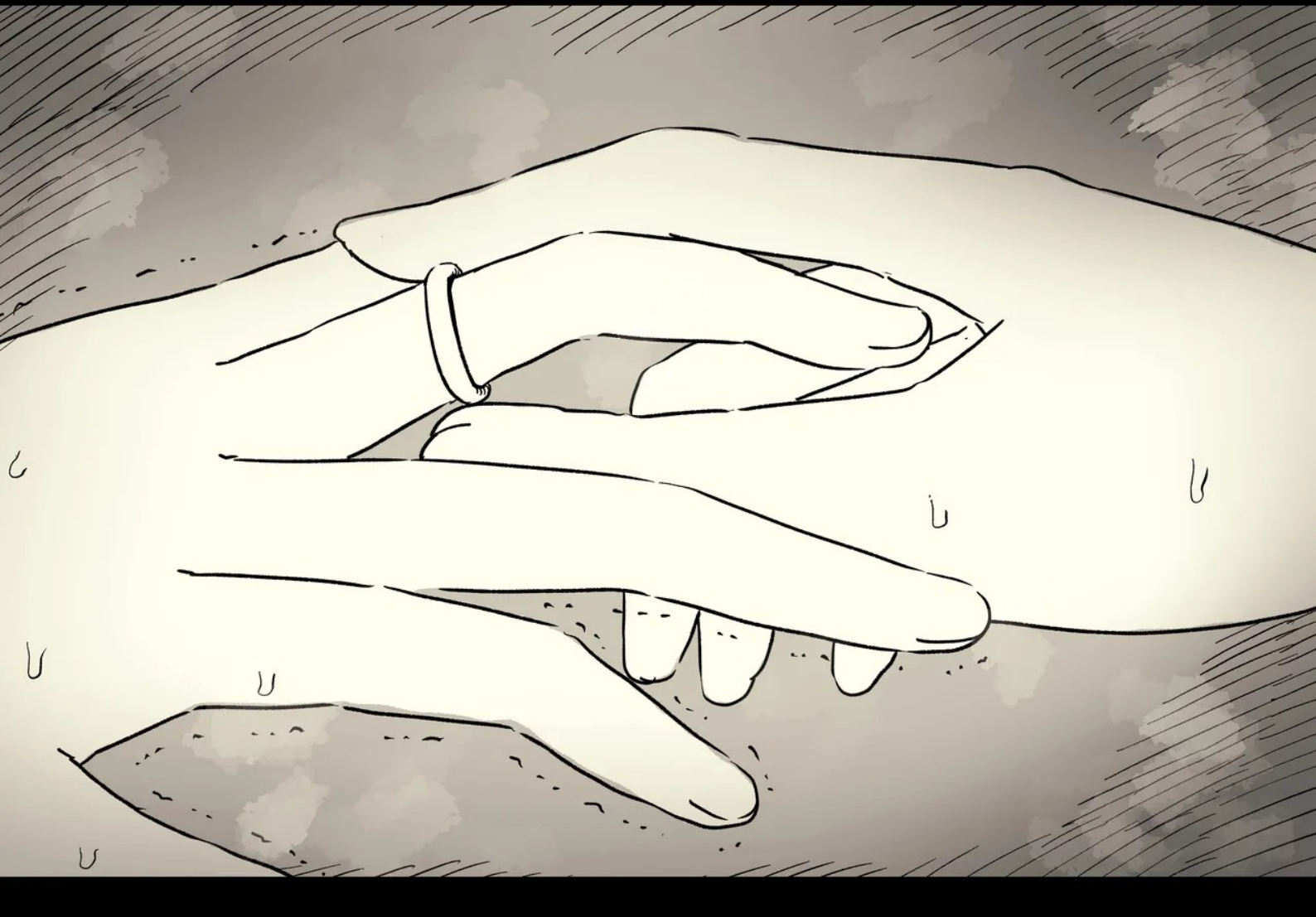
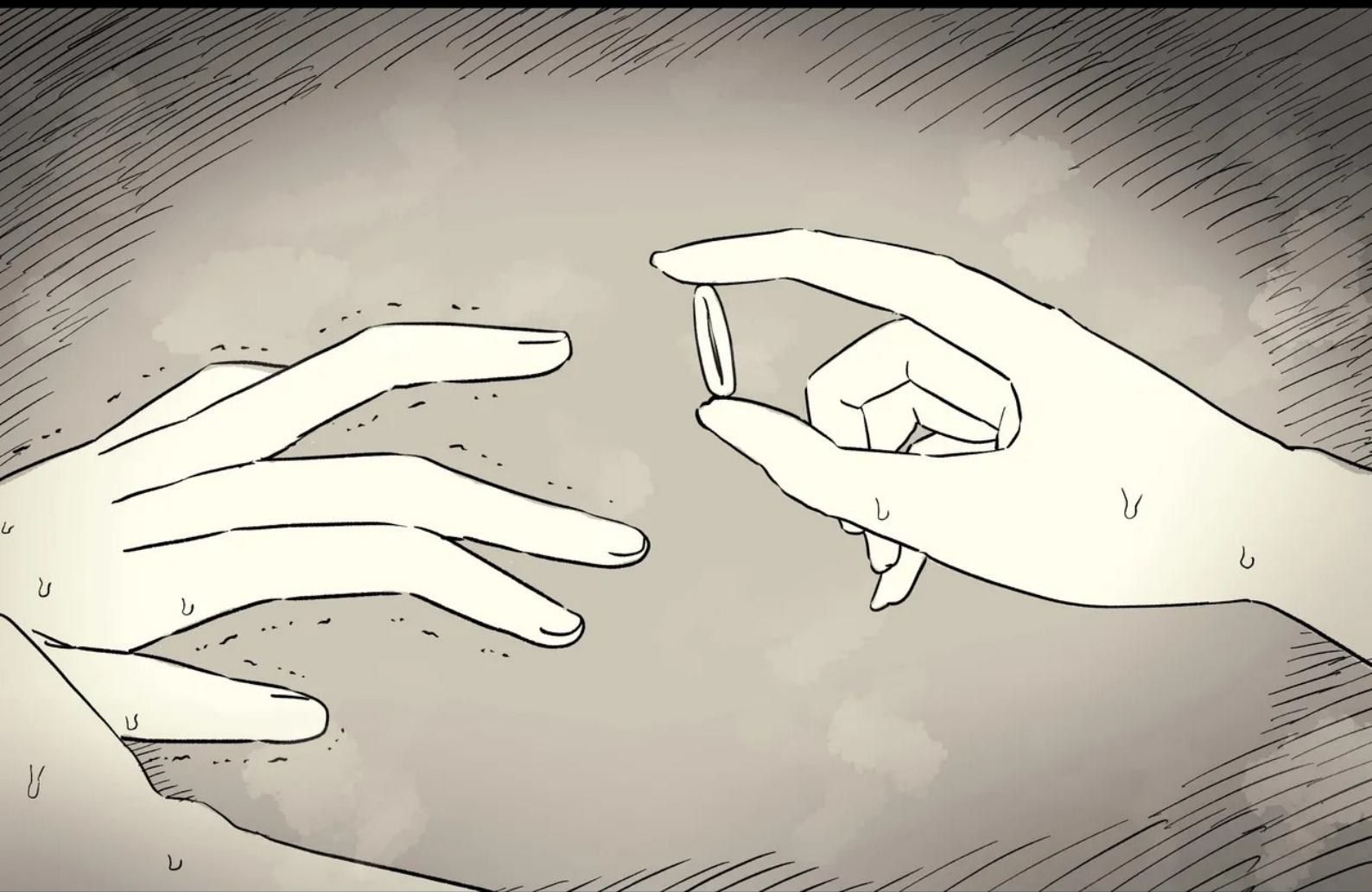
すっかり精子を搾り取られ切った後……
一つに繋がったまま……
彼女はバッグから見慣れない小箱を取り出して……





結婚して
ください...







これから
毎晩…

子供が
できるまで…

種付けして
貰いますからね…



彼女からのプロポーズ……

彼女は結婚指輪まで用意していて……

今まで二人で紡いできた性と愛の記憶を

今日の二日で辿るように体験させてくれた上で……

僕を女の子にして……まさか彼女からの告白……

こんな……こんな事って……

こんなにも彼女らしく深い愛を表現してくれて僕の心は彼女に……

彼女との二人だけの世界にドロドロに浸り切って……溶け切って……

それから毎日…

彼女に本物の種付け生中出し子作りセックスをしまくる日々が始まりました…



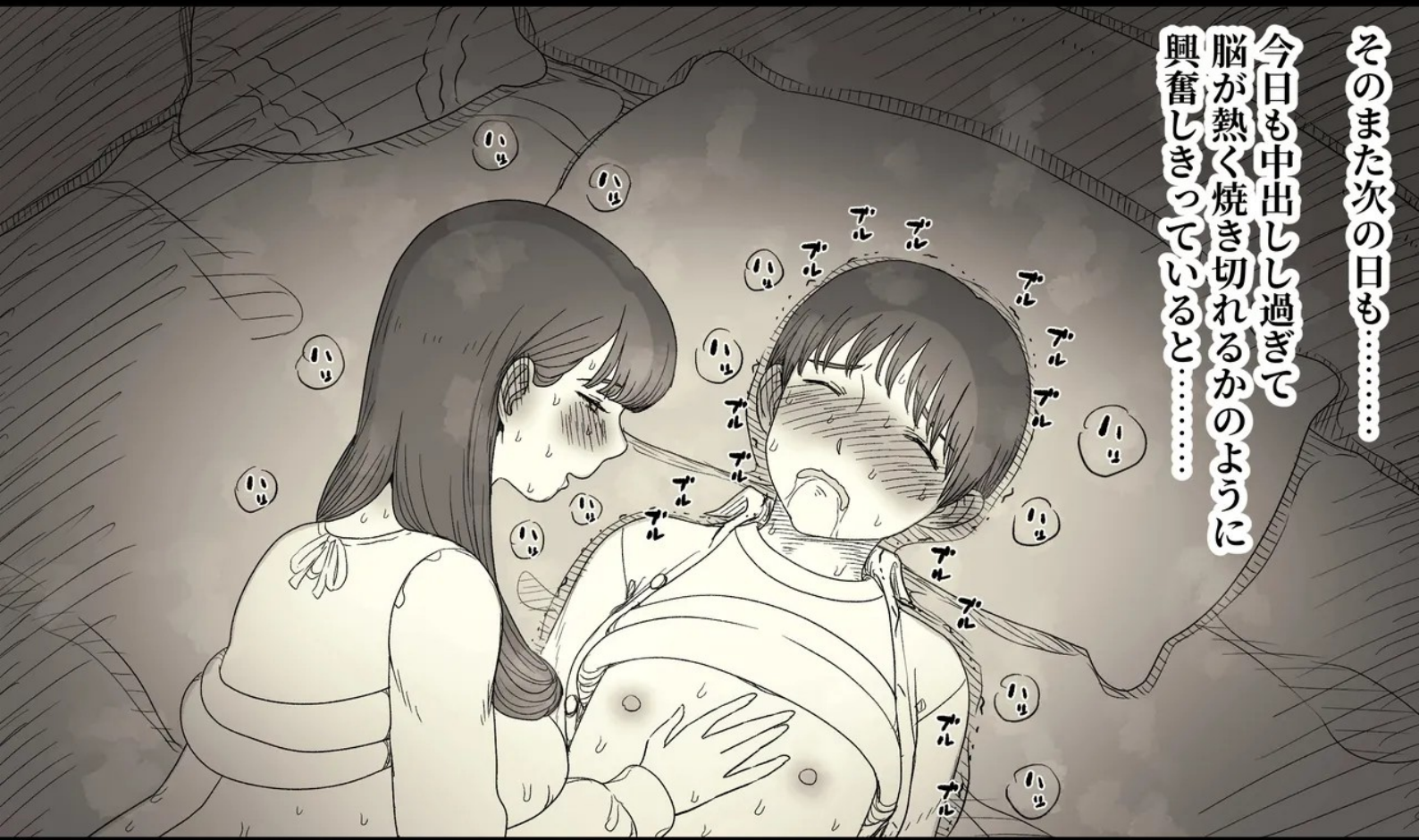
また次の日も……





そのまた次の日も……

今日も中出しし過ぎて
脳が熱く焼き切れるかのように
興奮しきつていると……

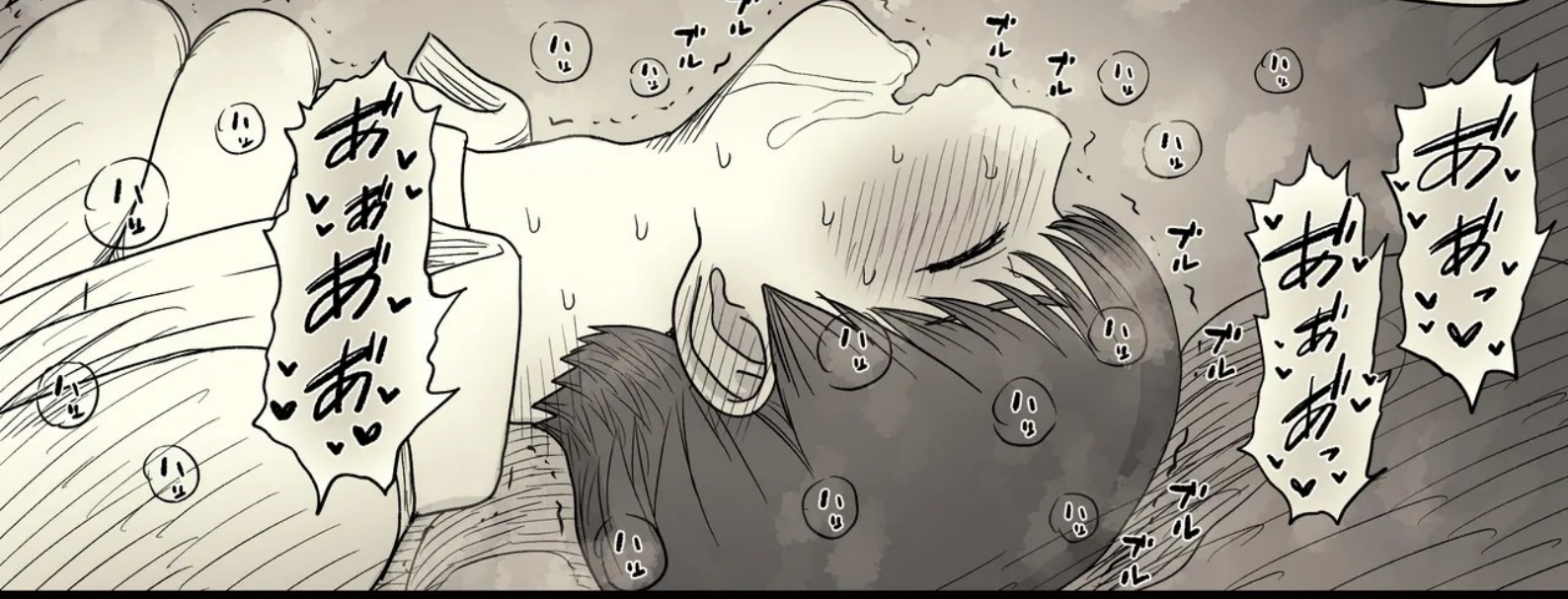


彼女はまた追い撃ちをかけて搾り出すように僕の開発されきった後ろの性感帯も刺激して僕を天国へと連れて行ってくれました...

れる れる
ちゅ りゅ
れる れる れる
ちゅ りゅ りゅ
れる れる れる
ちゅ りゅ りゅ
れる れる れる
ちゅ りゅ りゅ
れる れる れる
ちゅ りゅ りゅ



ちゅ りゅ りゅ りゅ りゅ れる れる れる れる れる れる れる







れるるるるるる
ちゅちゅちゅちゅちゅちゅ

わあわあわあ
おまおまおま
ちゅちゅちゅちゅ



トトトトトトトト

シシシシシシ
シシシシシシ
シシシシシシ

ア ア ア ア ア ア ア
シ シ シ シ シ シ シ



天国へと連れて行かれた僕は…
またどくどくと睪丸に生産された子種を
たっぷり搾り取られて……

れるれるれる
れるれるれる
れるれるれる

孕ませて孕ませて
孕ませて孕ませて
孕ませて孕ませて

今日もまた女装させられながらデイルドでお尻を犯されながら
耳を責められながら彼女に抱きしめられて…
彼女に何度も何度も種付けして……



たっ

たっ

たっ

たっ

たっ

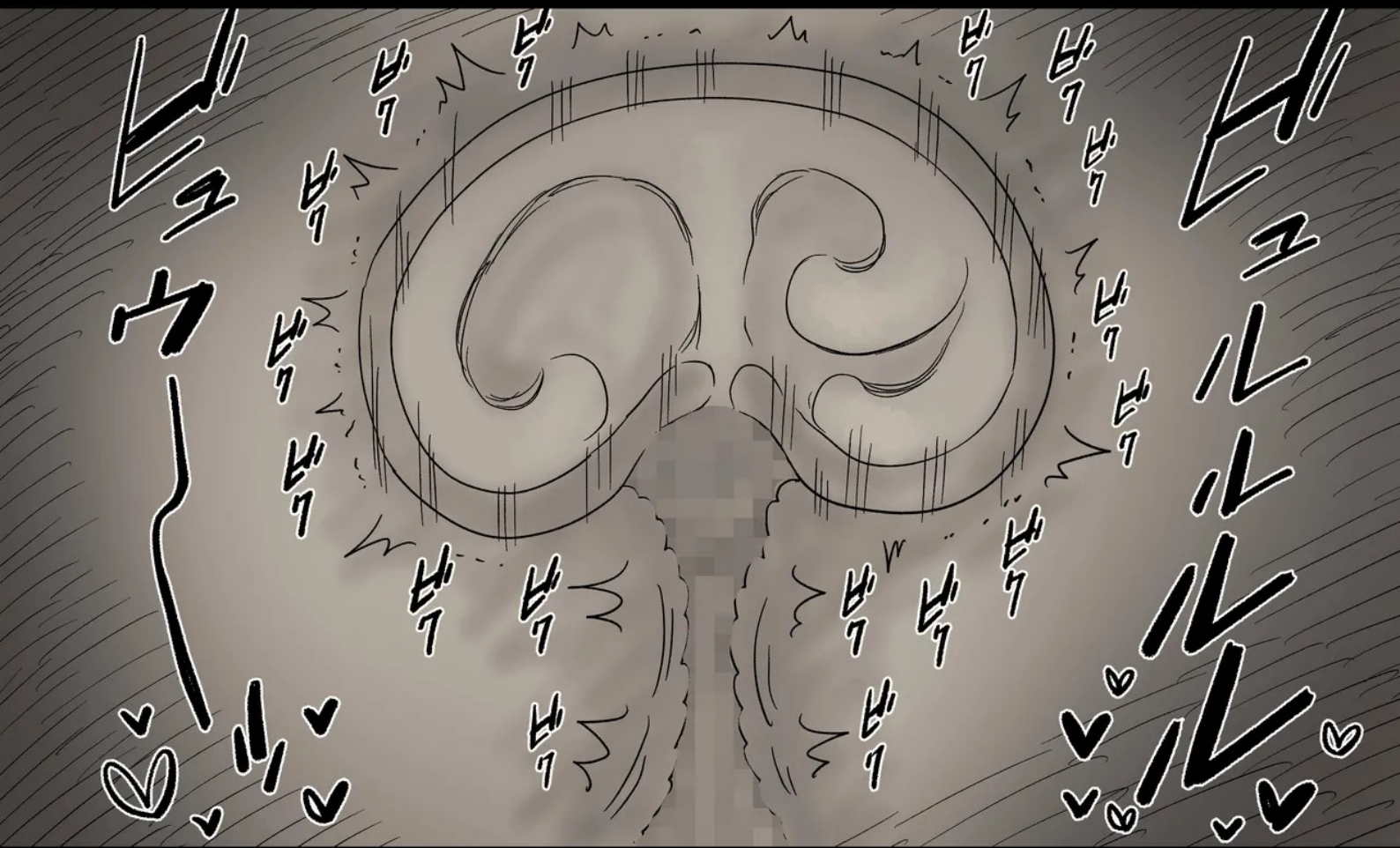
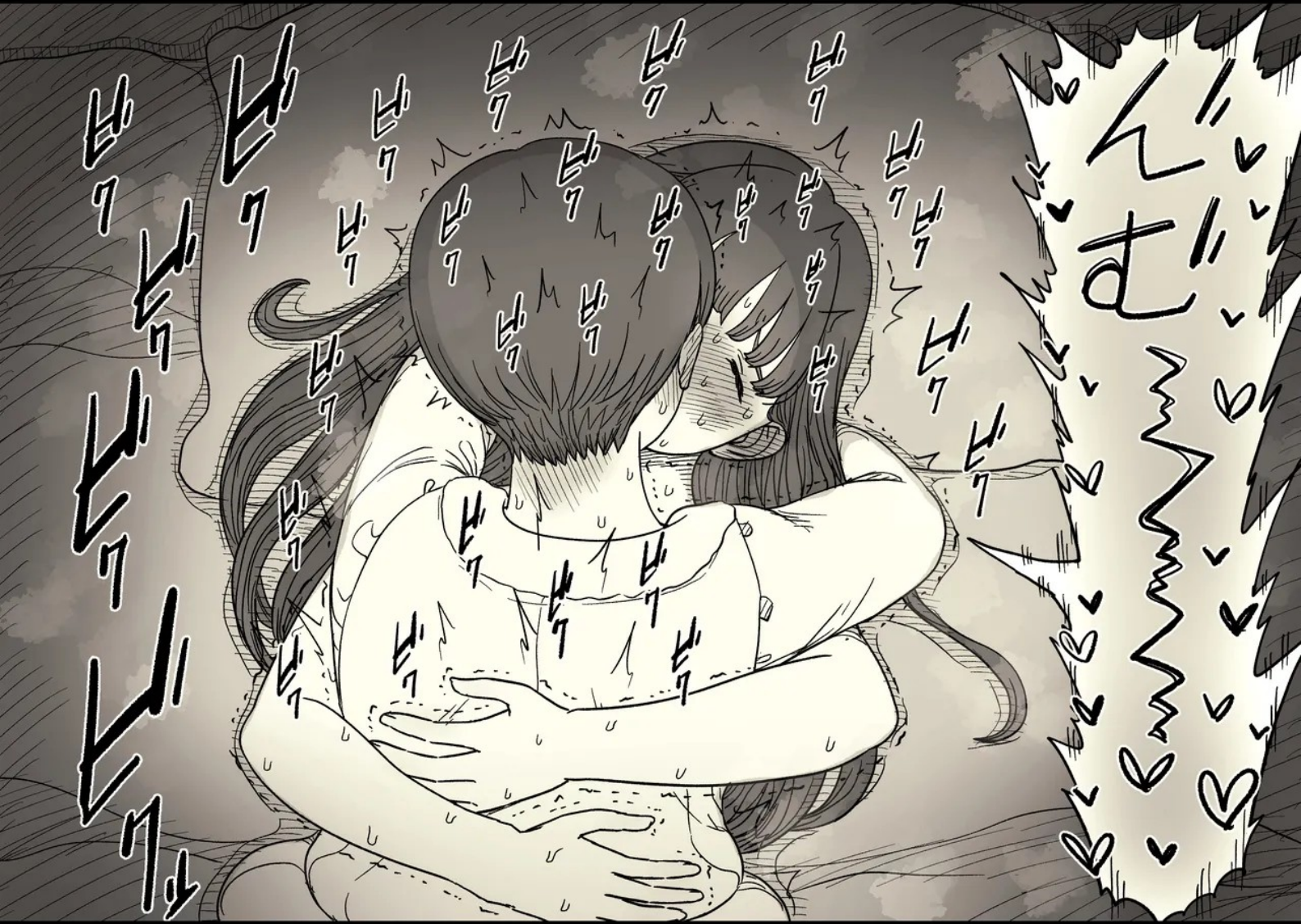
たっ

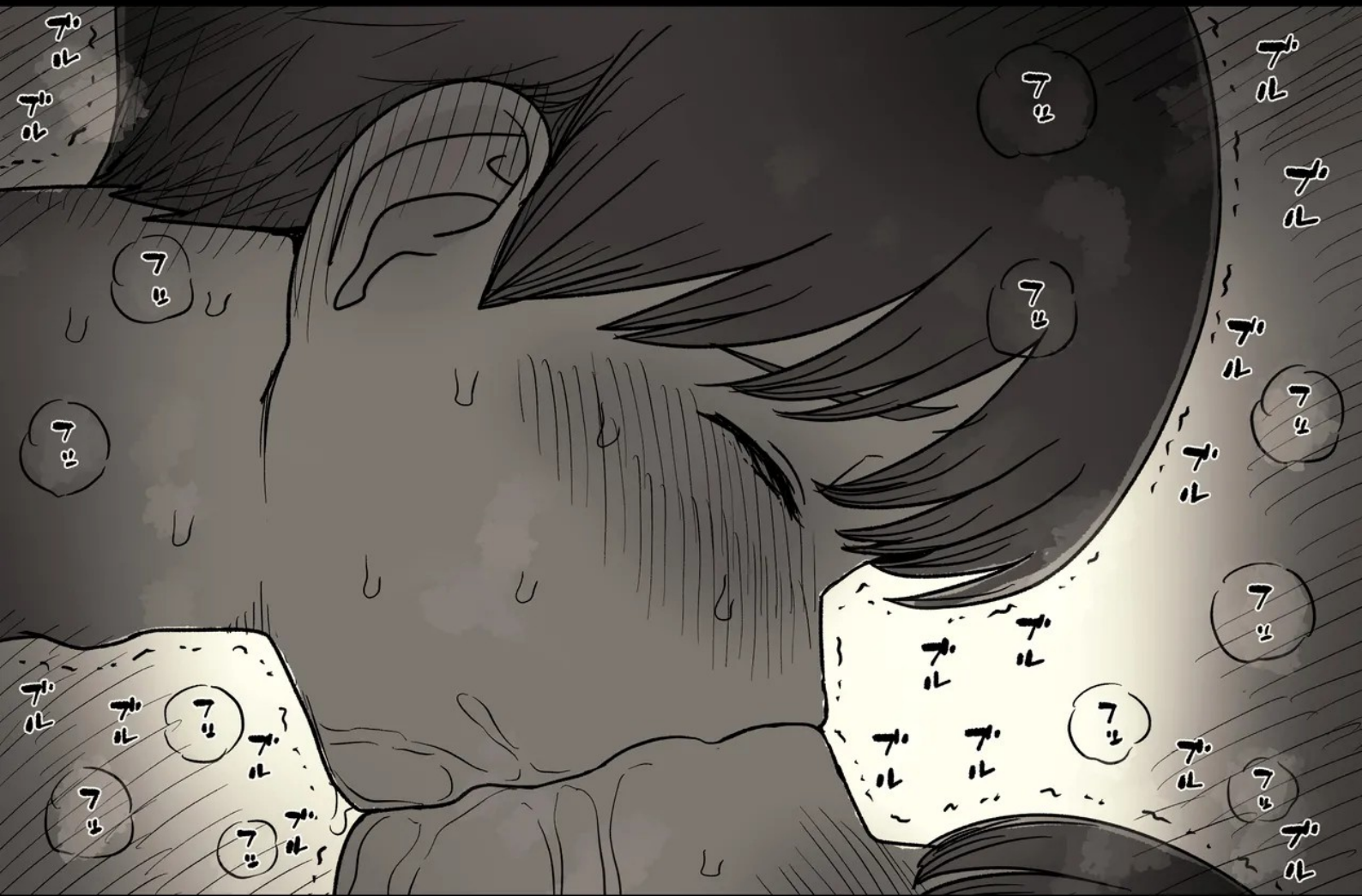
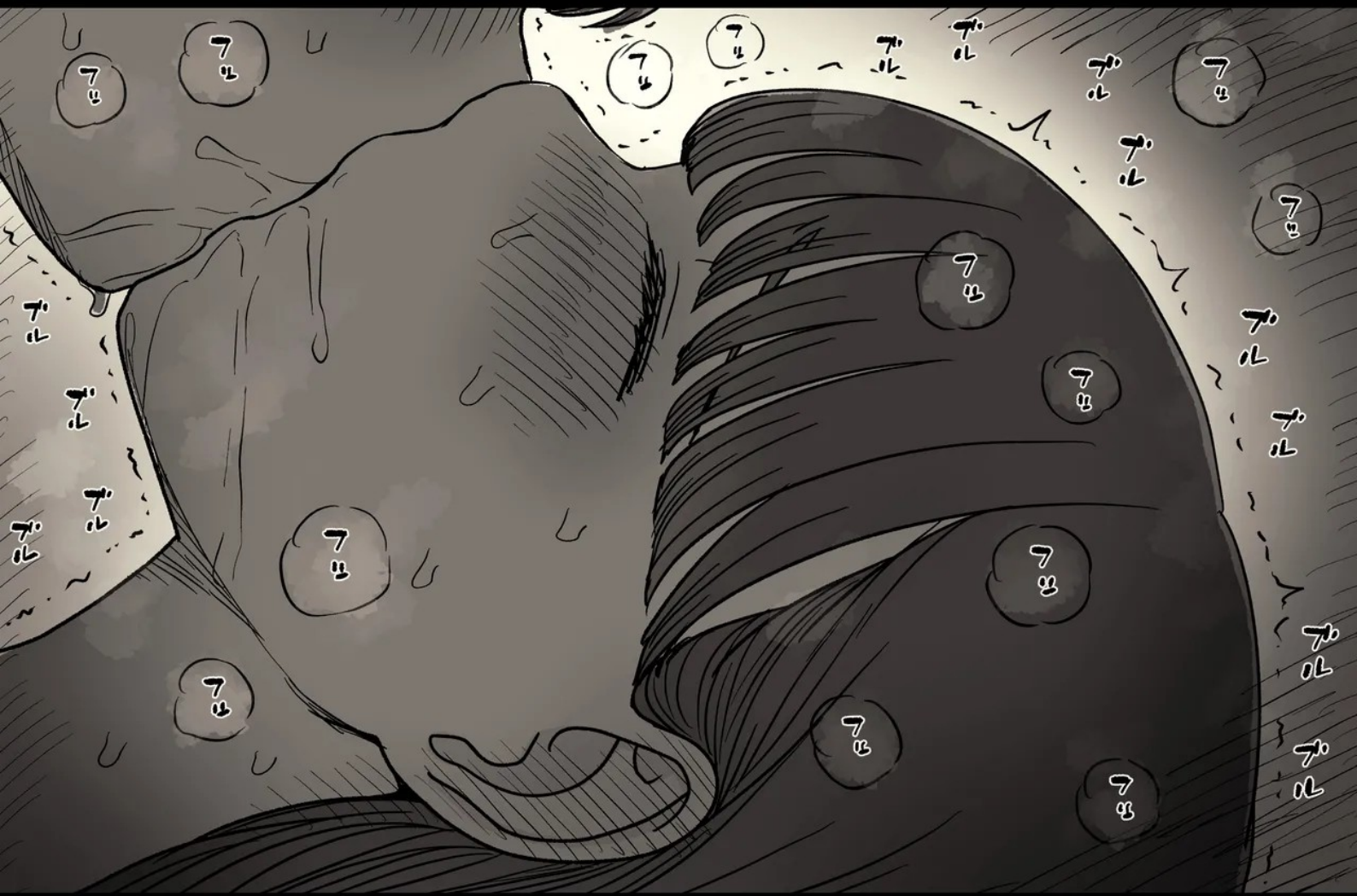


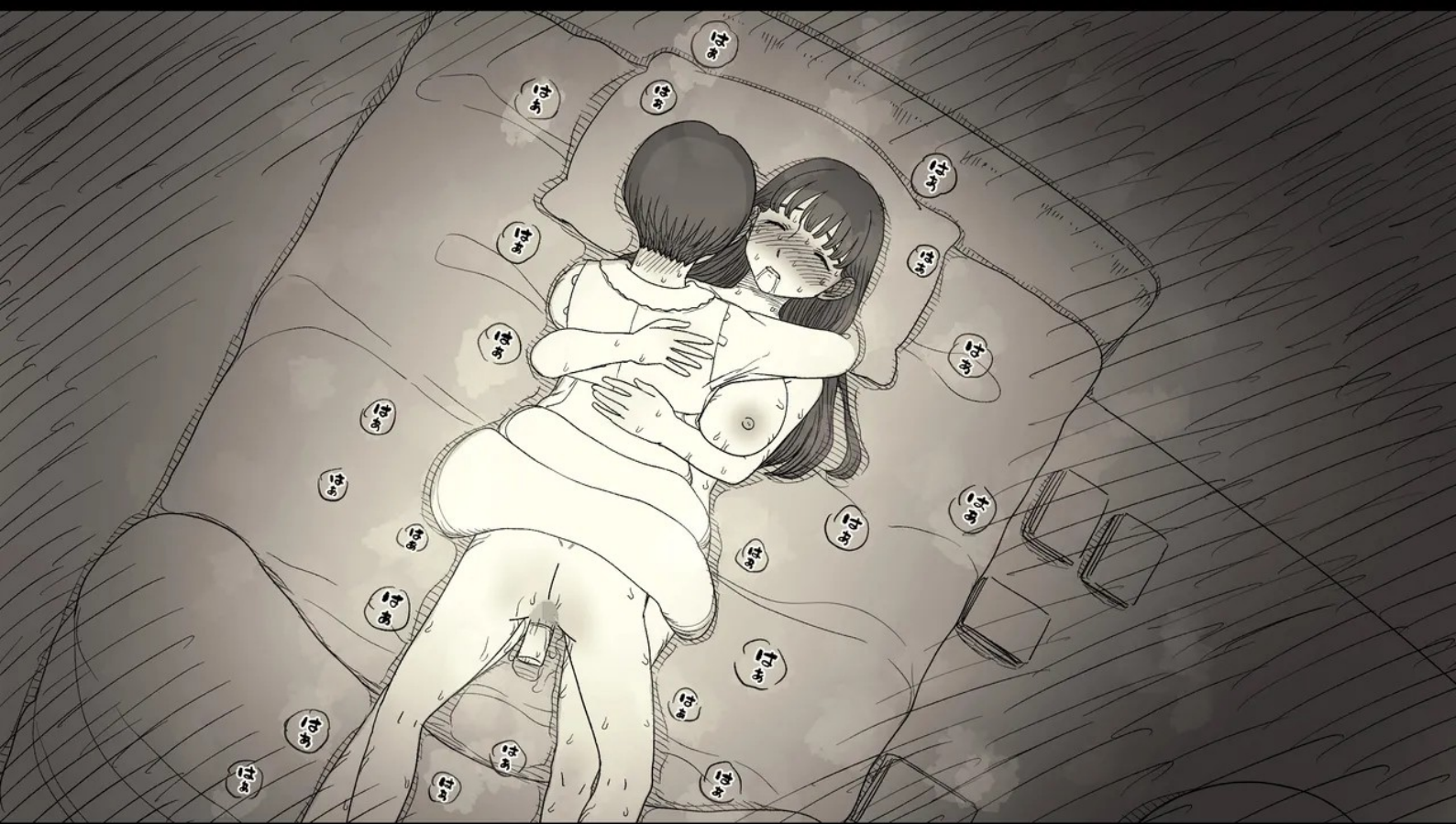
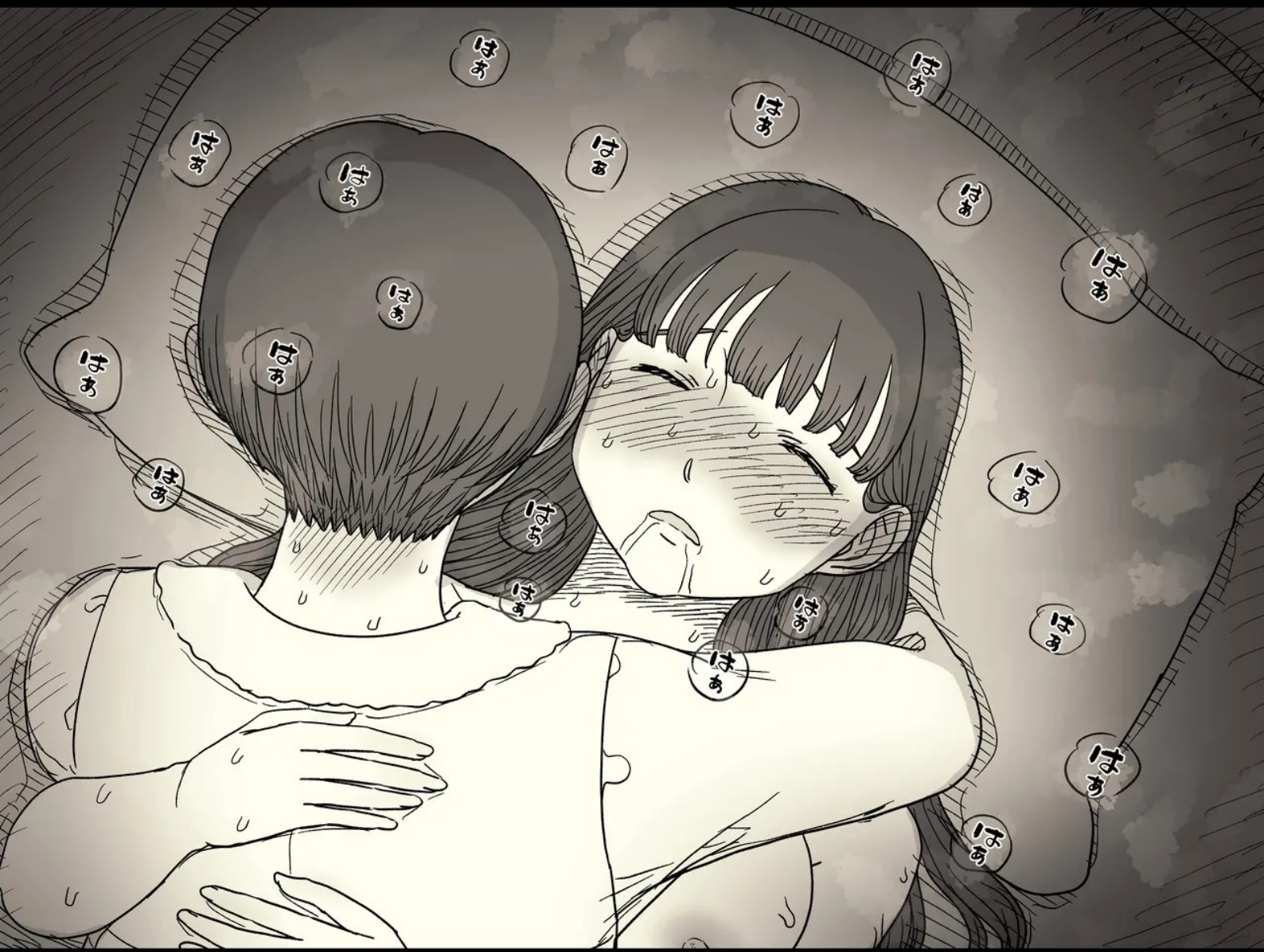
た た た た た た た
ん ん ん ん ん ん ん

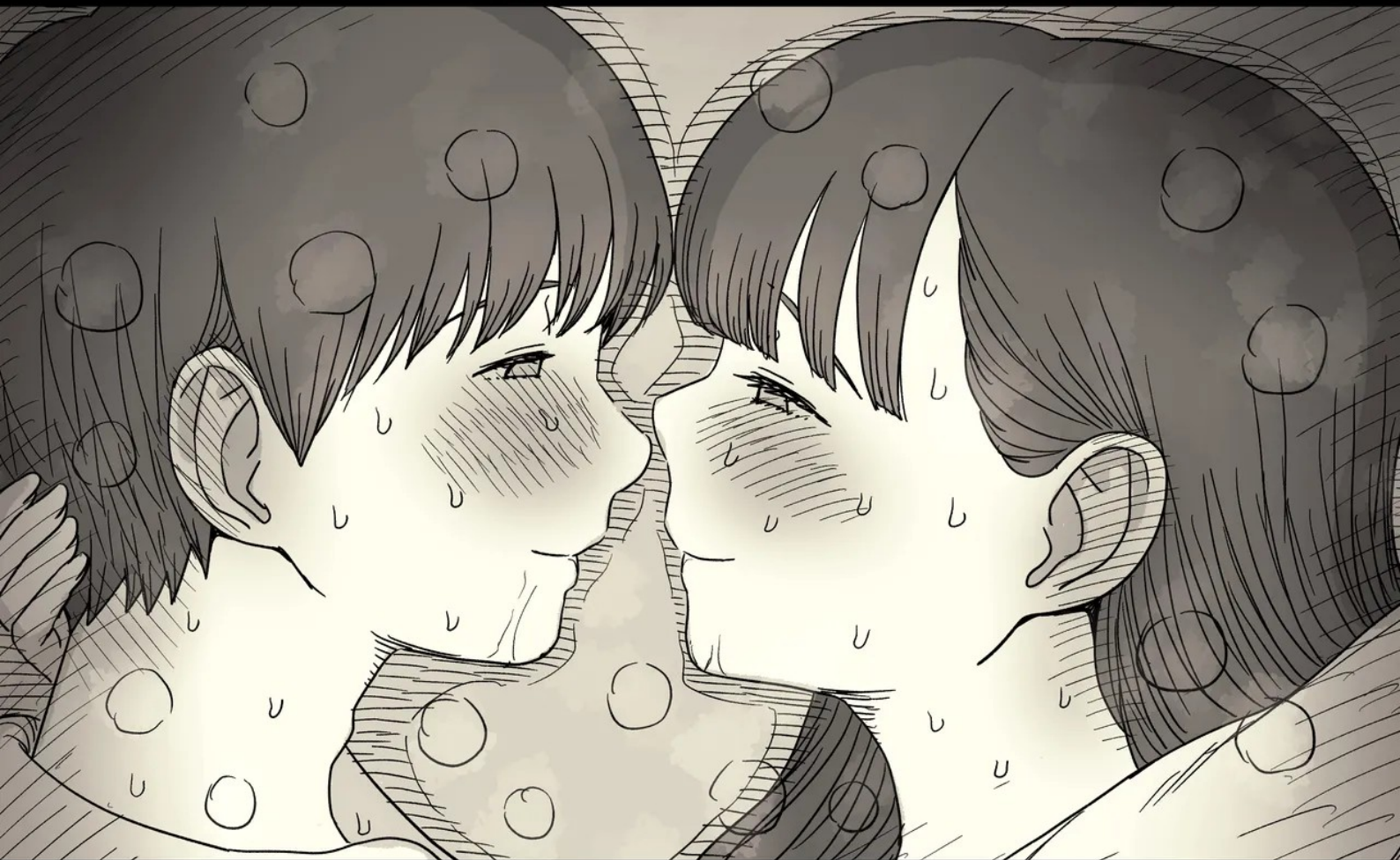


た た た た た た た
ん ん ん ん ん ん ん

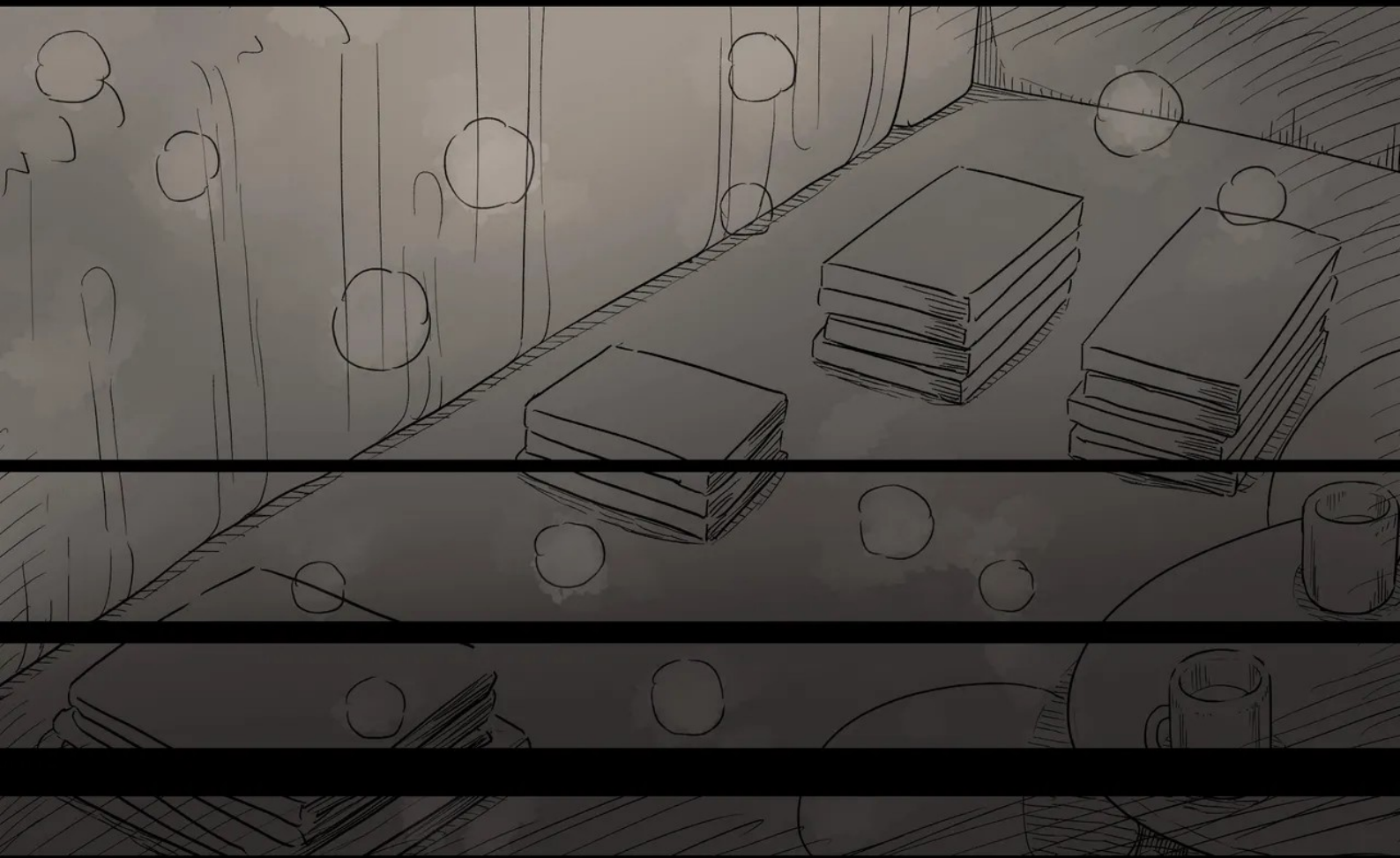












毎日…毎晩……

彼女にたっぷり搾り取られ……

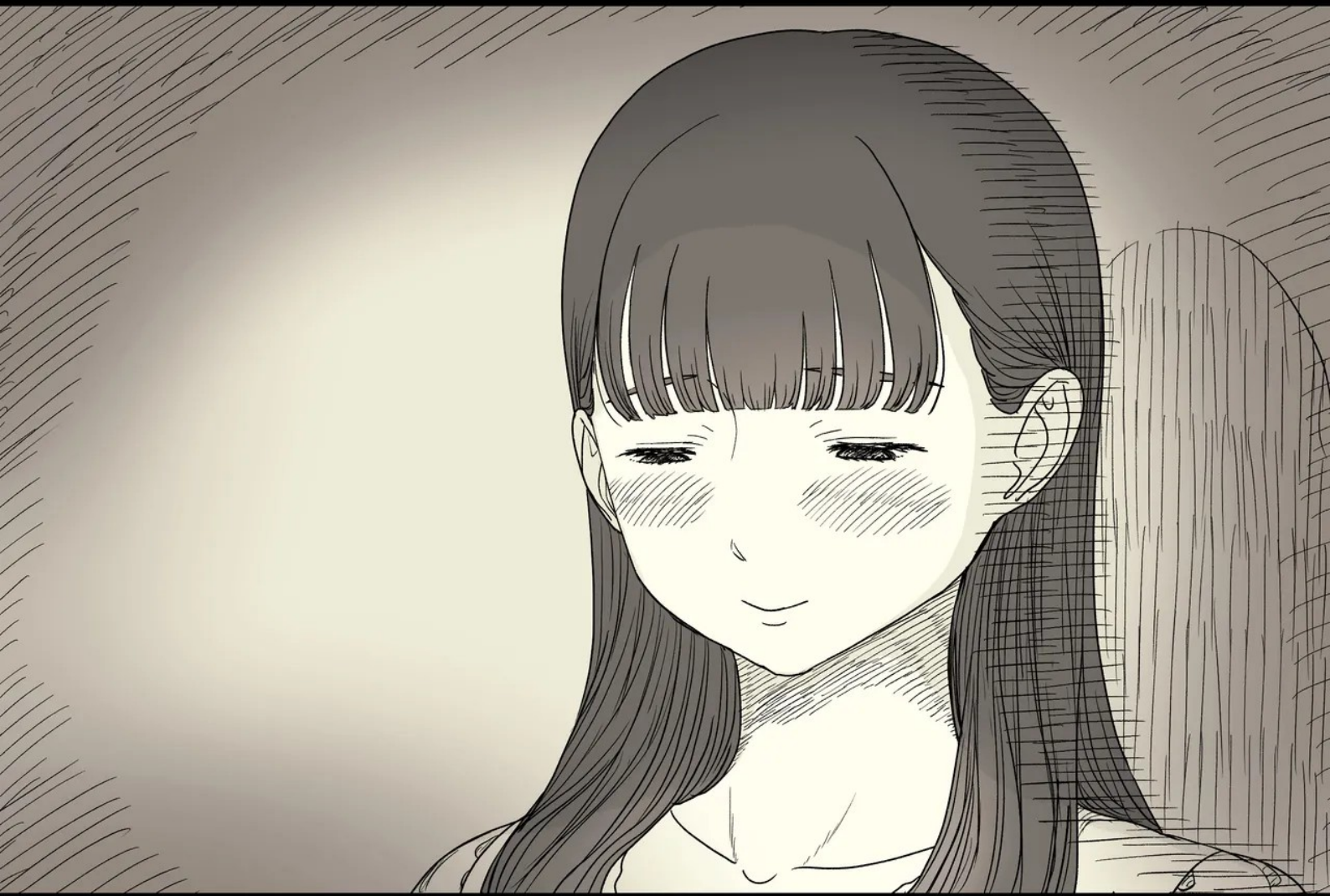
中出しをし続けて……

そうして……

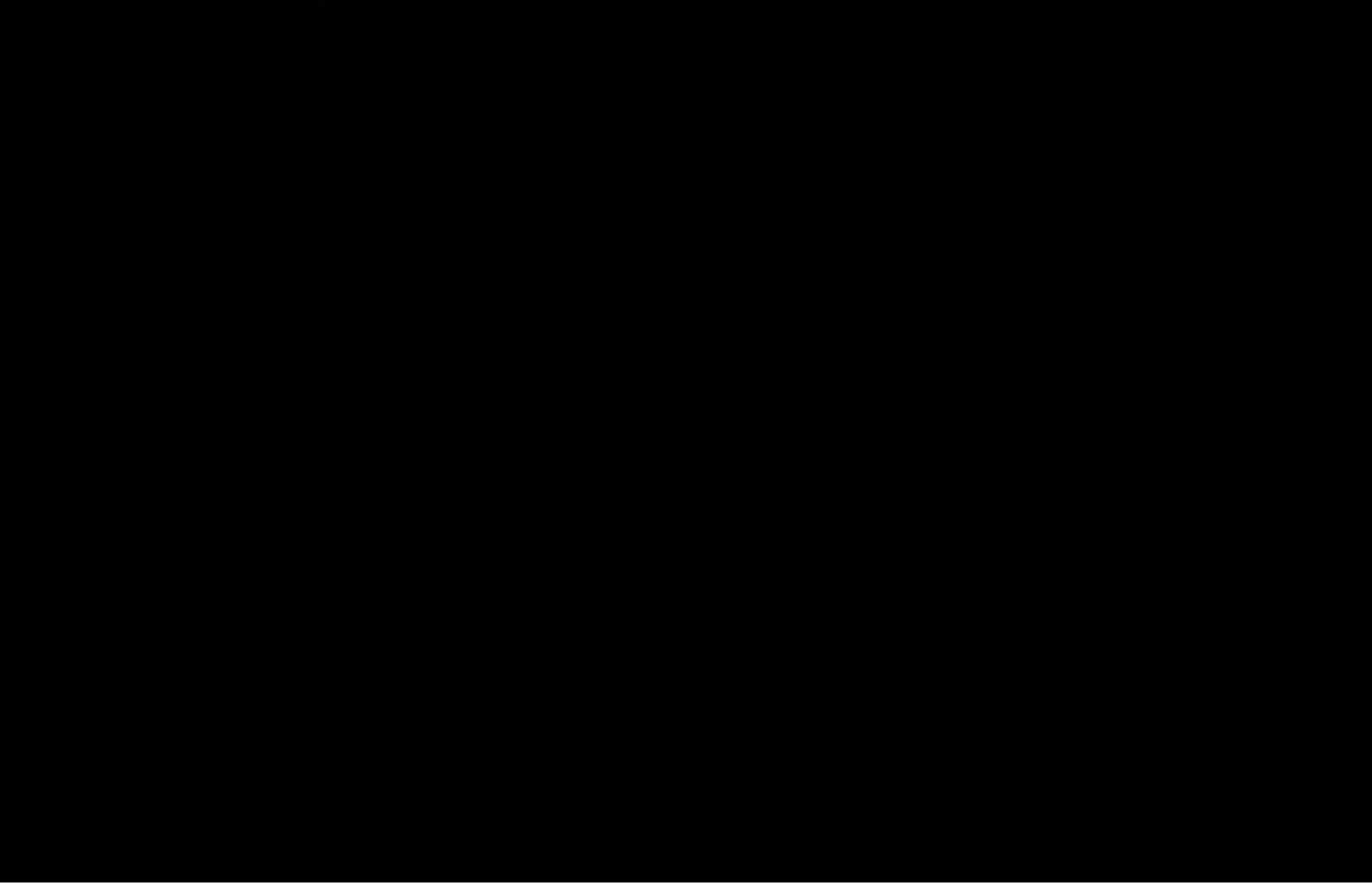
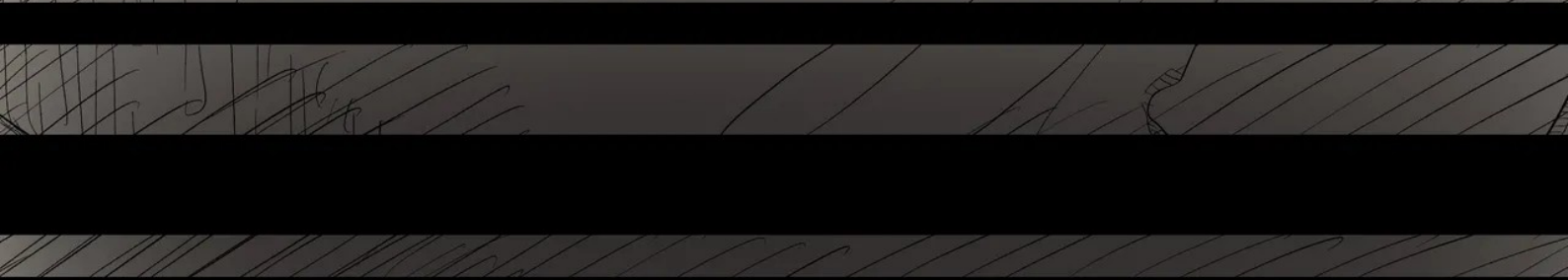
彼女が子供を欲しいと言ったあの日からしばらく経った頃……

彼女はついに子を孕んで……









僕達は……

僕達なりの愛の形を……

彼女と僕の愛の結晶と共に……

これからもずっとずっと一緒に……

完

文学女子に食べられる 6

サークル： ひまわりのたね
作： 種乃なかみ

2026/01/18

X (旧Twitter) : <https://twitter.com/3hsensei>
pixiv : <https://www.pixiv.net/users/12823252>